

徳島市農業振興ビジョン策定に係るアンケート調査結果

◆目次

I. 調査の概要	1
II. 調査の結果	3
1. 農業者へのアンケート調査	3
2. 小学生へのアンケート調査	22
3. 高校生へのアンケート調査	27
4. 大学生へのアンケート調査	37
5. 市民全般へのアンケート調査	47
6. 農や食に関わる市民へのアンケート調査	56
7. 飲食店へのアンケート調査	65
8. 対象者別の調査結果の比較	75

I. 調査の概要

1 調査の目的

徳島市農業・農村振興ビジョンを改定するにあたり、徳島市市民参加基本条例に基づき、市民参加の市政を推進することを目的として、農業者やその他市民の意見を広く拝聴し、参考資料として役立てるために実施した。

2 調査の実施時期

郵送：令和6年7月12日～7月31日

インターネット：令和6年7月17日～8月14日

3 調査の対象及び方法

	対象者	対象者の詳細	配布・回収方法	配布数	回収数	回収率
1	農業者	・徳島市農業委員 19名 ・徳島市農地利用最適化推進委員 17名 ・農事実行組合支部長 15名 ・農業士会員 16名 ・女性組織(生活グループ) 6名 ・中心経営体等 331名 (認定農業者法人、認定新規就農者含む)	郵送	404	170	42.1%
2	小学生	・出前授業を実施した小学生(小学校5年生)	直接	—	93	—
3	高校生	・徳島県立城西高校3年生(農業専攻)	直接	—	83	—
4	大学生	・徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校(市内在住者のみ)	直接	—	22	—
5	市民全般	・一般市民	インターネット	—	175	—
6	農や食に関わる市民	・市民菜園主 8名 ・市民菜園利用者 64名	郵送	72	46	63.9%
7	飲食店	・とくしまIPPIN店認定店のうち徳島市内店舗 119店	郵送	119	37	31.1%

4 主な調査項目

	対象者	主な調査項目
1	農業者	(1) 回答者の属性 (2) 農業経営の状況 (3) 農業労働力 (4) 今後の農業のあり方
2	小学生	(1) 出前授業について (2) 野菜や果物について (3) 「地産地消」の認知度 (4) 農業への興味
3	高校生	(1) 回答者の属性 (2) 農業への関わり (3) 農産物に対する考え方 (4) 今後の農業のあり方
4	大学生	(1) 回答者の属性 (2) 農業への関わり (3) 農産物に対する考え方 (4) 今後の農業のあり方
5	市民全般	(1) 回答者の属性 (2) 農産物に対する考え方 (3) 農業に対する考え方
6	農や食に関わる市民	(1) 回答者の属性 (2) 農産物に対する考え方 (3) 農業に対する考え方
7	飲食店	(1) 回答者の属性 (2) 農産物での仕入れについて (3) 農産物や農業に対する考え方 (4) IPPIN店の認定について

Ⅱ. 調査の結果

1. 農業者へのアンケート調査

■調査の概要

○対象者の詳細

- ・徳島市農業委員 19名
- ・徳島市農地利用最適化推進委員 17名
- ・農事実行組合支部長 15名
- ・農業士会員 16名
- ・女性組織（生活グループ） 6名
- ・中心経営体等（認定農業者法人、認定新規就農者含む） 331名

○配布・回収方法

- ・郵送

○回収数（配布数・回収率）

- ・170件（404件・42.1%）

■調査結果の概要

- 回答者の属性は、性別では、男性が約93%、女性が約7%。年代では、60代以上が約58%、50代が約19%、40代が約17%、30代以下が約7%である。
- 作付けしている主な農産物は、野菜（約67%）や水稲（約57%）の割合が高い。
- 経営耕地面積は、「1ha未満」が約38%、「1ha以上2ha未満」が約24%、「2ha以上」が約35%である。
- 世帯の農業収入は、「農業収入だけでは生活が厳しい（約52%）」の割合が最も高く、次いで「農業収入だけでなんとか生活している（約30%）」が高い。
- 所有している農地のうち、耕作していない農地がある回答者の割合は約29%であり、そのうち、「貸したい」または「売りたい」と考えている回答者は40%である。
- 5年前と比較した農業経営の状況は「悪くなった」が70%と割合が最も高い。
- 現在の農業経営で困っていることは、「販売価格（約67%）」、「気候変動（約48%）」、「人員不足（約34%）」、「後継者がいない（約32%）」の順で割合が高い。
- 農業後継者の有無について、「後継者がいる」は約29%、「後継者がいない」は約39%、「わからない」が約25%である。
- 今後（概ね10年）の農業経営について、「生産面積・所得ともに拡大を図る」が約19%、「生産面積は現状維持で所得の拡大を図る」が約26%、「生産面積・所得ともに

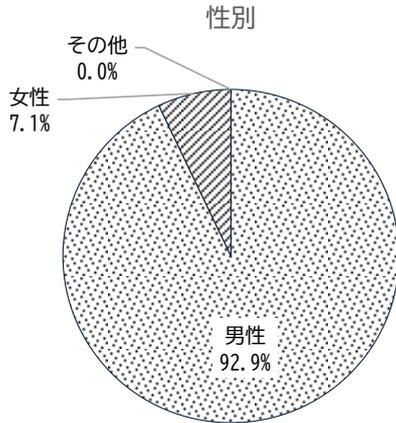
現状を維持する」が約 21%、「生産面積を縮小する」が約 16%、「農業経営をやめる」が約 12%である。

- 農業労働力について、「十分に確保できている」は約 2%にとどまり、「何とか確保できている」が約 69%、「確保できていない」が約 27%となっている。
- 地域計画の認知状況は半数程度、IPPIN 店の認定に関する認知状況は 3 割程度である。
- スマート農業について、「関心がある」は約 58%であり、そのうち利用意向がある回答者は約 62%である。利用してみたいスマート農業機器で多い機器は「ドローン（約 61%）」、「自動操舵システム（約 44%）」、「アシストスーツ（23%）」、「自動草刈機（23%）」などとなっている。
- 市民等による営農ボランティア制度の利用意向は、「利用したい（ぜひ利用したい+機会があれば利用したい）」が約 41%、「利用しない」が約 28%、「わからない」が約 29%となっている。
- 農業に対する考え方について、「そう思う（そう思う+ややそう思う）」の割合が高いものは、「農業が発展したらよいと思う（約 85%）」、「儲からない（約 84%）」、「忙しい（約 77%）」、「農作業がきつい（73%）」などとなっている。
- 新規就農者・農業後継者の育成に向けて必要なことは、「農業所得の向上と安定を図る（約 82%）」、「補助制度や融資の活用（約 53%）」、「農道、用排水路等の農業生産基盤を整備する（約 39%）」などの順で割合が高い。
- 改善が必要だと思う農業基盤は、「農地の水はけが悪い（約 49%）」、「ほ場が不整形（約 48%）」、「区画が狭い（約 43%）」の割合が高い。
- 本市農業の今後の進むべき方向については、「新規就農者が就農しやすく、農業経営を維持していけるような支援を行う（約 53%）」、「地域の担い手に農地を集積したり、作業を委託したりして、地域の農業を守る（約 52%）」、「耕作放棄地対策の充実を図る（50%）」などの順で割合が高い。

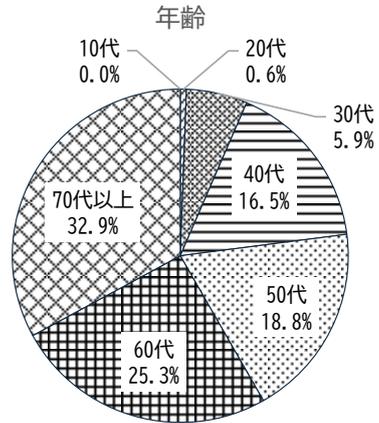
■調査の結果（注釈がない場合の回答者数は 170 件）

1. 回答者の属性

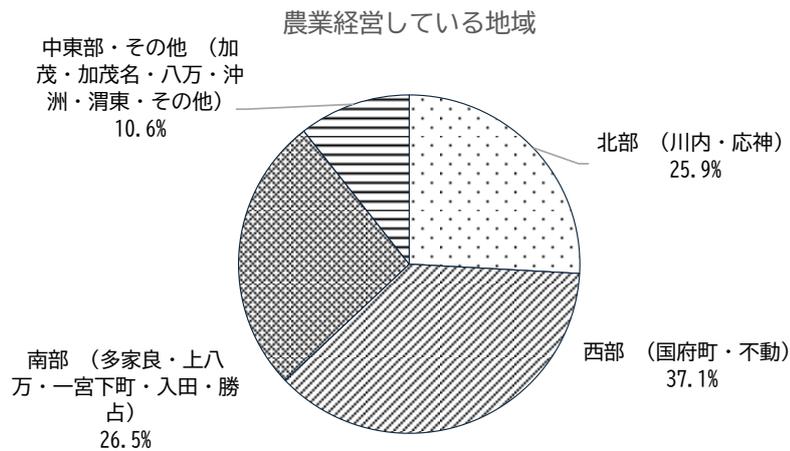
■回答者の性別



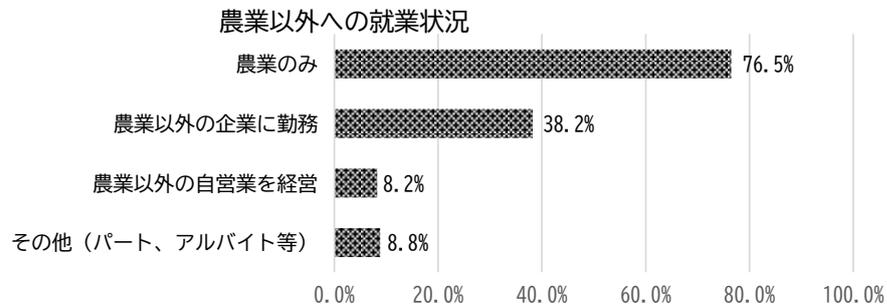
■回答者の年代



■農業経営をしている主な地域

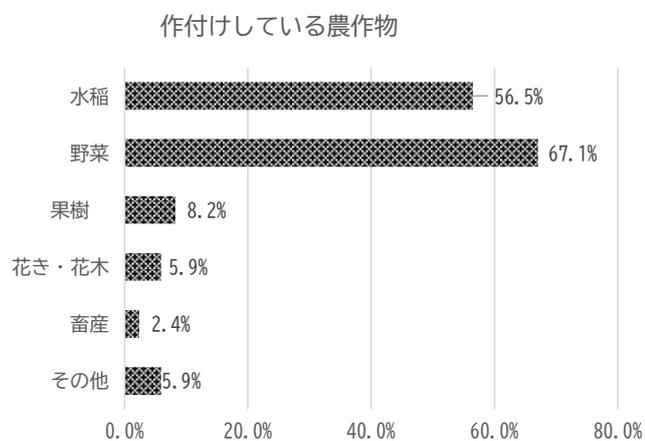


■回答者のご家族の就業状況（農業以外への就業状況）（複数回答）

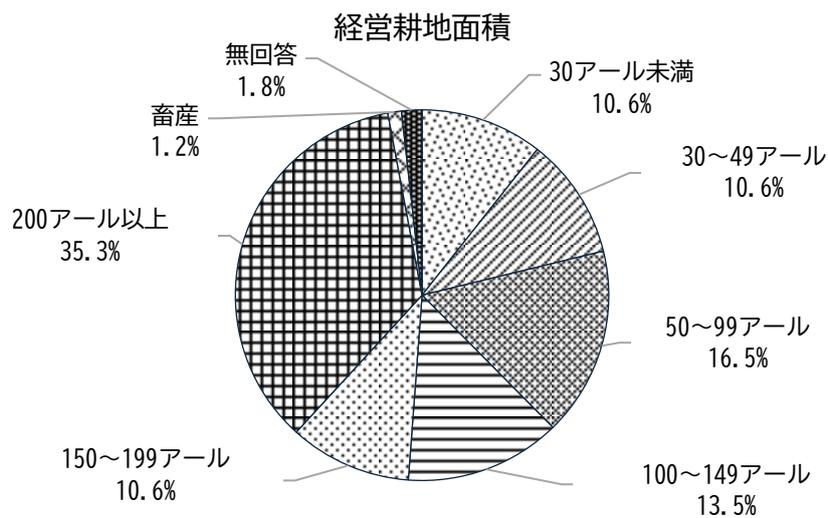


2. 農業経営の状況

(1) 作付けしている主な農作物（複数回答）

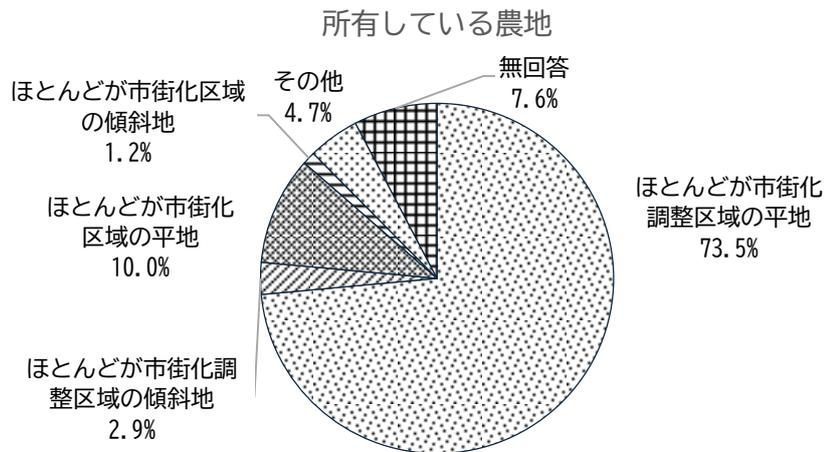


(2) 経営耕地面積

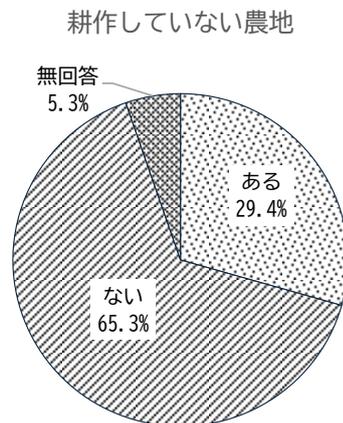


(3) 所有している農地

①所有している農地

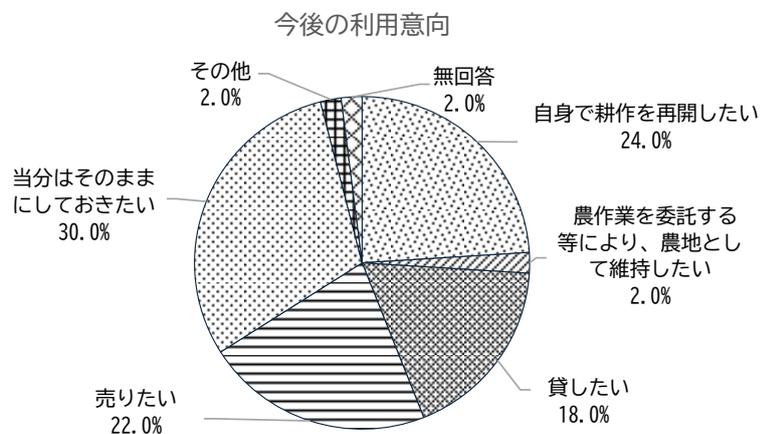


②①のうち耕作していない農地

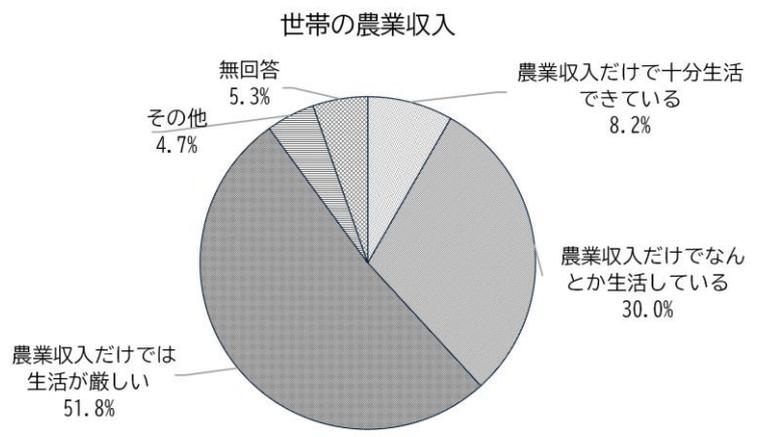


③②の農地に関する今後の利用意向

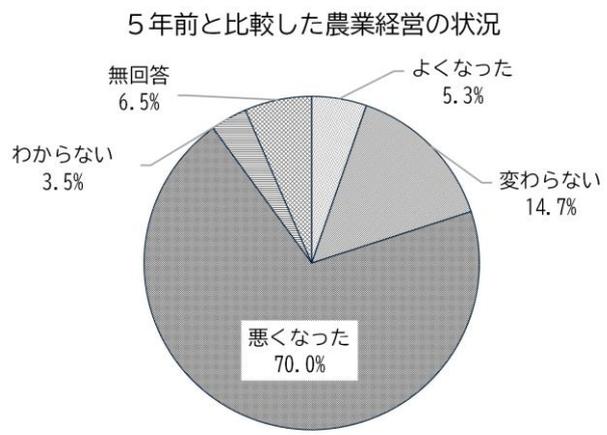
※①で「耕作していない農地がある」と回答した方（50名）が回答



(4) 世帯の農業収入

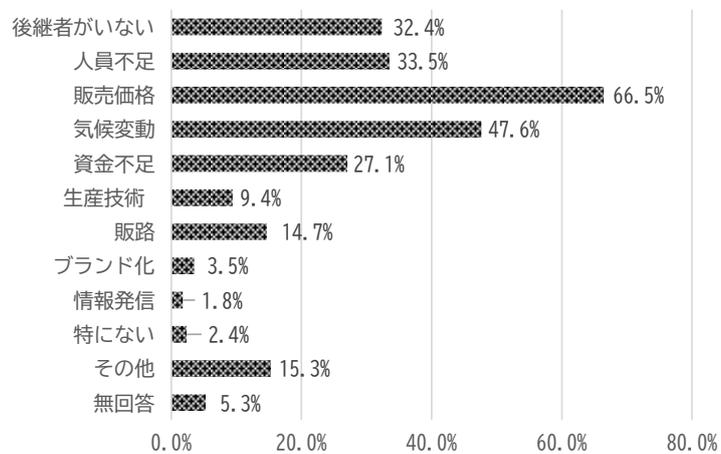


(5) 5年前と比較した農業経営の状況



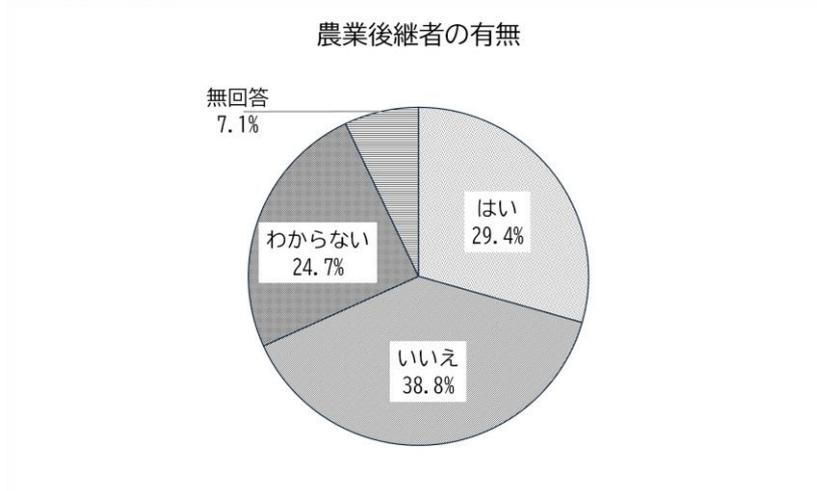
(6) 現在の農業経営において困っていること（複数回答）

現在の農業経営において困っていること



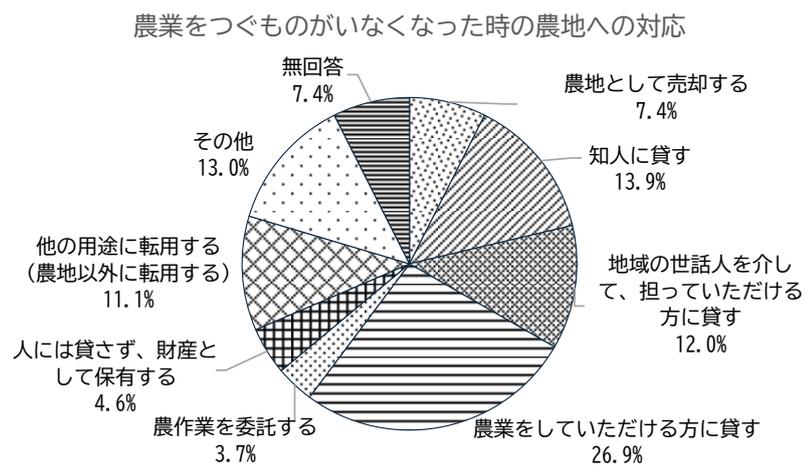
(7) 農業後継者

① 農業後継者の有無



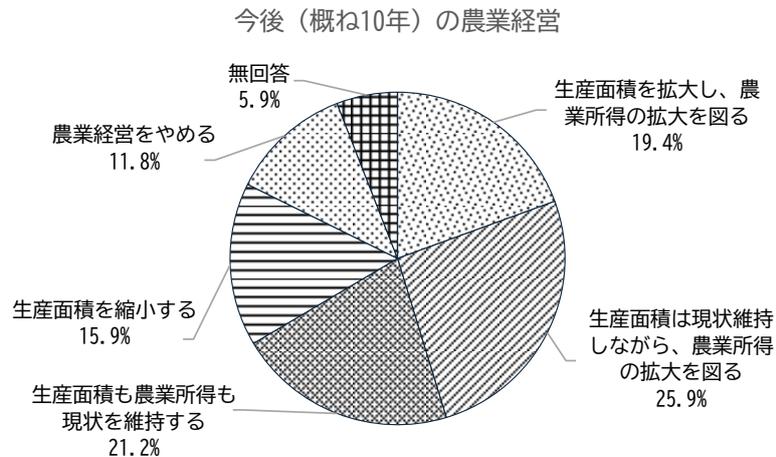
② 農業を継ぐものがなくなった時の農地への対応

※①で農業後継者が「いない」または「わからない」と回答した方（108名）が回答



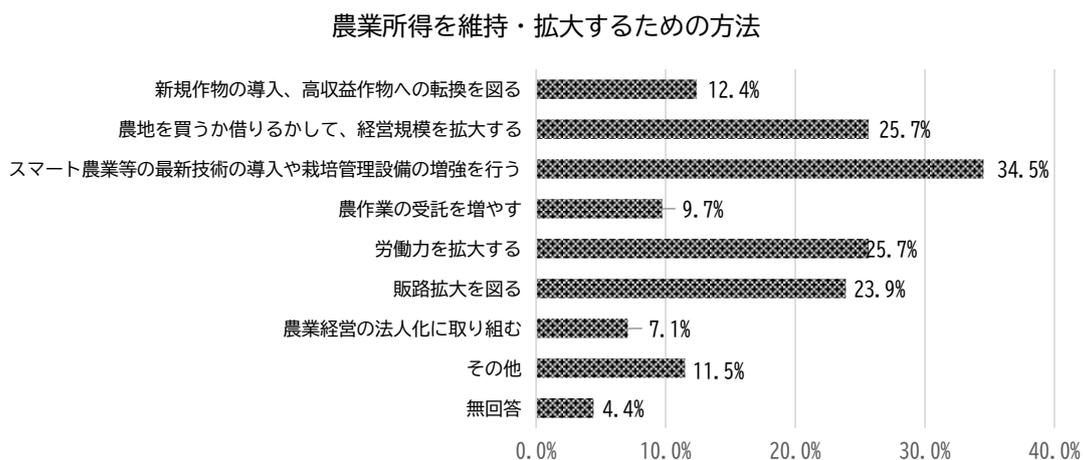
(8) 今後（概ね10年）の農業経営

① 今後（概ね10年）の農業経営



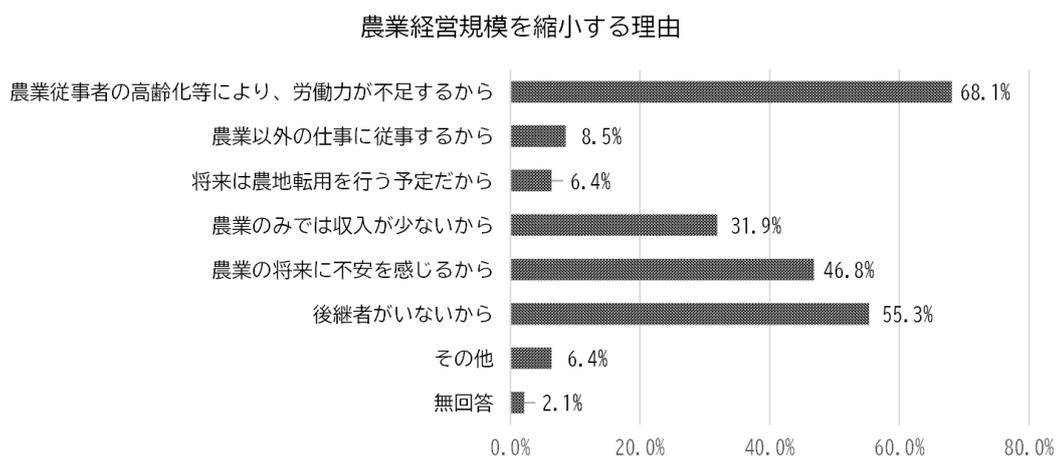
② 農業所得を維持・拡大するためにどのような方法（複数回答）

※①で「拡大」または「現状維持」と回答した方（113名）が回答



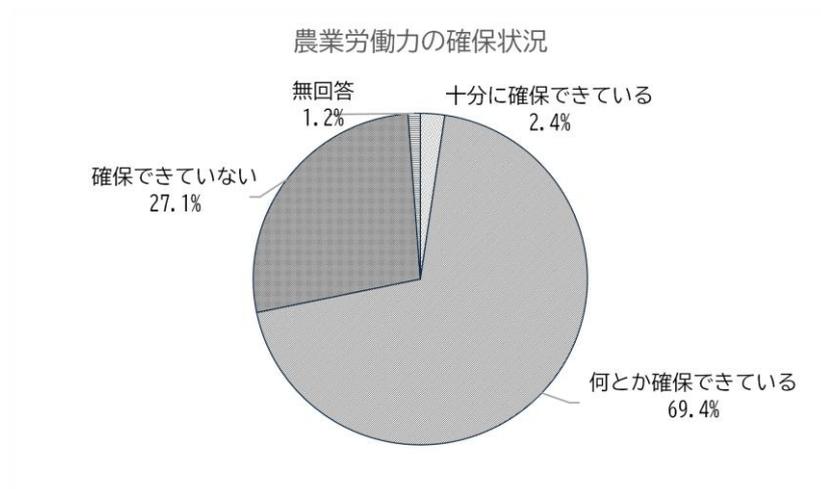
③ 農業経営規模を縮小する理由（複数回答）

※①で「縮小」または「農業経営をやめる」と回答した方（47名）が回答



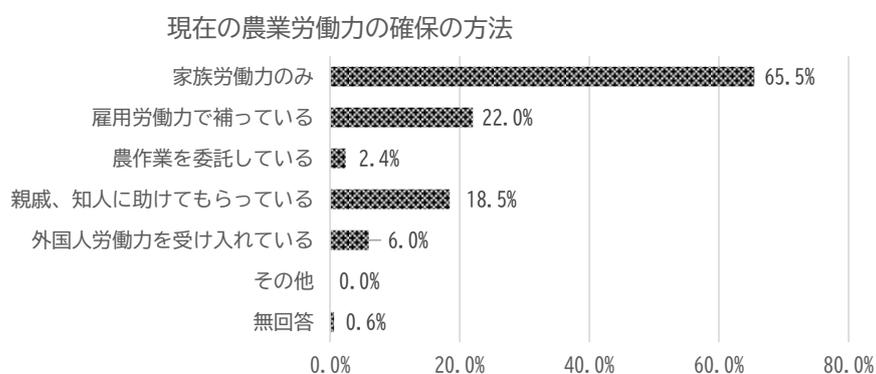
3. 農業労働力

(1) 現在のあなたの農業経営について、農業労働力の確保状況

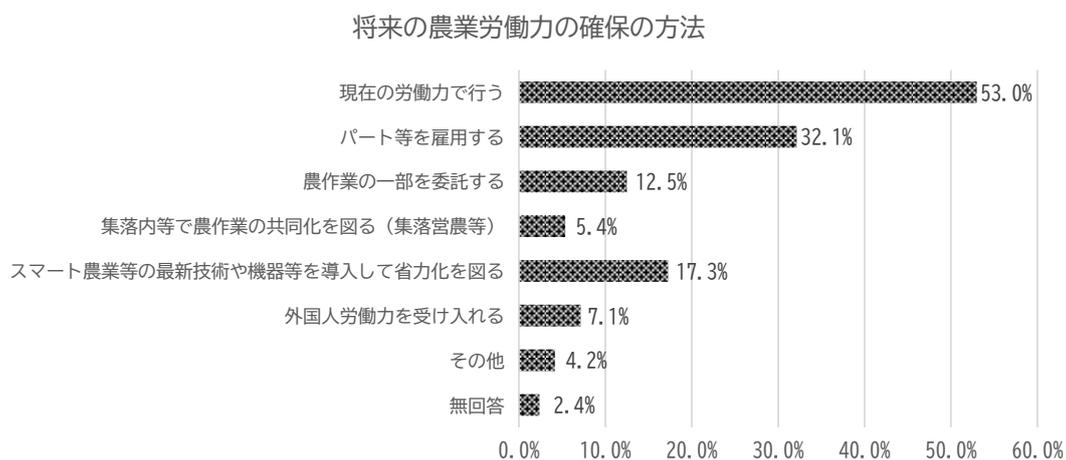


(2) 農業労働力を確保する方法

①現在の方法（複数回答）

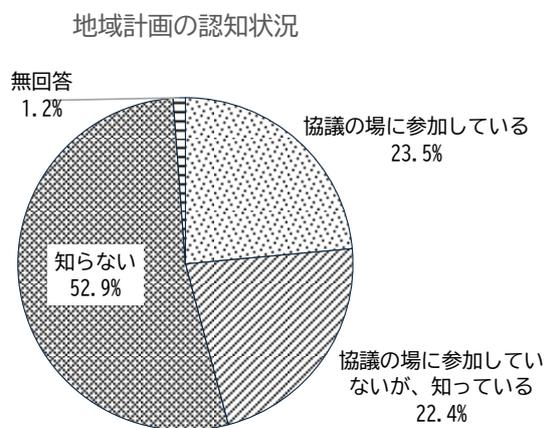


②将来（5～10年後）の方法（複数回答）

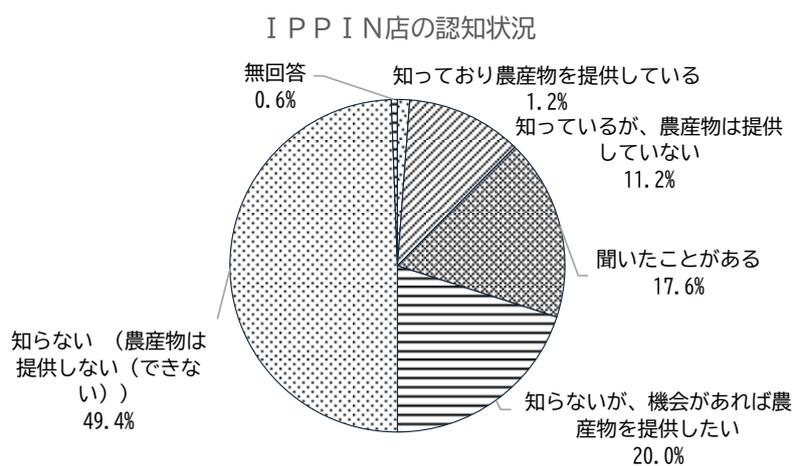


4. 今後の農業のあり方

(1) 地域計画（令和7年3月策定予定）の認知状況

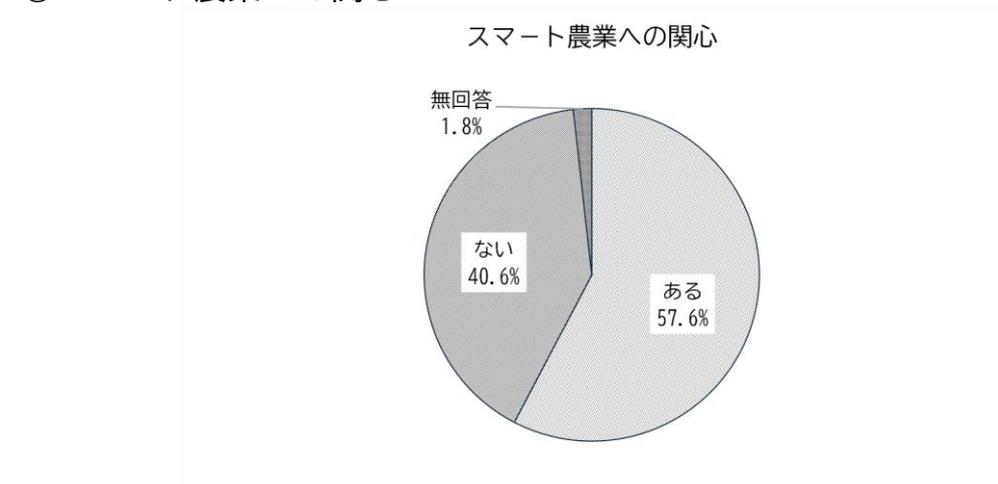


(2) 徳島市が IPPIN 店として認定していることの認知状況



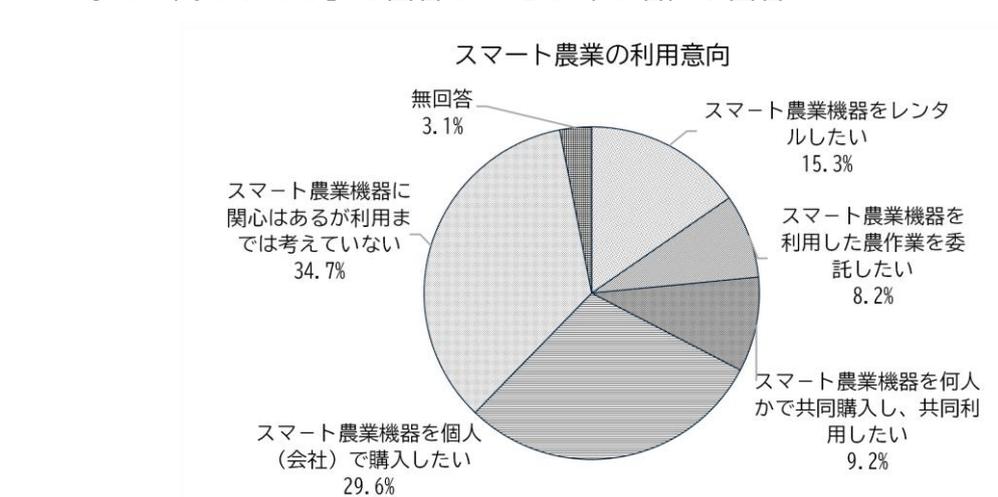
(3) スマート農業（ロボット・A I等の先端技術を活用した農業）について

①スマート農業への関心



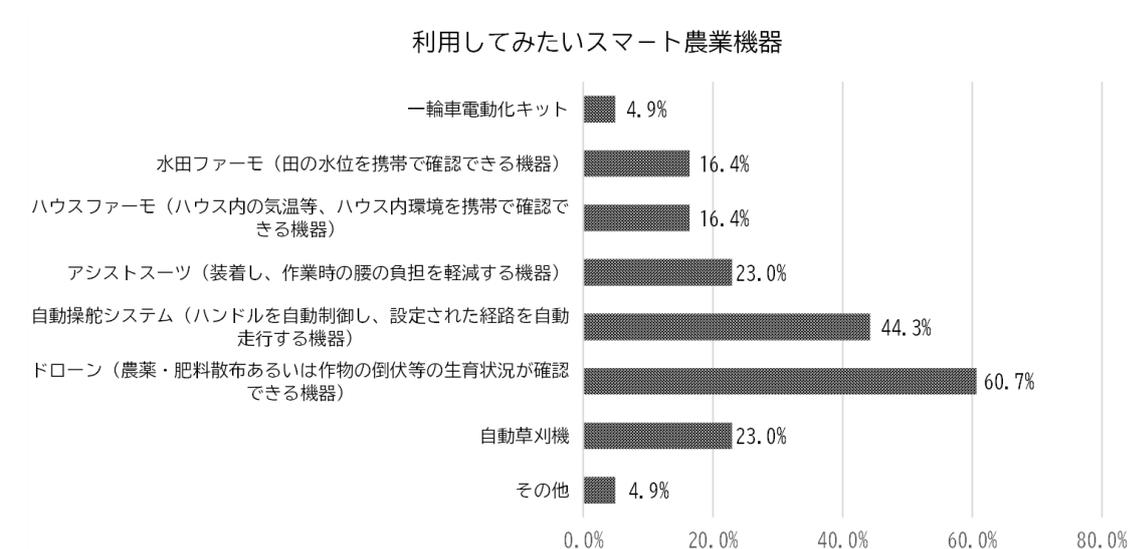
②スマート農業の利用意向

※①で「関心がある」と回答された方（98名）が回答



③利用してみたいスマート農業機器（複数回答）

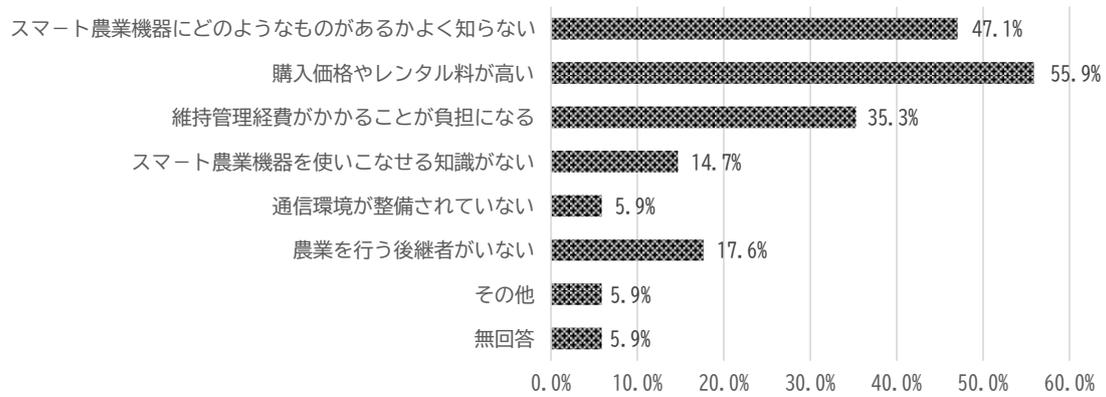
※②で何らかの方法で利用を考えている方（61名）が回答



④スマート農業の利用を考えていない理由（複数回答）

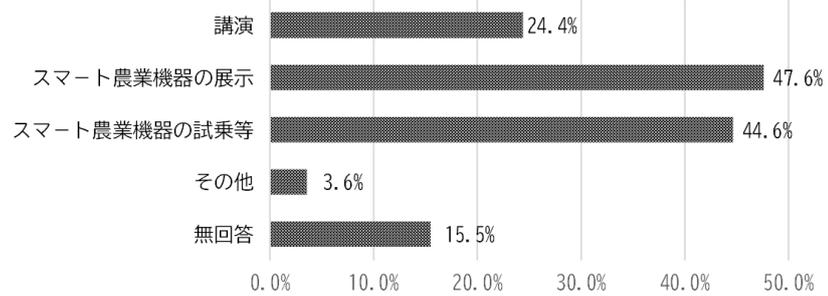
※②で利用を考えていない方（34名）が回答

スマート農業を利用しない理由



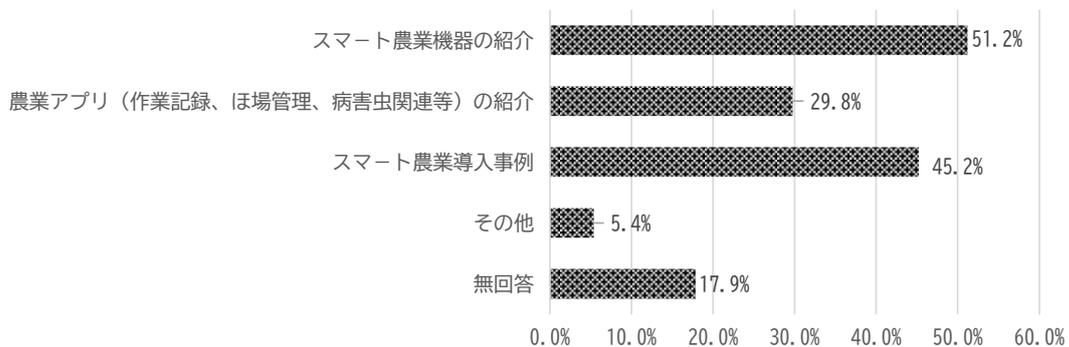
⑤スマート農業に関する研修への関心（複数回答）

スマート農業に関する研修への関心

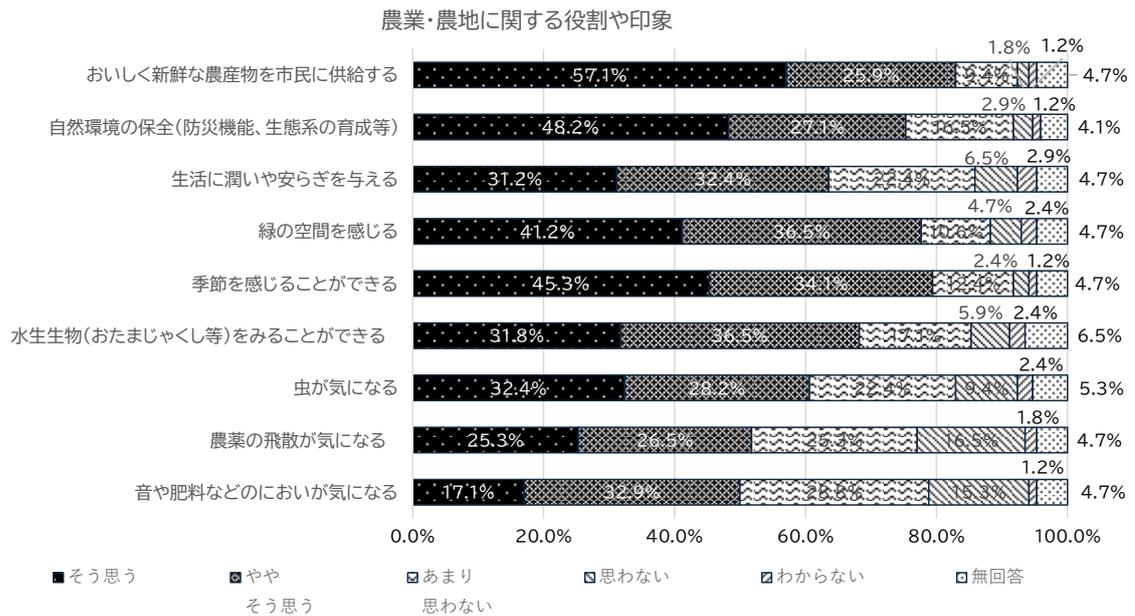


⑥スマート農業に関する講演会への関心（複数回答）

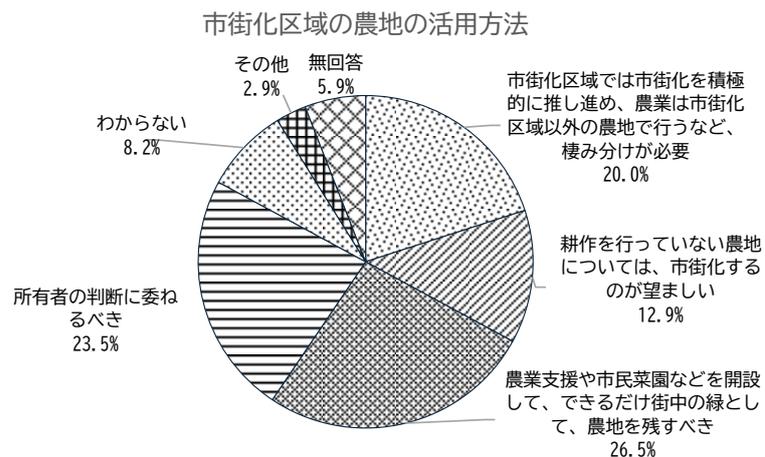
スマート農業に関する講演会の関心



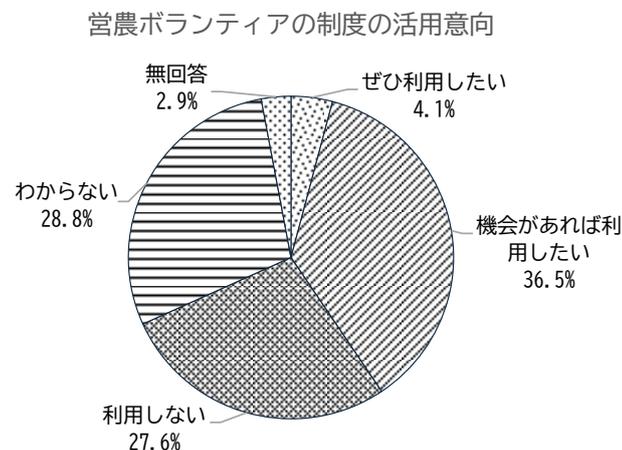
(4) 市内の農業・農地に関する役割や印象



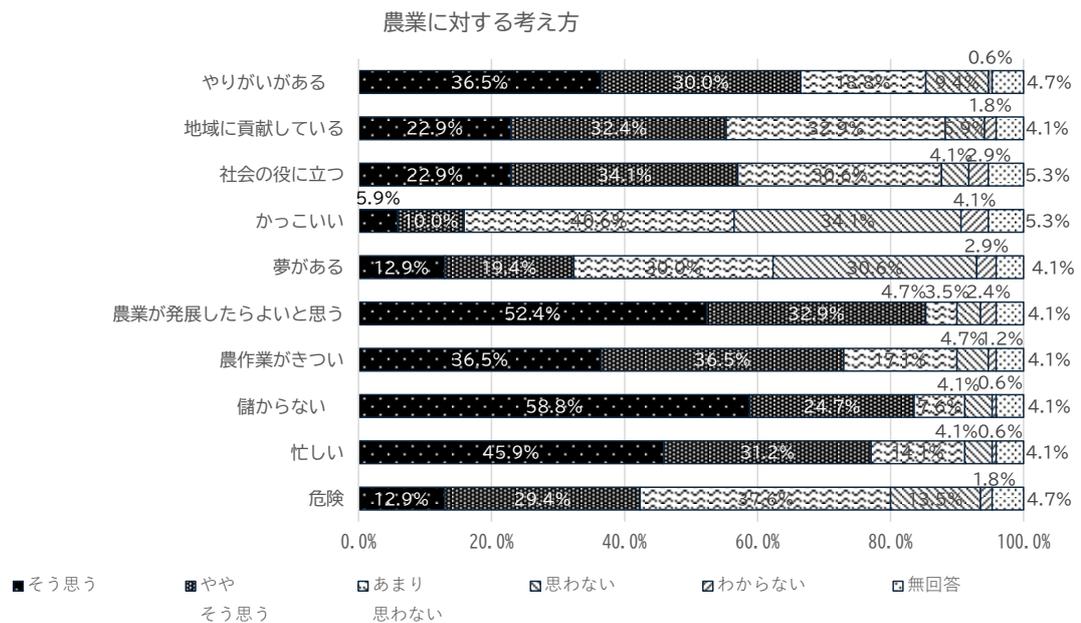
(5) 市街化区域の農地の維持に向けて望ましい活用方法



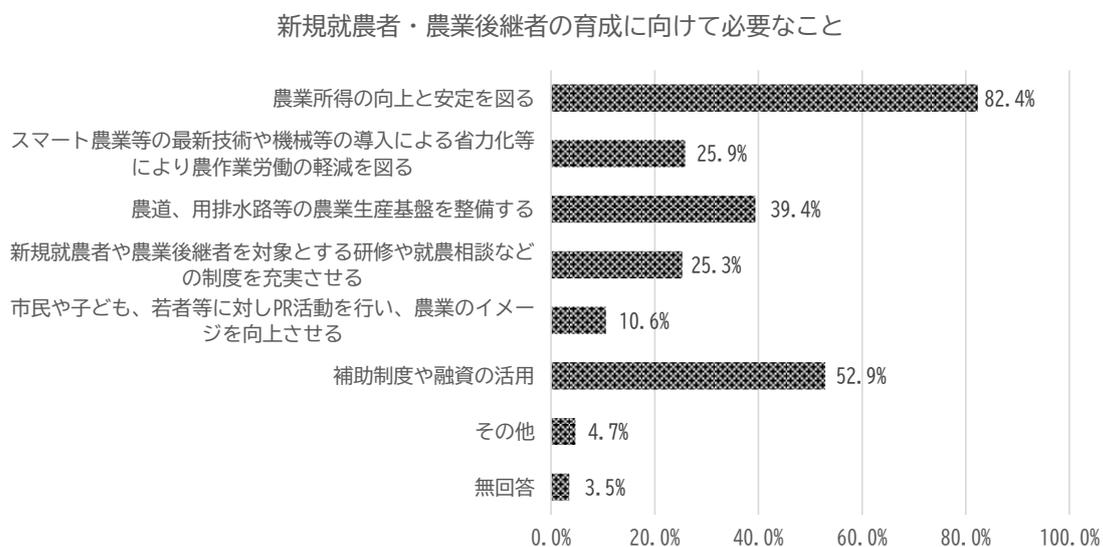
(6) 市民等による営農ボランティア制度を創設した場合の利用意向



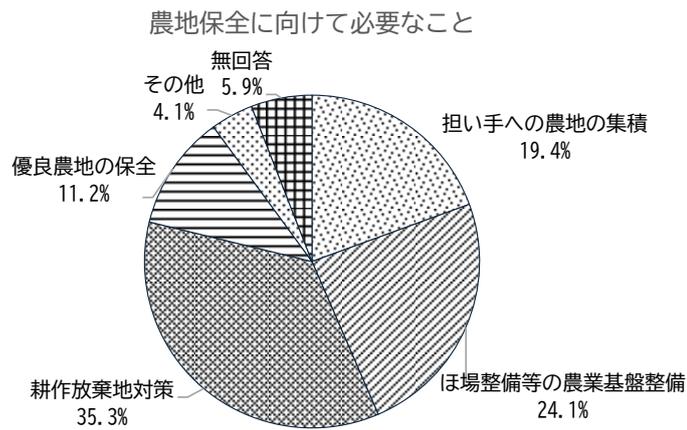
(7) 農業に対する考え方



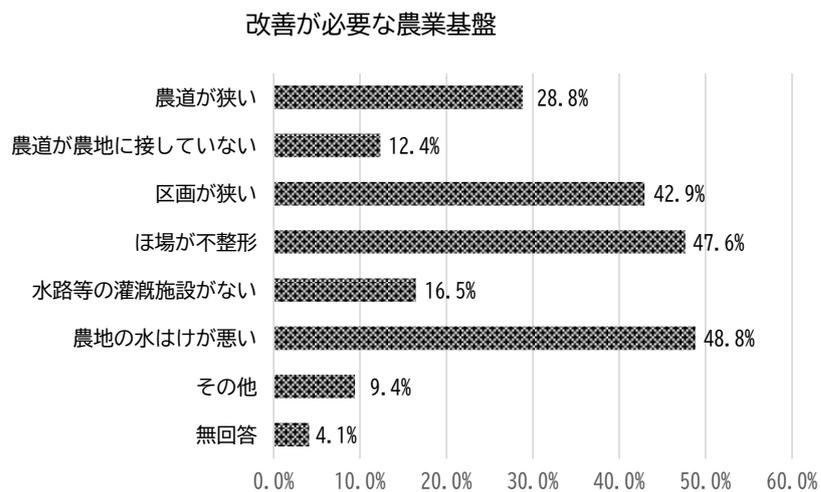
(8) 本市が新規就農者・農業後継者の育成に向けて必要なこと（3つまで回答）



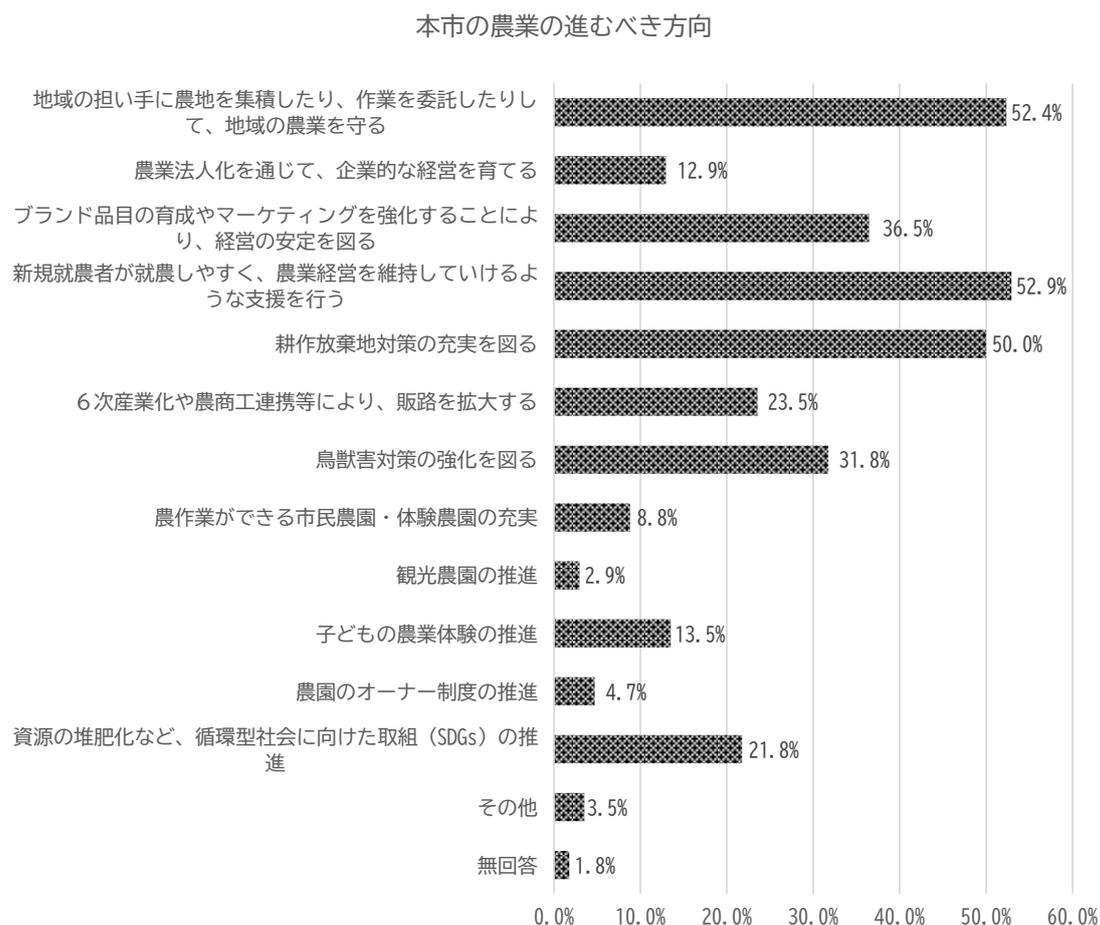
(9) 農地保全に向けて必要なこと



(10) 改善が必要だと思う農業基盤（3つまで回答）



(11) 本市農業の今後の進むべき方向（複数回答）



(12) 本市農業の今後のあり方（自由記述）

（収益の確保）

- ・ 農地は十分ある。農業で生活ができれば就農者は増える。市民、国民の命を養う業種は税制面を検討してほしい。
- ・ 農地の集積等を基本に対策が検討されていると思うが、小規模農業者についても経営が成り立つように対策を検討いただきたいです。
- ・ 販売価格の向上に向けて、市・県が積極的に国に働きかけてほしい。
- ・ 農業を維持するには、最近の天候不順、農薬、肥料等の値上がりで就農者は農業収入だけでは非常に生活は厳しい。そのため、農地を手放す農業経営者が目立っている。農業経営を維持していけるような支援が必要と思う。
- ・ 収入の確保ができる指導。
- ・ 労働力の過剰時代から不足時代へとパラダイムしている時に儲からない農業では誰もやろうとはしない。儲かる農業へ税金を使ってほしい（具体的にどこに何に使うかは分からないが）。

(資材・燃料費等の高騰)

- ・近年の肥料や資材の価格高騰により、農作物商品の価格が少々値上がりしても全く反映されていない。このままでは農業することができなくなる。
- ・資材費の高騰が農業収入に価格転嫁されない。現状を変えない限り農業経営は成り立たないと思う。
- ・補助金のある作物（そば、麦、大豆）を作ろうとしても専門的な機械が高すぎる。リースもない。作っても買ってくれるところがない。政策として成り立っていない。
- ・農業後継者はいるが、農機具が高価であり生産収入だけではとても成り立たない。農業を続けたくても続けられない。担い手に本当に必要な補助金を推進して農業を守ってほしいです。

(担い手の確保)

- ・私の地域は水稻を作付している人が多いが、団塊の世代の人がほとんどだ。みなさん後継者がいなく、機械が壊れたら買い替えはできないため、ほとんどの人がやめると言っている。
- ・市の農業維持のためにも学校給食や病院、各種施設給食への積極的な（市農産物の）利用を推進し、魅力ある産業に育成してほしい。
- ・担い手に個人、企業、JA等が複合的にやっていくべきである。
- ・各地域で耕作放棄地が増え農業従事者の高齢化が進み、担い手や後継者が不足しているところばかりです。行政として早く対応をはかっていただきたいと思います。
- ・農業従事者が不足しており、地域計画と合わせてしっかりとした対策、具体的な目標を決めて実施すべき。

(支援)

- ・コロナ禍の頃、飲食店や他の職業の方は多くの支援があったが、農業に対してはあまり恩恵を受けることがなかったと思います。何かしらの支援をお願いしたい。
- ・主食である米作りにもっと力を入れて取り組んでほしい。米の値段を上げる、鳥獣害対策の費用を負担するなど。
- ・農業従事者それぞれの現状に合わせた補助等の種類を増やしてほしい。
- ・販売農家に対しての補助をしてほしい。
- ・大規模農家の支援のあり方を考えて欲しい。
- ・新規就農時に補助金を活用しても、その後離農してしまうケースが多いと聞く。補助金を出す限り、追跡調査等を行い、その後の取組を確実に把握すべき。
- ・家業を継ぎ、農地を守って、まじめに取り組んでいる農業後継者については、しっかりと支援していくことが大事。物価高騰の中、野菜への価格転嫁もなかなか進まない中、レンコン、サツマイモ、カリフラワー、ブロッコリーなど、県外に誇れる野菜の

産地として、徳島市として農地を守るとすれば、農地を拡大する農家等にさらなる支援・補助を望みます。

- ・農業は品目により収益に差が生じており資金繰りに苦慮している農家も多くなっている。農地、作業機械はそろっているものの（特に若い人は）廃業、転職を考えざるを得ない状況にあるため、実態調査をして市単独、県や国にも支援策を講じてほしい。

（インフラ整備・圃場整備）

- ・インフラとしての農道や排水などの整備、改修など。
- ・サツマイモは畑の土壌が重要であり、近年は手入れ砂の入手が困難であるため、品質の維持が難しくなっている。手入れ砂の入手ができる様な取組を考えて欲しい。
- ・農業で生産性を上げるには圃場整備が不可欠であるが、1人でも反対派がいれば出来ない。国・県・市が農地を購入し、農業法人等に貸付け（有料）る。儲ければ所得税が増える。
- ・経費が高止まりしているため、効率よく高品質なものを栽培するしかない。そのために、土地の大区画化、集積、排水路の整備等必要（地域に合った整備が大事）。
- ・中山間地域は鳥獣被害の拡大が進んでいる。地域をあげた対策が必要であり、神山町、佐那河内村、上勝町等対策を見習うことが重要である。中山間地域は狭小農地が多く集積は現状困難である。調整区域を無くし、防災対策（津波等）に転換すべきである。

（市街化区域内農地）

- ・市街化区域の農家は税金の負担に耐えられず、調整区域の農家も畜産農家も農地が処分できずに困っています。もうそろそろ市街化区域、調整区域（線引き）を廃止にすべきではないでしょうか。
- ・毎年、農業委員会から市長への提言で農地への都市計画税の見直しが言われ、市議会においても同様の質問が数年おきになされるが、市側の回答は「調査研究をした上で検討したい」の繰り返しである。その間に、コロナ禍やウクライナ戦争を発端に野菜の価格低迷、資材高騰の上に生産者の高齢化と儲からない農業を続けられない後継者などの理由がある上に都市計画税の負担が重い。沖洲・金沢地区では、この10年で渭東ねぎの作付農地が約20%減少。生産者も10名が離農し、その多くが市街化農地であり、農業をやめる理由の一つに都市計画税の負担がある事は重く受け取ってほしい。認定農業者などに限り、税の減免を早急に対策していただきたい。防災面でも都市農地の重要性は行政側も考慮してほしい。

（その他）

- ・農業推進委員として、土地を作物別に集約化し、スクラムを組んだ作物化を進めるために努力しています。

- ・農業の大型化が進み、田んぼの中だけ耕し、田んぼのまわりは気にしていない。昔から、「隣地との境は草を生やさない、迷惑をかけない」と教えられてきた我々にとっては怒り以外の何ものでもないですが、若い人に聞くと「気にならない」と言います。我々の考え方は今の農業には向いていないのでしょうか。
- ・スマート農業、6次産業化、SDGs など、時流に流されるような施策に重点を置かないでいただきたい。スマート農業などは成熟した後に有効なもののみを取り入れていけばよい。率先してやるものではない。担い手の農地集積、生産及び販売対策、農業基盤整備、鳥獣害対策など、「地味だが実施しなければならないこと」をしっかりと行える体制を整えてください。

2. 小学生へのアンケート調査

■調査の概要

- 対象者の詳細
 - ・小学校5年生（3クラス） 93名
- 配布・回収方法
 - ・JAの方による出前講座の後に直接
- 配布・回収数
 - ・93件

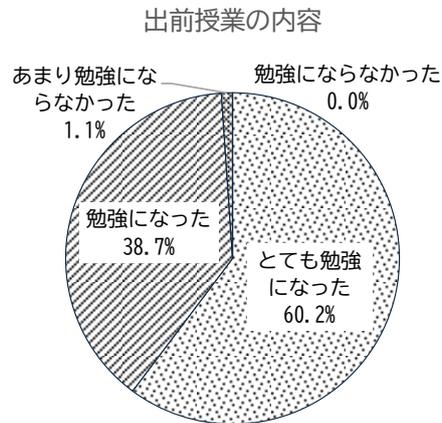
■調査結果の概要

- 出前授業の内容について、「とても勉強になった」が約60%、「勉強になった」が約39%となっている。
- JA担当者からのお話について、「分かりやすかった」が約85%、「少し難しかった」が14%、「難しかった」が約1%となっている。
- 好きな野菜や果物があるものは約95%で、品目は枝豆（22件）、トマト（18件）、きゅうり（18件）、いちご（15件）、みかん（14件）などと続いている。野菜や果物の好きな理由は多い順に味（89件）、食感（63件）、におい（29件）、その他（15件）となっている。
- 一方で、苦手な野菜や果物があるものは約85%で、品目はなすび（35件）、トマト（29件）、ゴーヤ（21件）、ピーマン（20件）、きのこ（19件）などと続いている。野菜や果物の苦手な理由は多い順に味（78件）、食感（60件）、におい（51件）、その他（15件）となっている。
- 「地産地消」の認知状況は、「聞いたこともないし、意味もわからない」が最も多く約39%、「聞いたことはあるが、あまり意味がわからない」が約32%、「聞いたこともあるし、意味もわかっている」が29%となっている。
- 農業への興味は、「自宅の庭やベランダで野菜などを育ててみたい（約37%）」、「農業体験をしてみたい（約30%）」、「農業に関連するイベントに参加してみたい（約15%）」の順で割合が高くなっている。

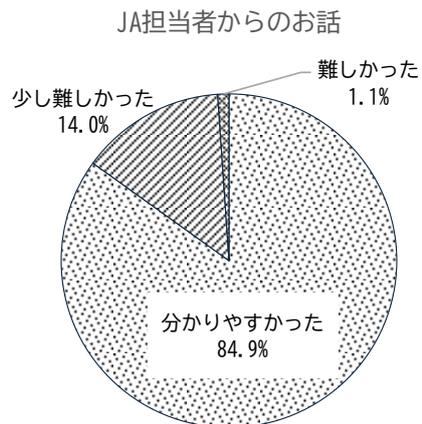
■調査の結果（注釈がない場合の回答者数は 93 件）

1. 出前授業について

（1）出前授業の内容



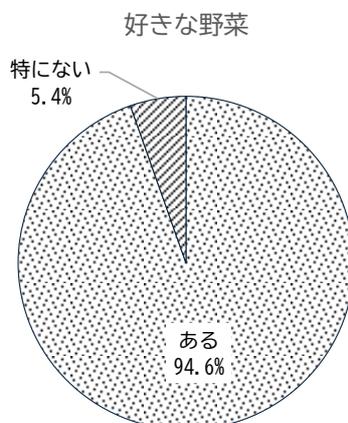
（2）JA担当者からのお話について



2. 野菜や果物について

(1) 農作物の中で、好きな野菜や果物

①好きな野菜や果物の可否



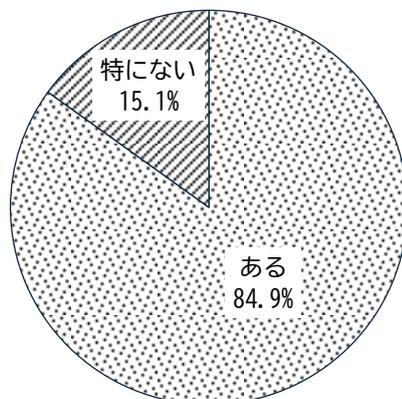
②好きな野菜や果物の種類と理由（複数回答）

名称	回答者数	味	におい	食感	その他
枝豆	22	10	3	6	3
トマト	18	10	2	5	1(中の種)
きゅうり	18	8	0	8	2(さわやかな風味)
イチゴ	15	9	2	4	0
みかん	14	5	4	4	1(皮)
シャインマスカット	13	4	3	5	1
トウモロコシ	9	5	2	2	0
リンゴ	8	4	0	4	0
なすび	7	3	1	2	1(色)
マンゴー	6	3	1	1	1(見た目)
スイカ	6	2	1	2	1
さつまいも	5	2	1	2	0
ぶどう	5	2	1	2	0
玉ねぎ	5	1	1	1	2
キャベツ	4	2	0	2	0
果物	4	2	1	1	0
ミニトマト	4	1	1	1	1
さくらんぼ	4	1	1	1	1
ブロッコリー	3	2	0	1	0
オクラ	3	1	1	1	0
小松菜	3	1	1	1	0
ピーマン	3	1	1	1	0
もも	3	1	1	1	0
マスカット	2	2	0	0	0
レタス	2	1	0	1	0
にんじん	2	1	0	1	0
ニンニク	2	1	0	1	0
バナナ	2	1	0	1	0
なし	2	1	0	1	0
青菜	1	1	0	0	0
ドラゴンフルーツ	1	1	0	0	0
合計	196	89	29	63	15

(2) 農作物の中で、苦手な好きな野菜や果物

① 苦手な野菜や果物の可否

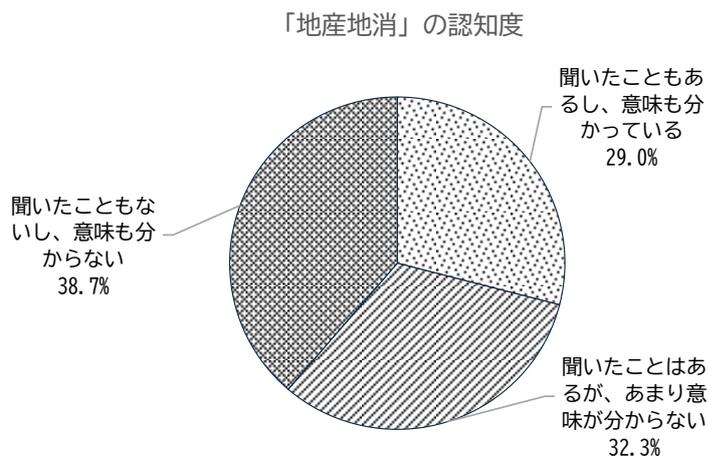
苦手な野菜



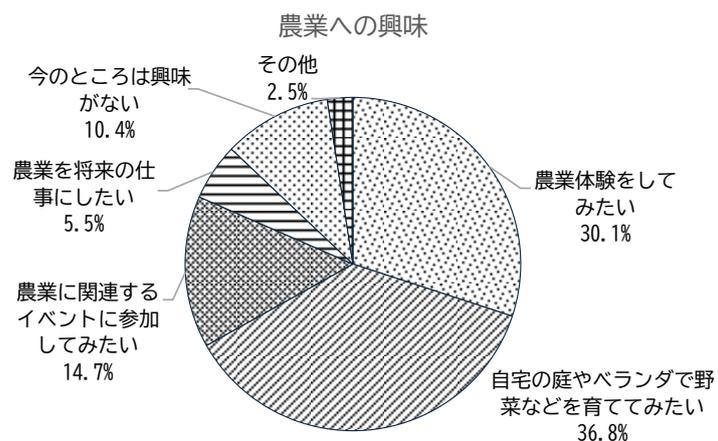
② 苦手な野菜や果物の種類と理由（複数回答）

名称	回答者数	味	におい	食感	その他
なすび	35	12	8	14	1(見た目)
トマト	29	8	8	6	7(汁,見た目)
ゴーヤ	21	10	6	4	1
ピーマン	20	10	5	4	1(見た目)
きのこ	19	6	4	6	3(見た目)
アボカド	10	4	3	3	0
ほうれん草	7	3	1	3	0
レーズン	5	2	1	2	0
野菜	4	2	1	1	0
トウモロコシ	4	1	1	2	0
パプリカ	4	1	1	1	1(見た目)
ネギ	4	1	2	0	1(見た目)
ズッキーニ	3	1	1	1	0
かぼちゃ	3	1	1	1	0
きゅうり	3	1	1	1	0
グリーンピース	3	1	1	1	0
葉物	3	1	1	1	0
イチゴ	3	1	1	1	0
果物	3	1	1	1	0
オクラ	2	1	0	1	0
玉ねぎ	2	1	0	1	0
豆	2	1	1	0	0
小松菜	2	1	0	1	0
タケノコ	2	1	0	1	0
カリフラワー	2	1	1	0	0
レタス	2	1	0	1	0
しいたけ	2	0	1	1	0
にんじん	1	1	0	0	0
リンゴ	1	1	0	0	0
グレープフルーツ	1	1	0	0	0
マンゴー	1	1	0	0	0
かぶ	1	0	0	1	0
合計	204	78	51	60	15

3. 「地産地消」の認知状況



4. 農業への興味（複数回答）



3. 高校生へのアンケート調査

■調査の概要

- 対象者の詳細
 - ・徳島県立城西高校3年生（農業専攻）
- 配布・回収方法
 - ・直接
- 配布・回収数
 - ・83件

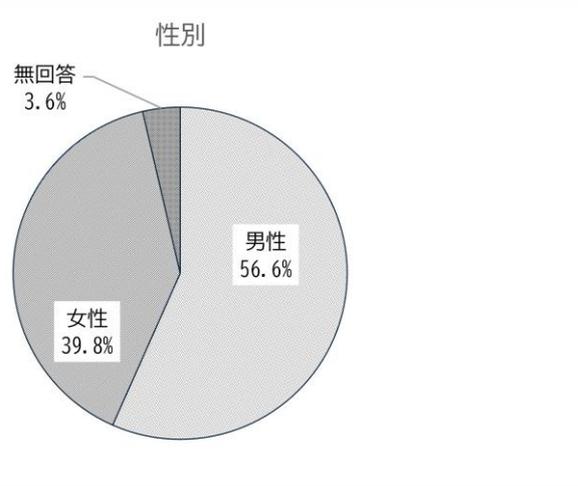
■調査結果の概要

- 回答者の属性は、男性が約57%、女性が約40%。農業後継者は約4%（3名）である。
- 栽培経験は、野菜（約74%）や水稲（約33%）、花き（約30%）の栽培経験の割合が高く、興味・関心がある農業分野は野菜（約34%）、無回答（約33%）、果樹（約25%）が高い。
- 農業に対する考えは、「地域に貢献している（約63%）」、「農業が発展したらよいと思う（約61%）」、「社会の役に立つ（約55%）」の順で「そう思う」の割合が高い。
- 将来の農業への関わり意向は、「農業以外の企業に就職したい（約31%）」、「わからない（約24%）」、「農業以外の大学へ進学したい（約17%）」などとなっている。
- ブランド化推進品目の進めるべき取組は、「農産物（野菜）の宝庫」というイメージで、今後とも販路拡大を目指すのがよい（約34%）」、「品目をもっとしぼって、市のイメージ付けをしたほうがよい（約31%）」の割合が高くなっている。
- 新規就農者・農業後継者の育成に向けて必要なことについては、「農業所得の向上と安定を図る（約52%）」、「市民や子ども、若者等に対しPR活動を行い、農業のイメージを向上させる（約43%）」の割合が高い。
- スマート農業に関心が高いものは約55%で、関心が高いスマート機器は「栽培に係る技術の活用（約40%）」、「販売・情報発信に係るICTの活用（約33%）」だが、「特に興味はない」ものも多い（約30%）。
- 有機農業への関心については、「わからない（約33%）」が最も多く、「機会があれば取り組んでみたい（約29%）」、「関心はない（約28%）」と続く。
- 営農ボランティア制度は、「利用したい（ぜひ利用したい+機会があれば利用したい）」が約48%、「わからない」が約27%、「利用しない」が約24%となっている。
- 本市農業の今後の進むべき方向は、「地域の担い手に農地を集積したり、作業を委託したりして、地域の農業を守る（約55%）」、「6次産業化や農商工連携等により、販路を拡大する（約46%）」の割合が高くなっている。

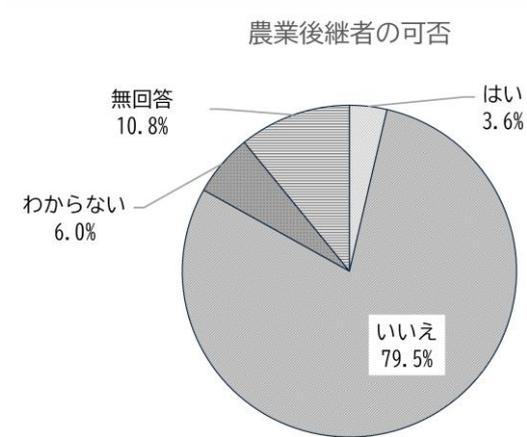
■調査の結果（注釈がない場合の回答者数は 83 件）

1. 回答者の属性

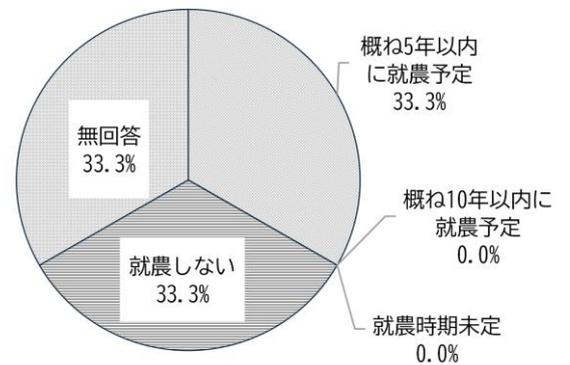
■回答者の性別



■農業後継者の可否



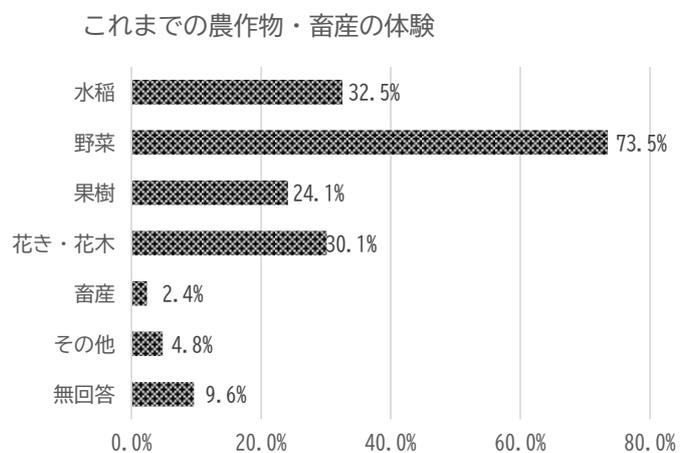
農業後継者の就農意向



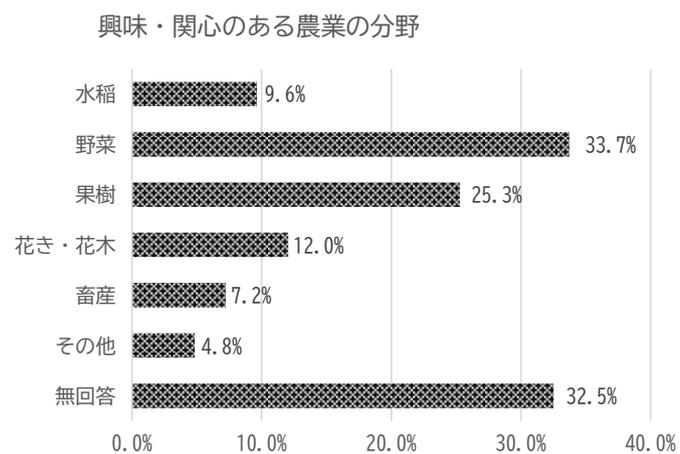
※「農業後継者である」と回答した方（3名）が回答

2. 農業への関わり

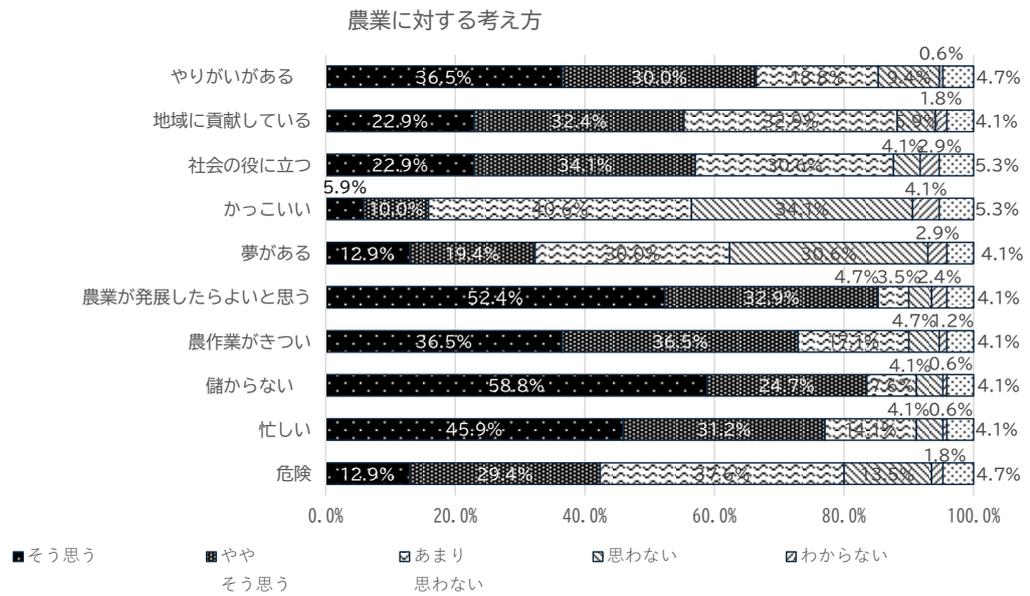
(1) これまでの農作物や畜産の体験（授業等含む）（複数回答）



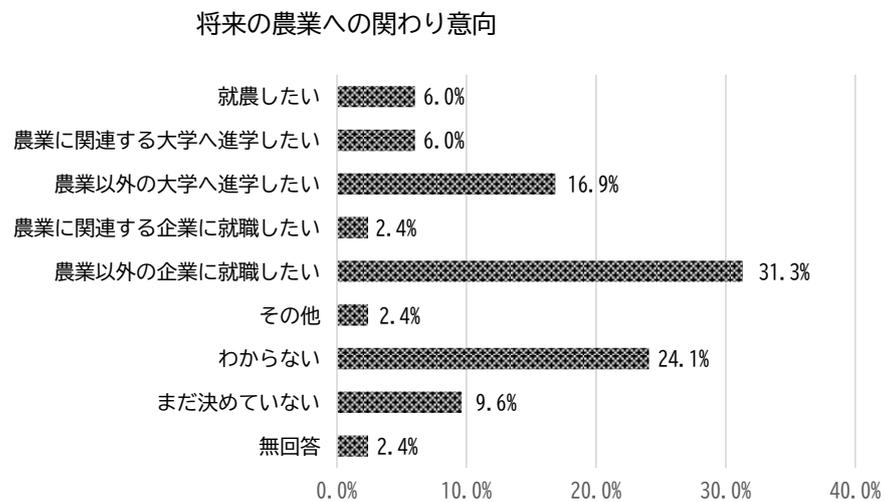
(2) 興味や関心がある農業の分野（複数回答）



(3) 農業に対する考え



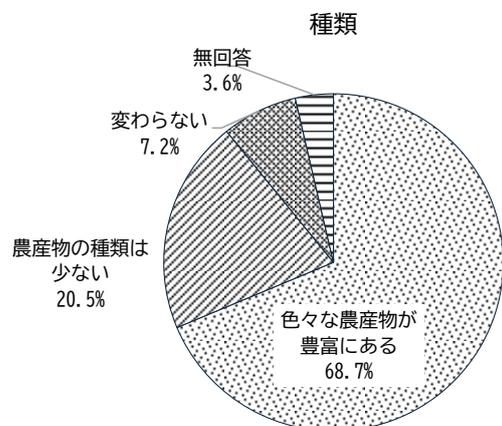
(4) 将来の農業への関わり意向 (複数回答)



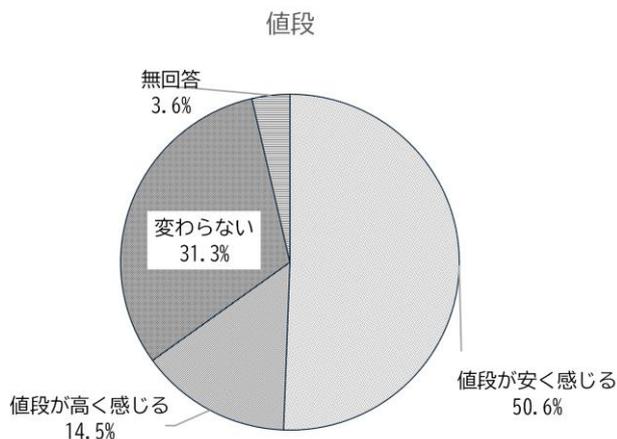
3. 農産物に対する考え方

(1) 地元産の農産物に対するイメージや評価

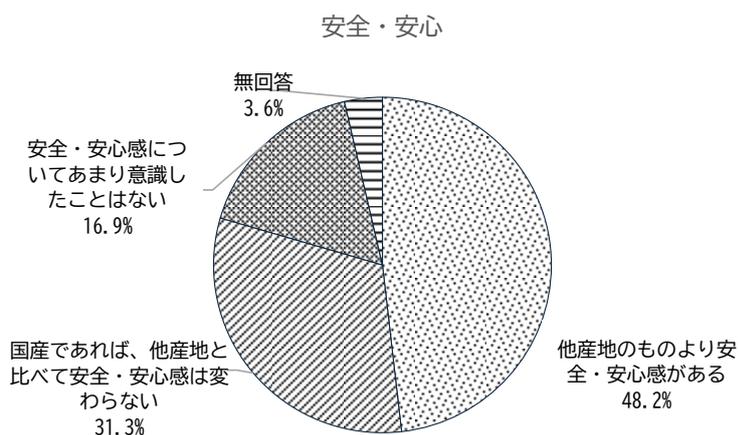
■種類



■値段

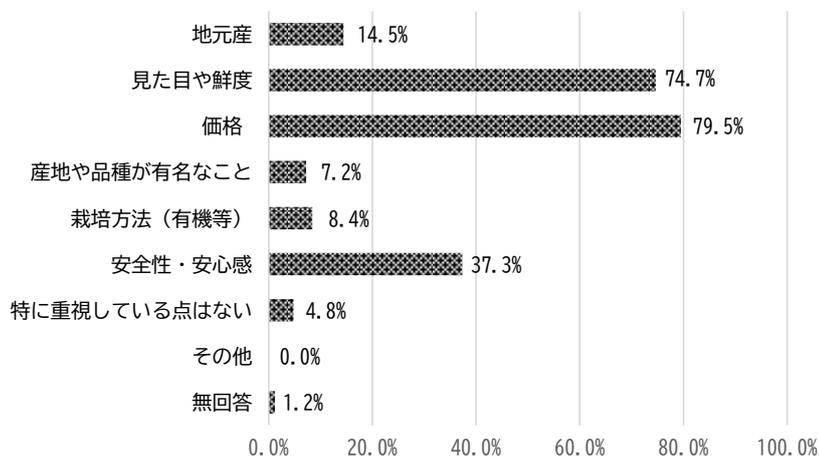


■安全・安心

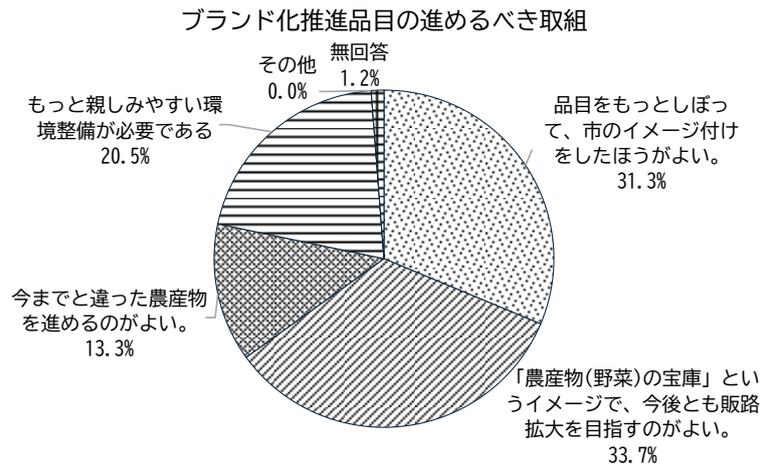


(2) 農産物の購入時に最も重視すること（複数回答）

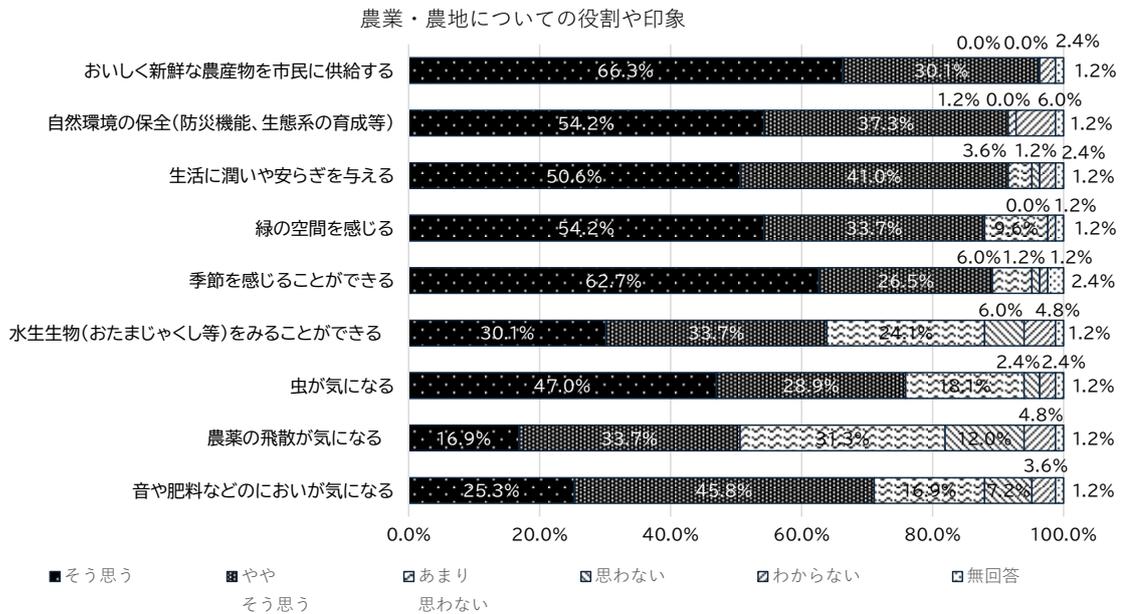
農産物購入時に重視すること



(3) ブランド化推進品目 (23 品目) について進めるべき取組



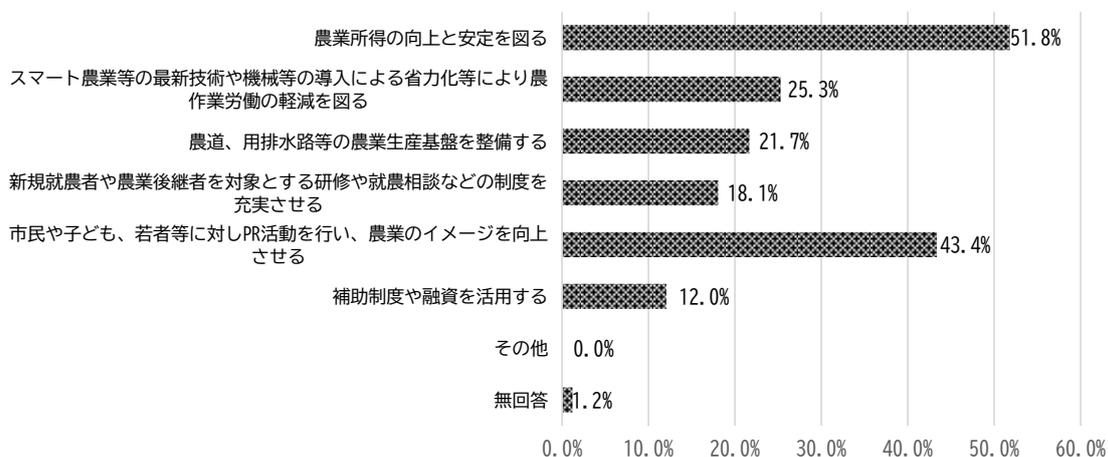
(4) 市内の農業・農地に対する役割や印象



4. 今後の農業のあり方

(1) 本市が新規就農者・農業後継者の育成に向けて必要なこと（3つまで回答）

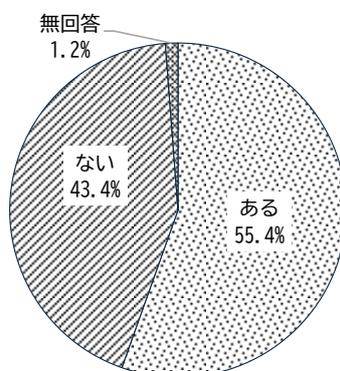
新規就農者・農業後継者の育成に向けて必要なこと



(2) スマート農業（ロボット・AI等の先端技術を活用した農業）について

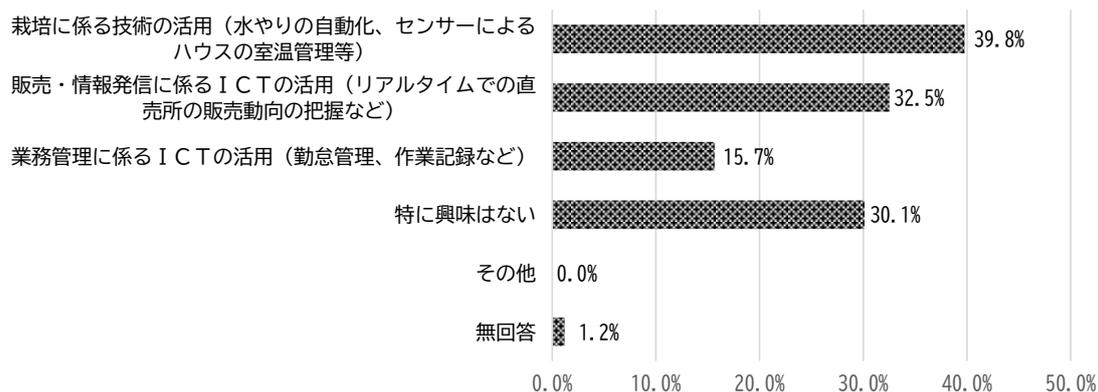
① スマート農業への関心

スマート農業への関心

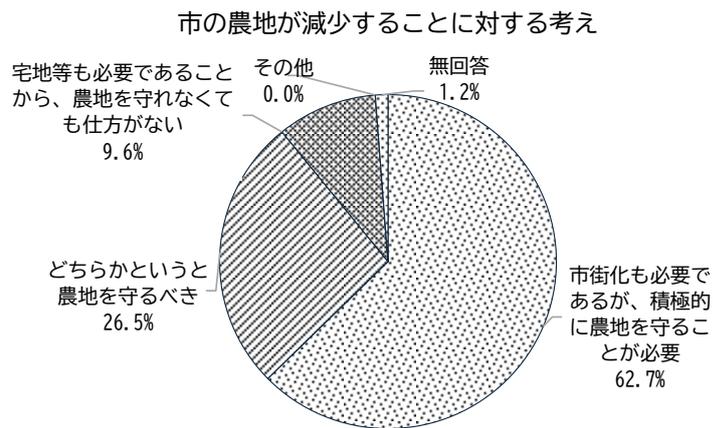


② 関心があるスマート農業の機器等（複数回答）

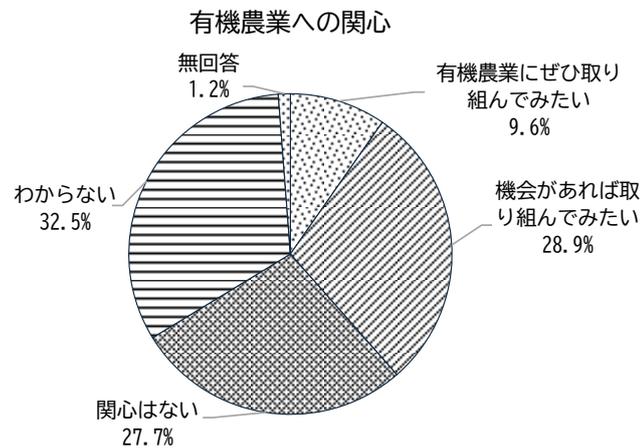
関心のあるスマート農業の機器等



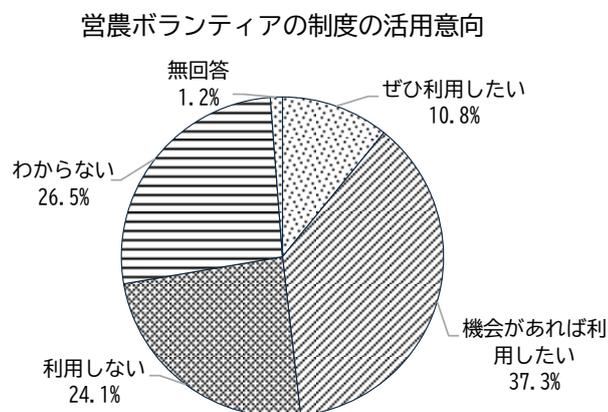
(3) 市の農地が減少することに対する考え



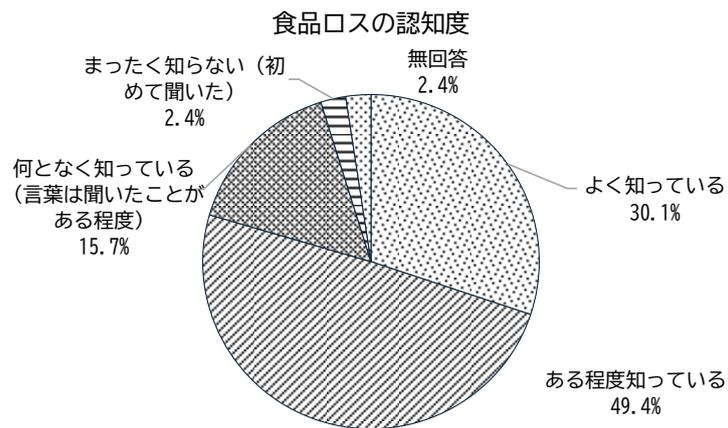
(4) 有機農業への関心



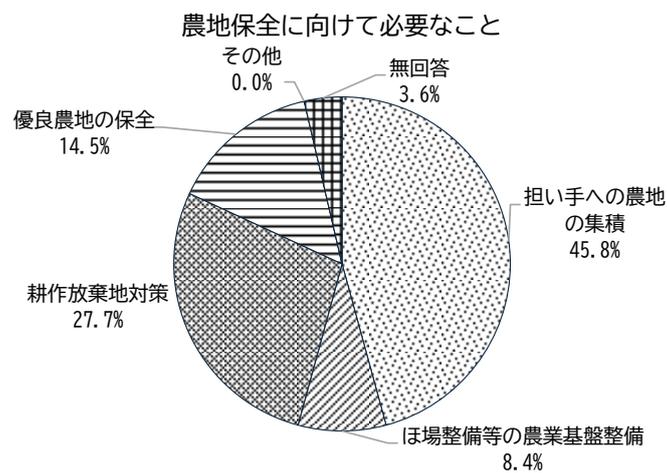
(5) 営農ボランティア制度を創設した場合の利用意向



(6) 食品ロスに関する認知度

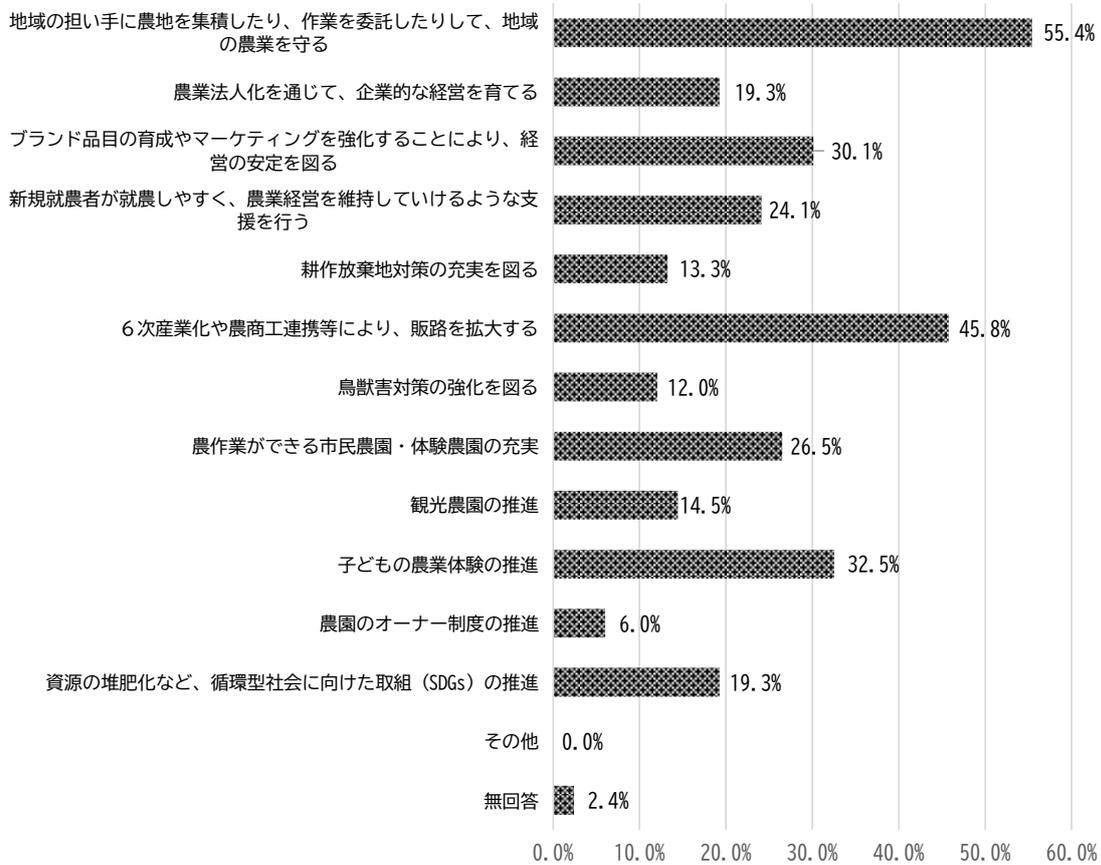


(7) 農地保全に向けて必要なこと



(8) 本市農業の今後の進むべき方向（複数回答）

本市農業の今後の進むべき方向



(9) 本市農業の発展に向けた意見・要望等（自由記入）

・発展に向けて頑張ってもらいたいです。

4. 大学生へのアンケート調査

■調査の概要

○対象者の詳細

- ・徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校（市内在住者のみ）

○配布・回収方法

- ・直接

○配布・回収数

- ・22件

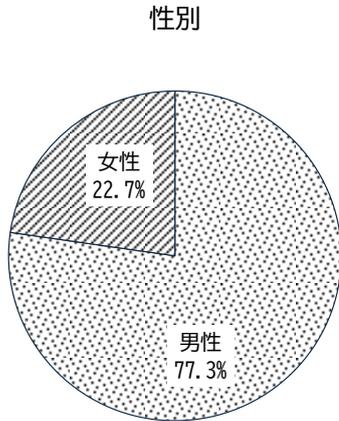
■調査結果の概要

- 回答者の属性は、男性が約 77%、女性が約 23%。農業後継者は約 23%（5名）である。
- 栽培経験は、野菜（約 77%）や果樹（約 50%）の栽培経験の割合が高く、興味・関心がある農業分野も同様の傾向である。
- 農業に対する考えは、「農業が発展したらよいと思う（約 77%）」、「社会の役に立つ（約 73%）」、「地域に貢献している（約 64%）」の順で「そう思う」の割合が高い。
- 将来の農業への関わり意向は、「就農したい（約 46%）」、「農業に関連する企業に就職したい（約 41%）」などとなっている。
- ブランド化推進品目の進めるべき取組は、「品目をもっとしぼって、市のイメージ付けをしたほうがよい（約 55%）」、「今までと違った農産物を進めるのがよい（約 18%）」の割合が高くなっている。
- 新規就農者・農業後継者の育成に向けて必要なことについては、「農業所得の向上と安定を図る」、「スマート農業等の最新技術や機械等の導入による省力化等により農作業労働の軽減を図る」がともに約 68%で割合が高い。
- スマート農業に関心が高いものは多く（約 96%）、特に「栽培に係る技術の活用（約 59%）」、「販売・情報発信に係る ICT の活用（約 55%）」への関心が高い。
- 有機農業への関心については、「機会があれば取り組んでみたい（約 64%）」の割合が最も高く、「ぜひ取り組んでみたい（約 14%）」は次いで高い。
- 営農ボランティア制度は、「利用したい（ぜひ利用したい+機会があれば利用したい）」が約 86%、「わからない」が約 9%、「利用しない」が約 5%となっている。
- 本市農業の今後の進むべき方向は、「6次産業化や農商工連携等により、販路を拡大する（約 68%）」、「地域の担い手に農地を集積したり、作業を委託したりして、地域の農業を守る（約 59%）」の割合が高くなっている。

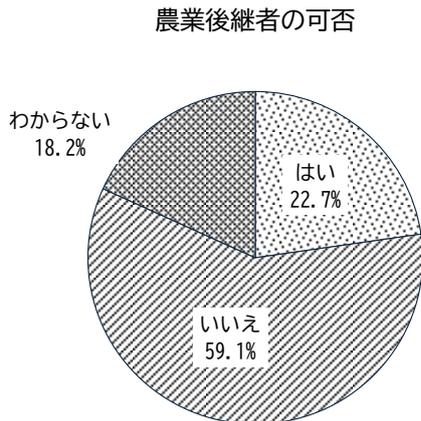
■調査の結果（注釈がない場合の回答者数は 22 件）

1. 回答者の属性

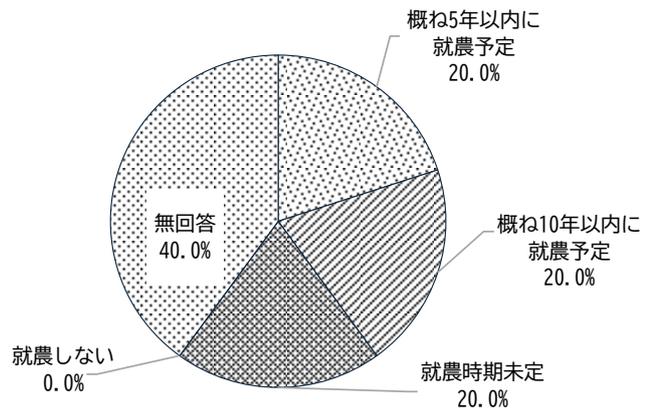
■回答者の性別



■農業後継者の可否

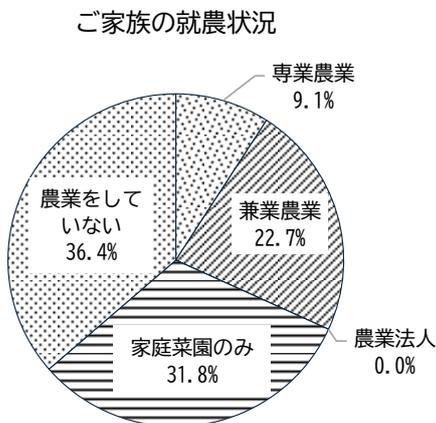


農業後継者の就農意向



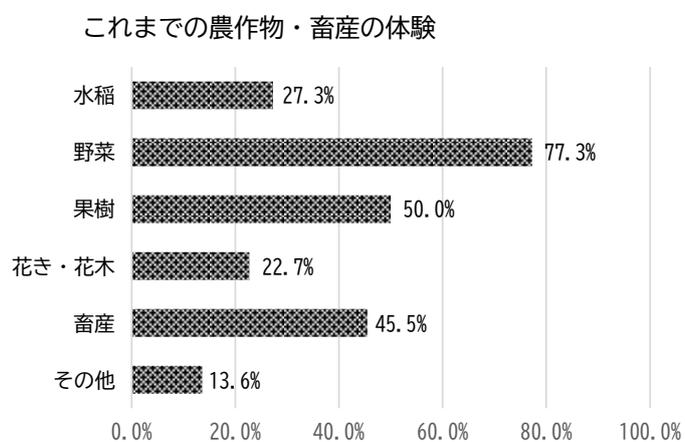
※「農業後継者である」と回答した方（5名）が回答

■ご家族の就農状況

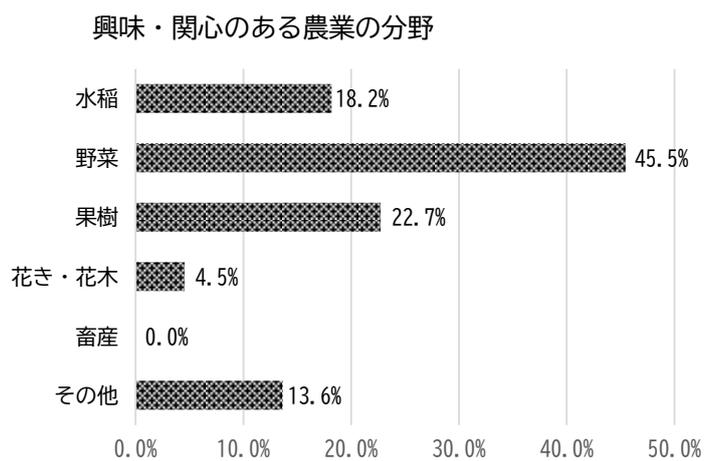


2. 農業への関わり

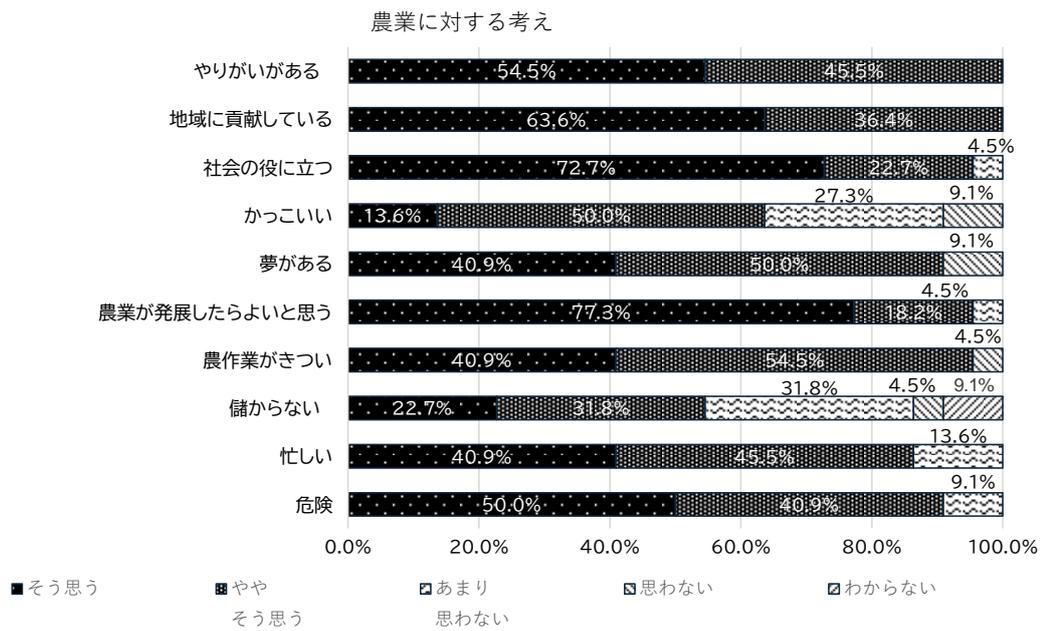
(1) これまでの農作物や畜産の体験（授業等含む）（複数回答）



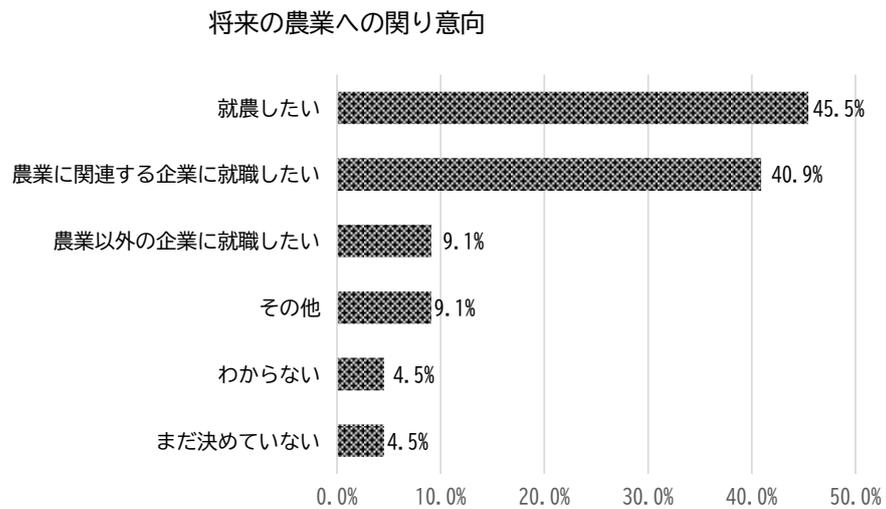
(2) 興味や関心がある農業の分野（複数回答）



(3) 農業に対する考え



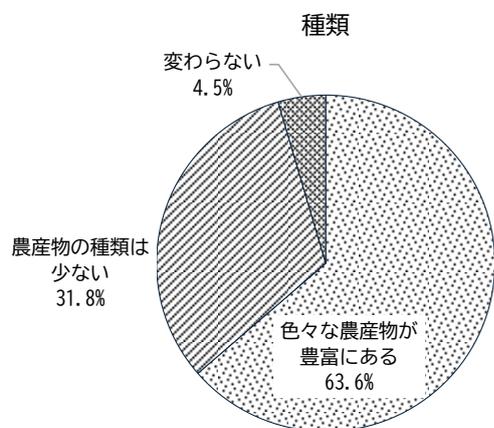
(4) 将来の農業への関わり意向 (複数回答)



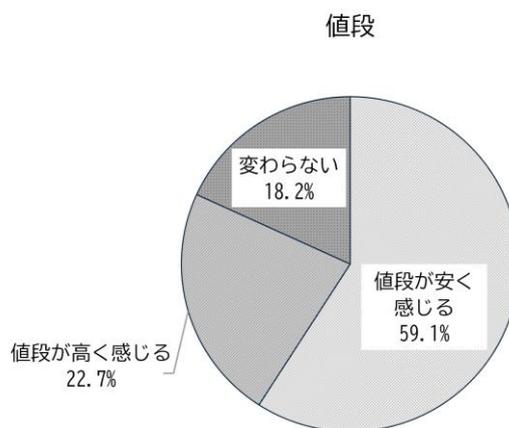
3. 農産物に対する考え方

(1) 地元産の農産物に対するイメージや評価

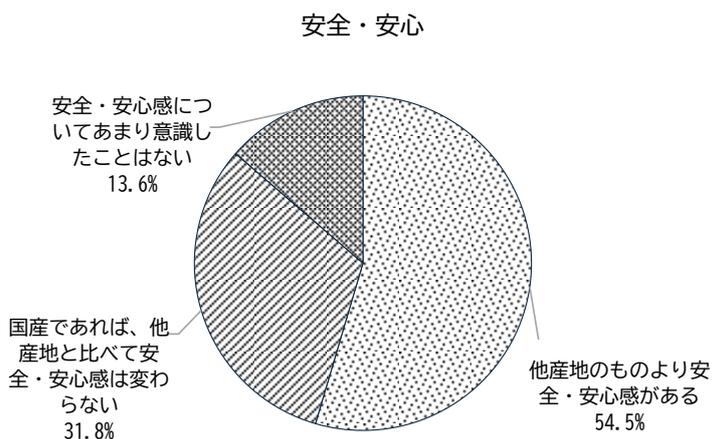
■種類



■値段

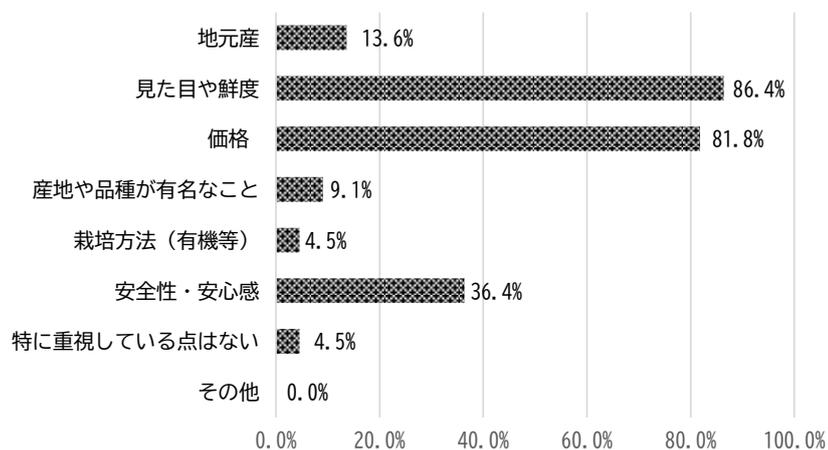


■安全・安心

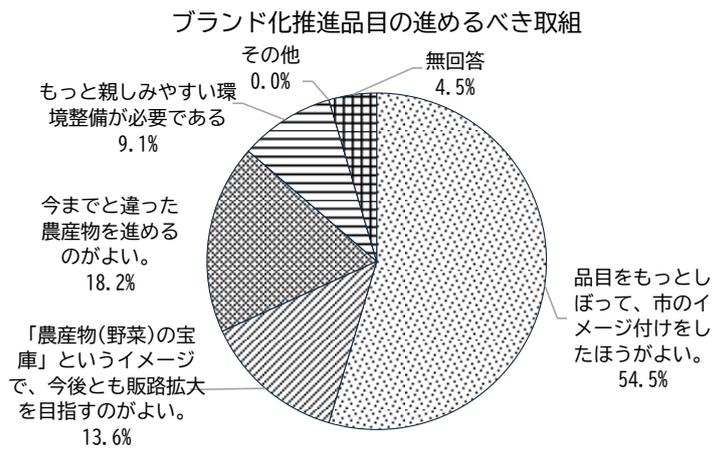


(2) 農産物の購入時に最も重視すること（複数回答）

農産物購入時に重視すること

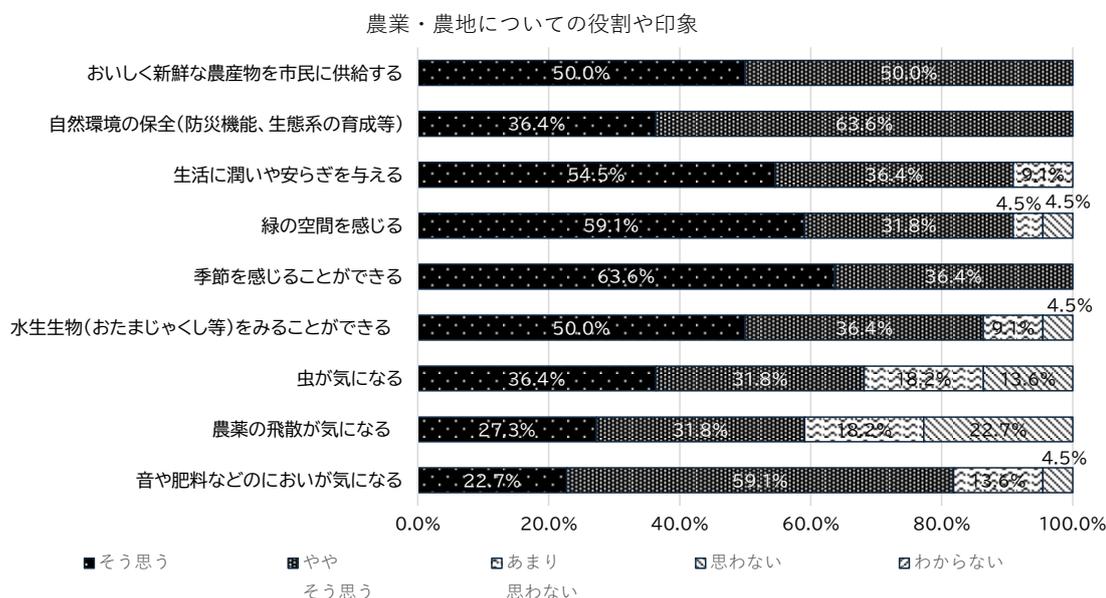


(3) ブランド化推進品目（23品目）について進めるべき取組

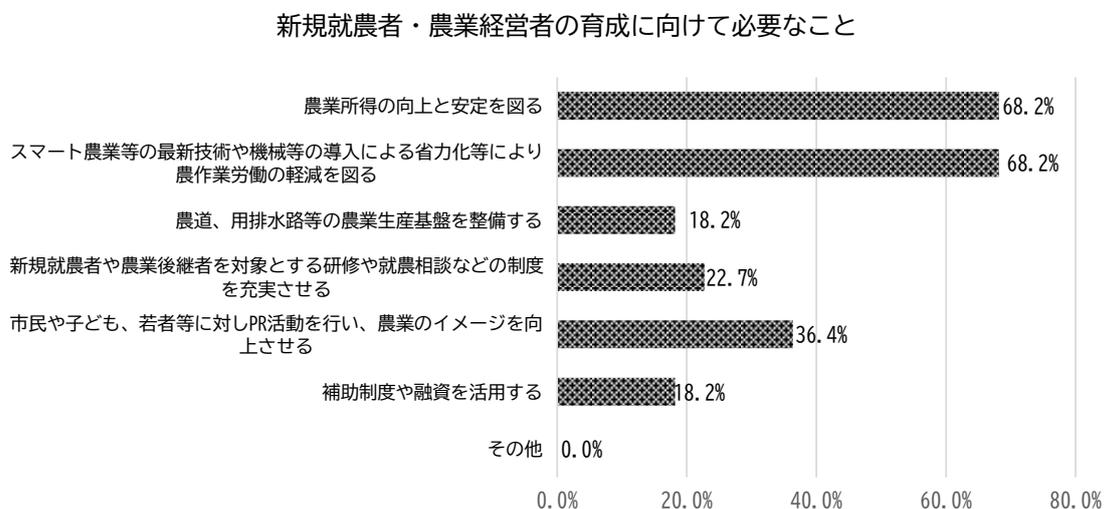


4. 今後の農業のあり方

(1) 市内の農業・農地に対する役割や印象

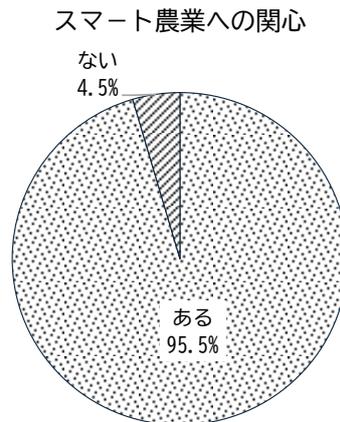


(2) 本市が新規就農者・農業後継者の育成に向けて必要なこと (3つまで回答)

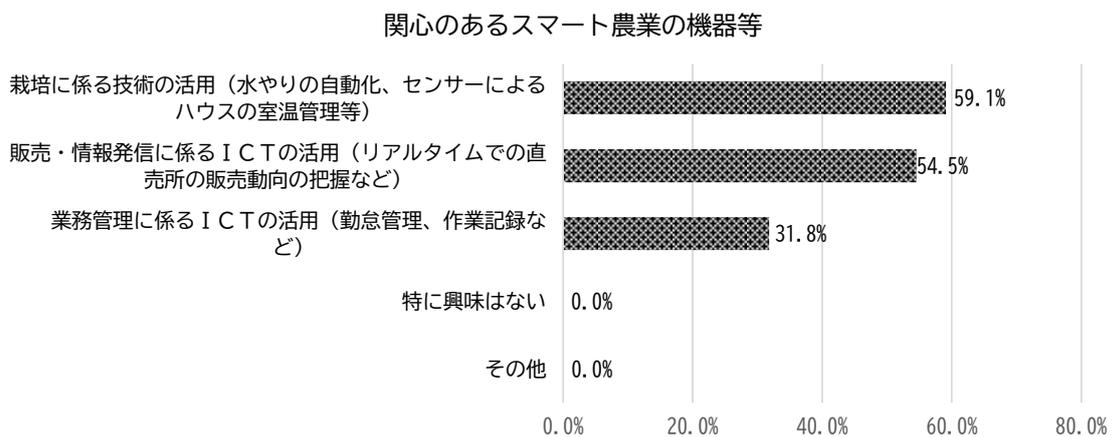


(3) スマート農業（ロボット・A I等の先端技術を活用した農業）について

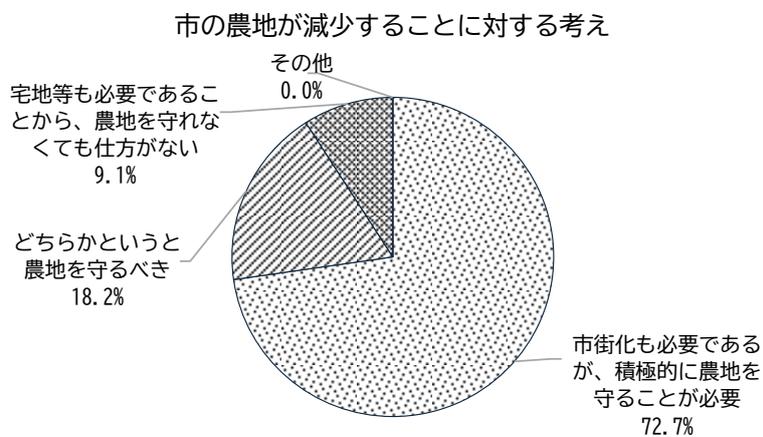
①スマート農業への関心



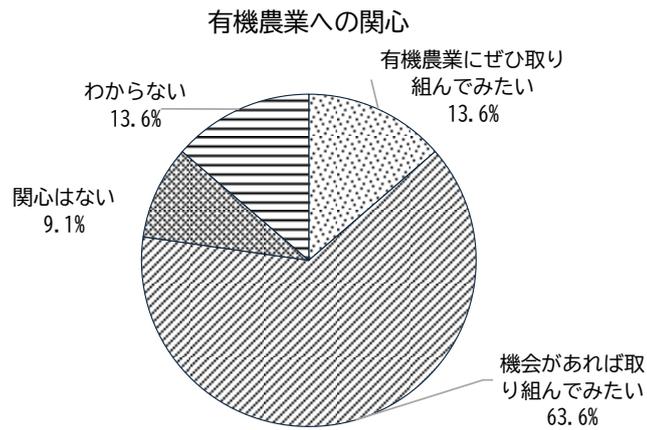
②関心があるスマート農業の機器等（複数回答）



(4) 市の農地が減少することに対する考え

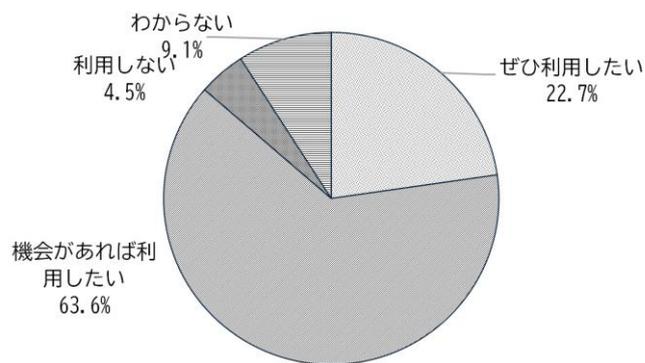


(5) 有機農業への関心

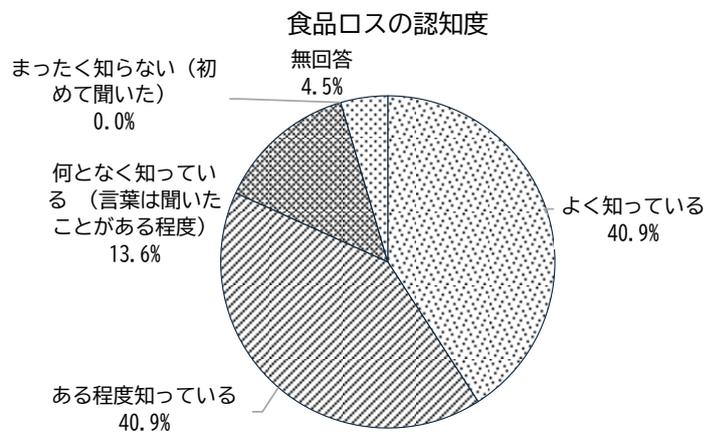


(6) 営農ボランティア制度を創設した場合の利用意向

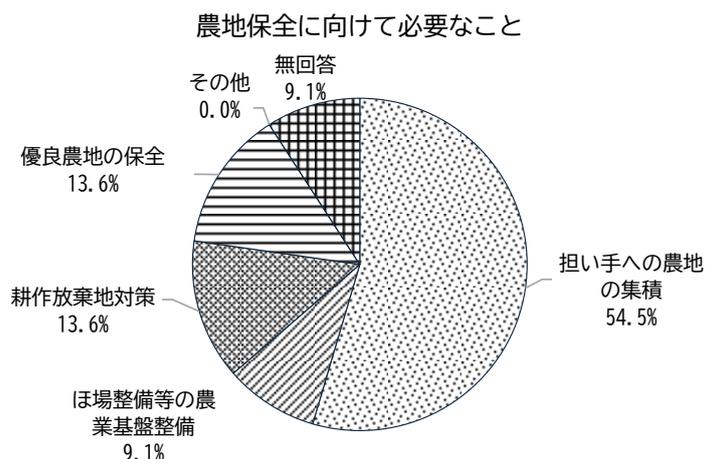
営農ボランティアの制度の活用意向



(7) 食品ロスに関する認知度

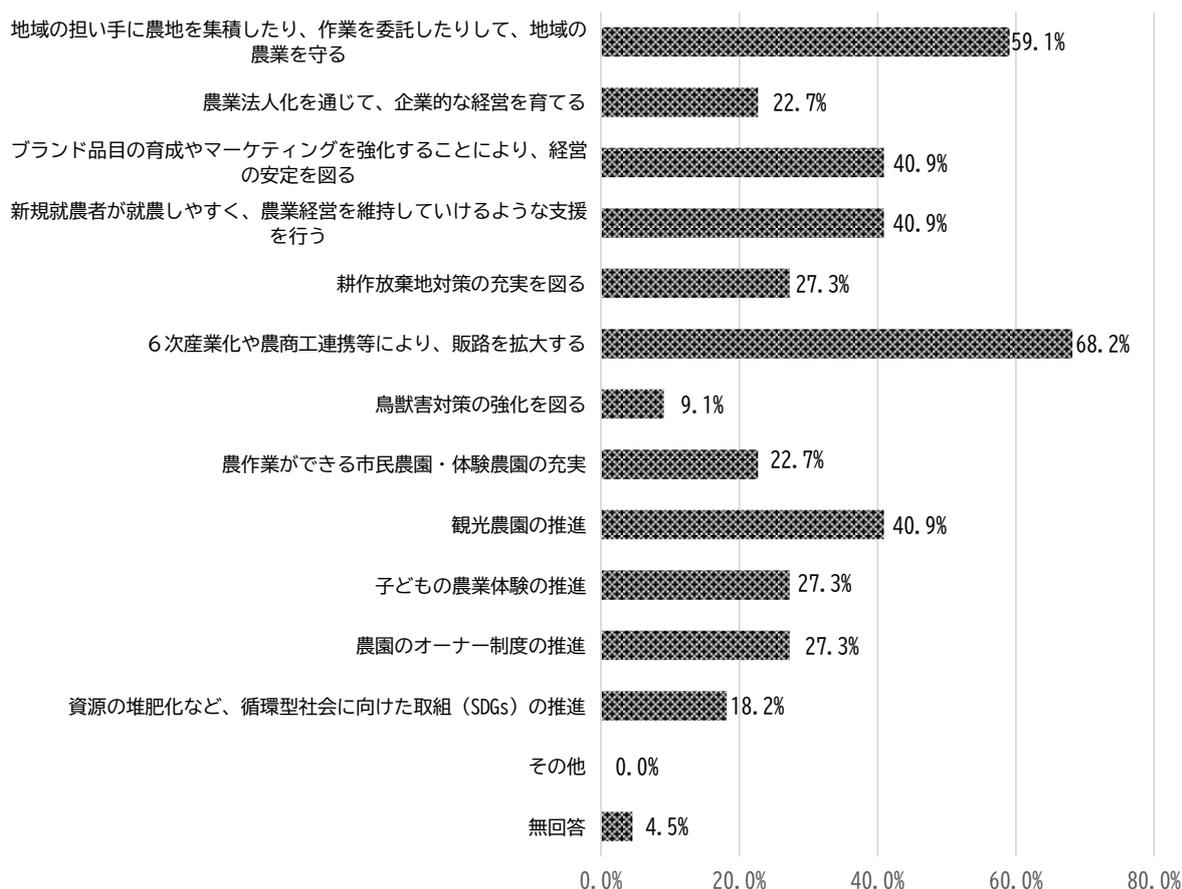


(8) 農地保全に向けて必要なこと



(9) 本市農業の今後の進むべき方向（複数回答）

本市農業の今後の進むべき方向



(10) 本市農業の発展に向けた意見・要望等（自由記入）

・農薬の飛散等に対する市民の理解が欲しいです。

5. 市民全般へのアンケート調査

■調査の概要

- 対象者の詳細
 - ・一般市民
- 配布・回収方法
 - ・インターネット
- 配布・回収数
 - ・175件

■調査結果の概要

- 回答者の属性については、性別では男性が52%、女性が約43%。年代では、60代以上が約15%、50代が約22%、40代が16%、30代が12%、20代以下が約35%。職業では、公務員が約25%、学生が24%、会社員が約19%、専業主婦・主夫が約9%などである。
- 地元産の農産物について、種類は「色々な農産物が豊富にある（60%）」の割合が高い。値段は「値段が安く感じる（約42%）」の割合が高いが、「変わらない（36%）」も次いで高い。安全・安心は、「国産であれば、他産地と比べて安全・安心感は変わらない（約51%）」の割合が高い。
- 農産物の購入時に最も重視することは「価格（約82%）」、「見た目や鮮度（約77%）」の2つが特出している。
- ブランド化推進品目の進めるべき取組は、「農産物（野菜）の宝庫」というイメージで、今後とも販路拡大を目指すのがよい（約37%）」、「もっと親しみやすい環境整備が必要である（約29%）」、「品目をもっとしぼって、市のイメージ付けをしたほうがよい（約27%）」の割合が高くなっている。
- 市内の農業・農地に対する役割や印象は、「おいしく新鮮な農産物を市民に供給する（約53%）」、「季節を感じるができる（約50%）」、「緑の空間を感じる（約39%）」の順で「そう思う」の割合が高い。
- 農業に対する考えは、「農業が発展したらよいと思う（約75%）」、「社会の役に立つ（約63%）」、「農作業がきつい（60%）」、「地域に貢献している（約59%）」の順で「そう思う」の割合が高い。
- 営農ボランティア制度は、「利用したい（ぜひ利用したい+機会があれば利用したい）」が約54%、「利用しない」が約27%、「わからない」が約15%となっている。

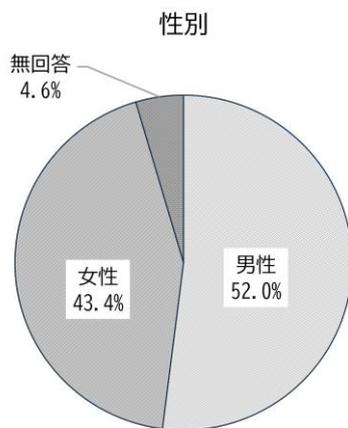
○市民菜園の利用意向は、「利用したい（ぜひ利用したい+機会があれば利用したい）」が約52%、「利用しない」が36%、「わからない」が約9%となっている。

○本市が食育や地産地消のあり方について力を入れるべきことは、「農業体験などの農業にふれる機会の充実（約27%）」、「給食などでの地産地消の取組み（約25%）」、「産直市の充実（約18%）」の順に割合が高くなっている。

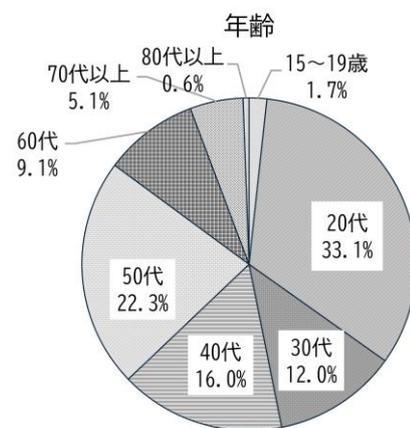
■調査の結果（注釈がない場合の回答者数は175件）

1. 回答者の属性

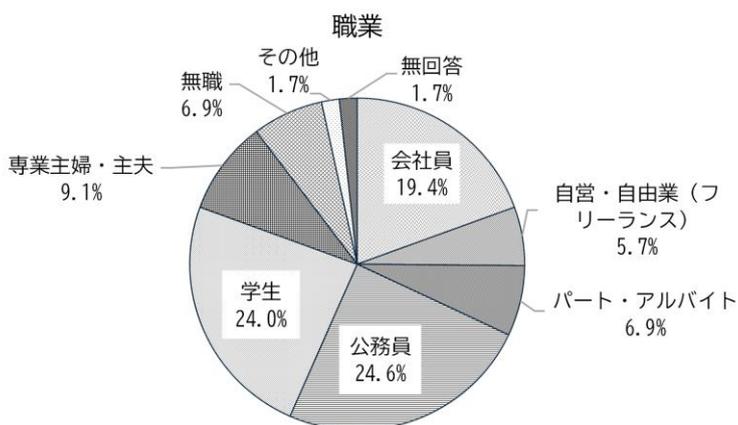
■回答者の性別



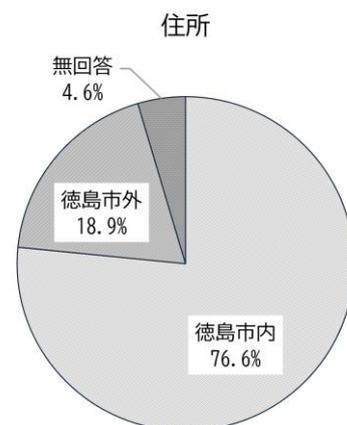
■回答者の年齢



■回答者の職業



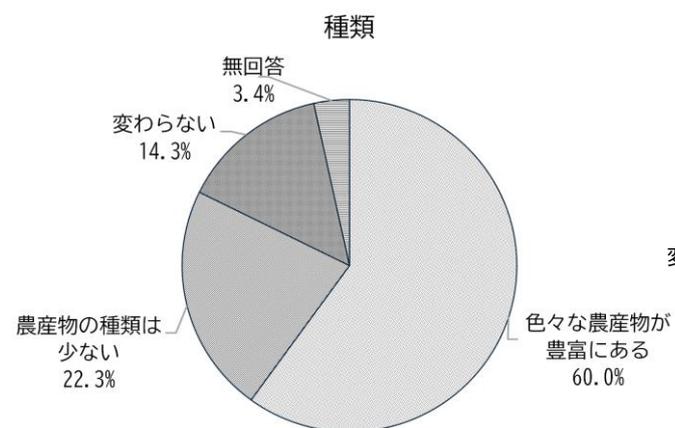
■回答者の住所



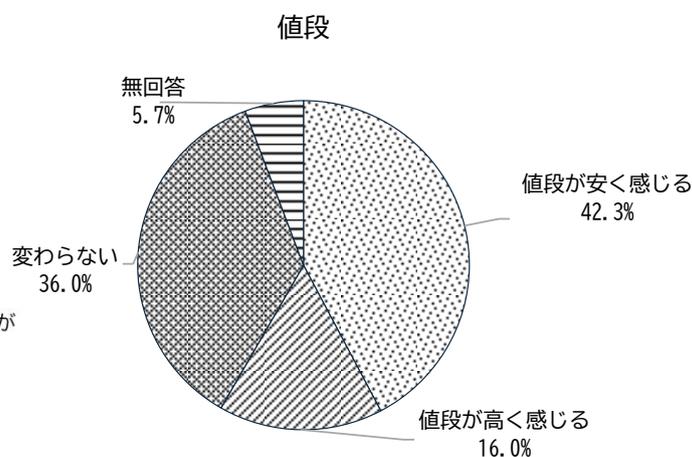
2. 農産物に対する考え方

(1) 地元産の農産物に対するイメージや評価

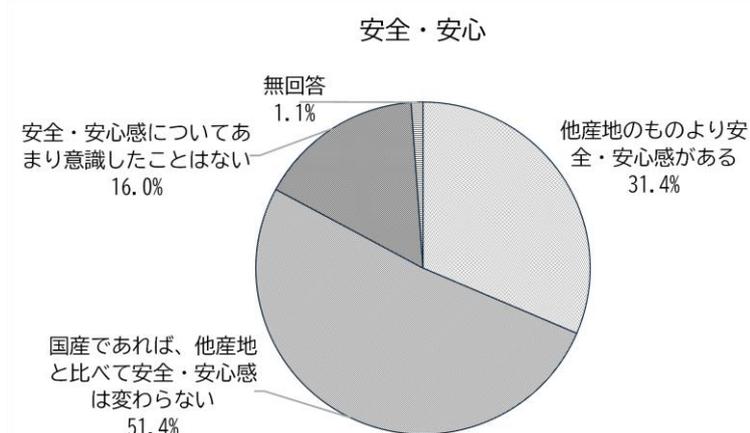
■種類



■値段

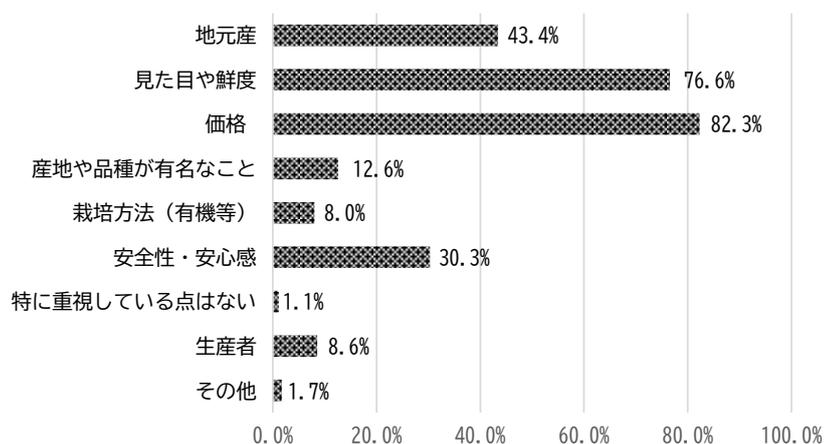


■安全・安心

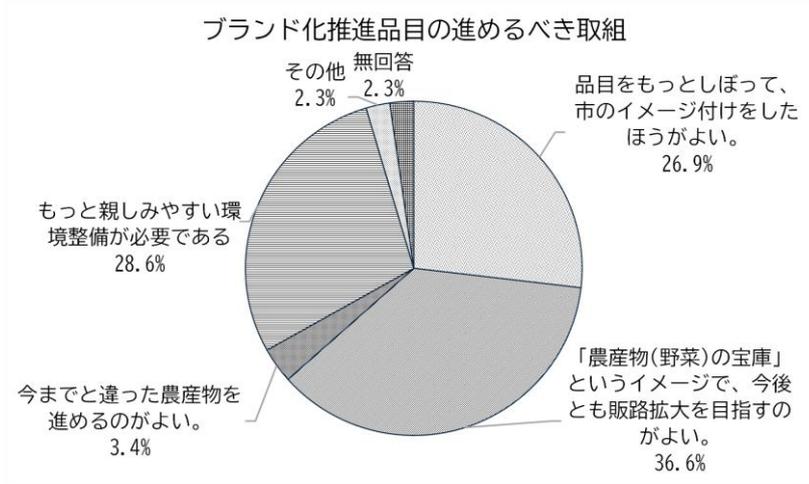


(2) 農産物の購入時に最も重視すること（複数回答）

農産物購入時に重視すること

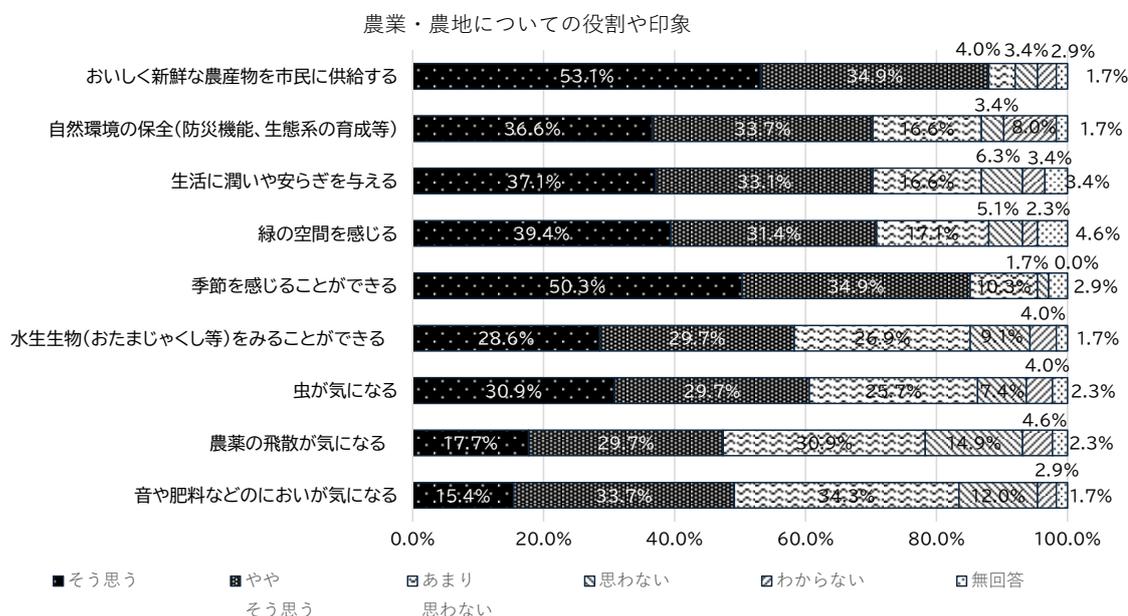


(3) ブランド化推進品目（23品目）について進めるべき取組

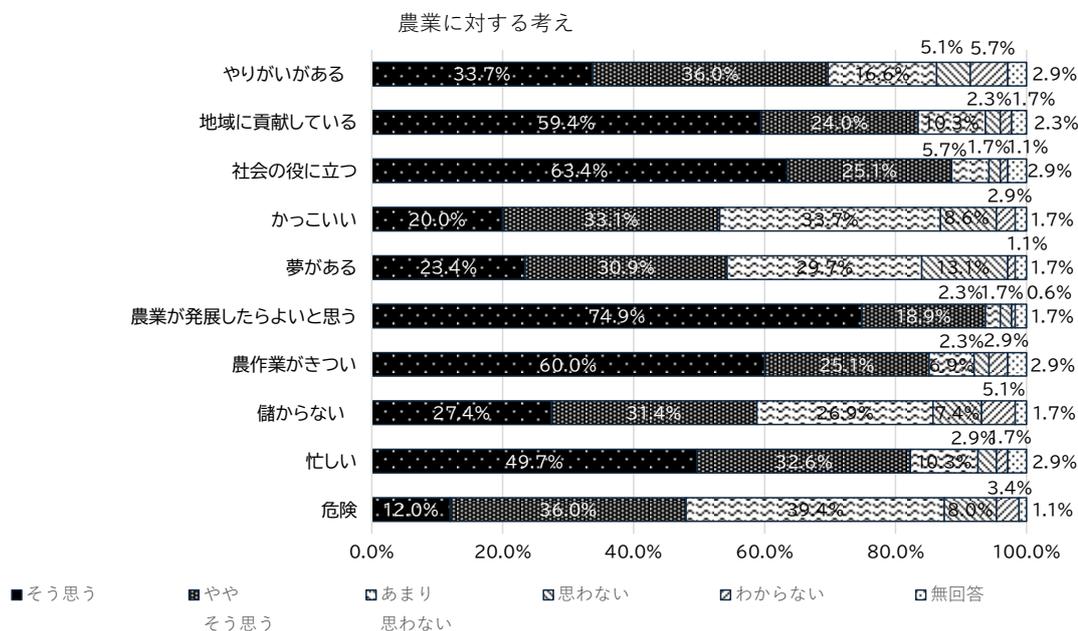


3. 農業に対する考え方

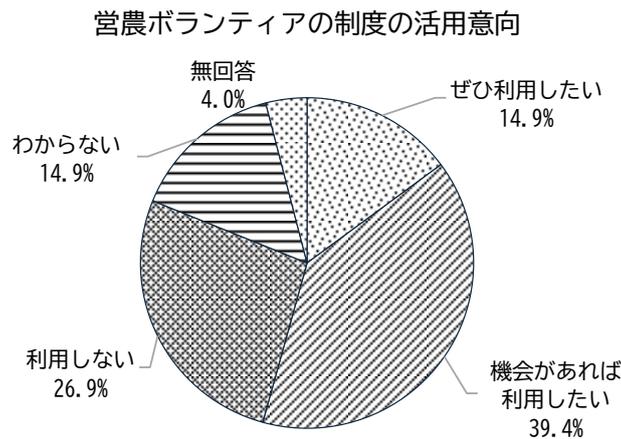
(1) 市内の農業・農地に対する役割や印象



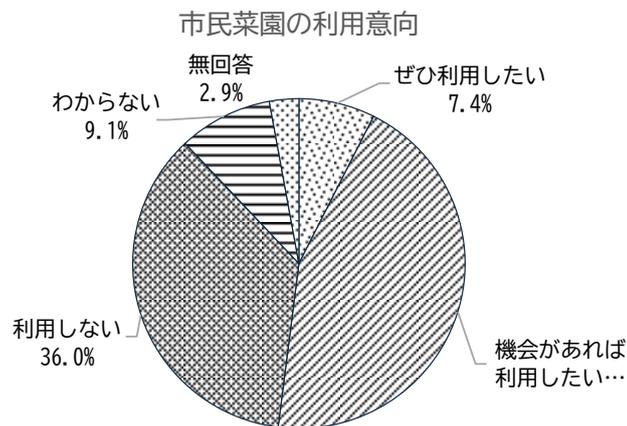
(2) 農業に対する考え



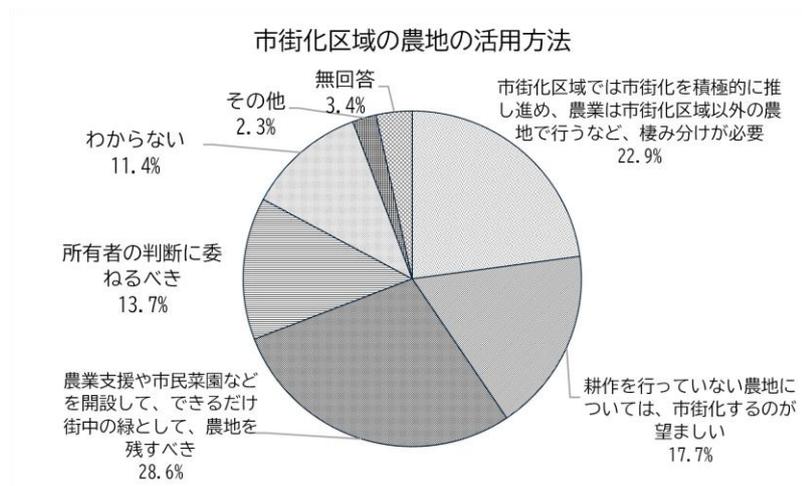
(3) 営農ボランティア制度を創設した場合の利用意向



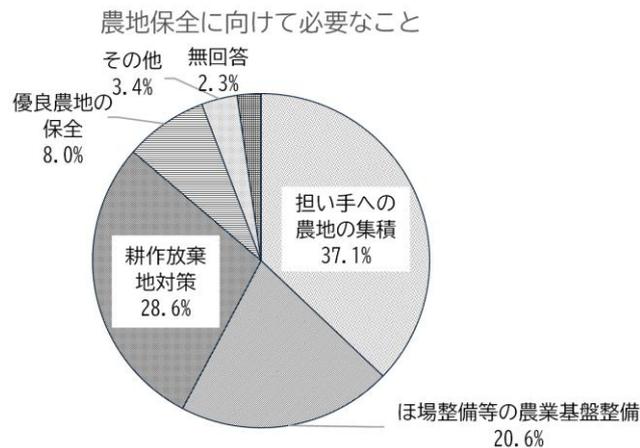
(4) 市民菜園の利用意向



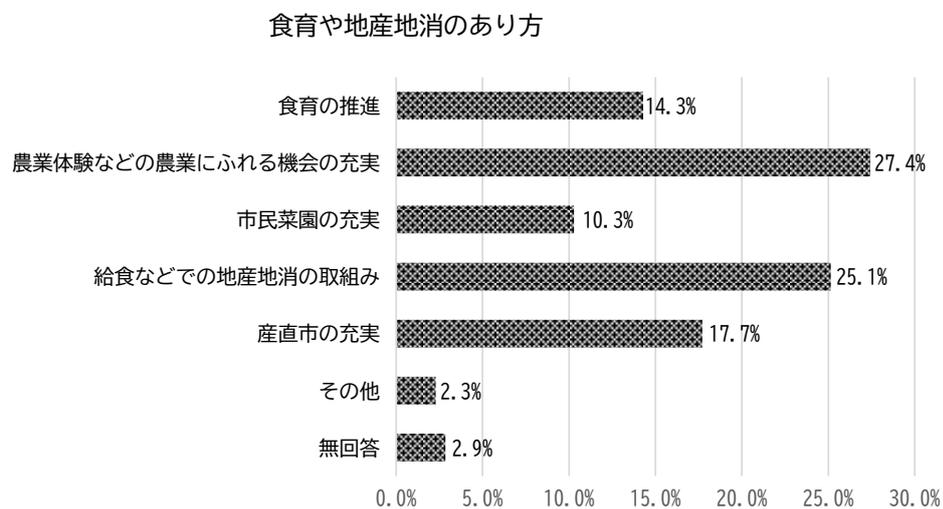
(5) 市街化区域の農地の維持に向けて望ましい活用方法



(6) 農地を保全するために必要と思うこと



(7) 本市が食育や地産地消のあり方について力を入れるべきこと（複数回答）



(8) その他の意見・要望等（自由回答）

（情報発信等）

- ・ 徳島市の農業について、徳島市公式ホームページ、広報紙「広報とくしま」、ケーブルテレビ広報番組「徳島市 NOW」、ラジオ広報番組「徳島市通信」、デジタルサイネージ「わが街 NAVI」で知らせるべきである。
- ・ 近所にあった産直市が閉店し、非常に残念。徳島市が産直市を運営しながら農産物を PR し、「道の駅いたの」や「くるくる鳴門」のように飲食ブース、イベント、インスタ映えなどスポットがあれば集客もあると思う。
- ・ すだち、なると金時以外にももっと県外の人が認知できるブランド商品ができるように、良い農産物はもっと PR するよう力を入れてほしい。
- ・ もっと PR することを考えていくことが重要かと思います。このアンケートにはなかったですが、流通の新しい改革も平行して進めていくことも大切かと思います。

(触れ合う機会)

- ・地域によるかもしれないが学校単位の農業体験の機会がないため、そういった職業などにふれる機会を作ってほしい。
- ・徳島市も産直市に力を入れたら、県内外の徳島の農産物のファンが増えると思う。徳島産はおいしくて安全である。徳島人はもとより、たくさんの人に食べてもらいたい。そして徳島の農業従事者を応援したい。
- ・これから少子化が進むことは確定しているため、個人個人の市民菜園や農業ボランティアなどは現実的に無意味です。海外の企業がいち早く行っている大規模な機械投資を行った生産方法を望む。
- ・安い野菜や種類豊富な野菜を求めて、徳島市外の産直に行っています。徳島市外の産直はいつも賑わっています。徳島市にも大きい産直があってほしいです。よろしくお願いします。
- ・市役所で直売できればいい。
- ・家族連れ中心の農業体験というイメージが強いため、1人（ソロ活のような）でも参加できるような気軽さがあると幅広く参加してもらいやすいと思いました。
- ・現在、農業にふれる機会は少なくなっています。農業との距離が近くなると発展につながると考えます。
- ・「若手人材育成アグリアカデミー」を作る。新規参入者への農地レンタル大規模農地の集約化、アグリレディを増やして大規模農家を作る若い女性が徳島から出ていくのを防ぐことが重要である（人口減少、出生率減少にも繋がる）。
- ・耕作放棄地をうまく活用し、「普段、家庭菜園をやりたいと思ってもなかなか手を出せない人」にストレスなく使って貰えるような仕組み作りをしたらいいのではと思います。

(食品ロス)

- ・まだ食べられるけど、捨てられてしまう野菜の活用方法の模索。

(農業の保護)

- ・農業は地域の根幹だと考えています。行政が積極的に保護育成するように願います。
- ・農業も他の産業と同様に、担い手不足が加速していくと思います。安定した事業になるための取組があればと思います。
- ・安い労働力で農業を維持する事は不可能です。大規模農業化、機械化農業化、作物工場化等で効率化、収入の安定化、労働負担の軽減が必須。少しずつでもいち早く公的支援することでアピールしていくことも可能だと思う。
- ・退職前の50代で専業農家の親の跡を継いで農業をやりたいと思っても収入を考えると勤務を継続した方がいいと思う。何年かだけでも補助金があれば少しは後押しになるかもしれない。

- ・食糧自給率の向上のために、農地や農業従事者に対する新たな政策を早急に検討すべきと考えます。
- ・農業をやりたくても元々農家でないといけないことはおかしいのでは。
- ・農業振興は難しいと思うが、頑張してほしい。
- ・後継者不足に対して、具体的な対策をとらないとブランドも保てなくなると思う。

(その他)

- ・子供の頃は周りに田畑があり自然と触れ合っていたが、近頃はその土地にどんどん家が立ち並び、周りは家だらけになりました。
- ・田畑が減り宅地が増え、自然が減っている。豪雨になり水がたまるところが少なくなり洪水が心配される。緑が増えるように推進してほしい。
- ・徳島市は市街地としても農耕地としても中途半端であるが、県内や国内の中では農耕地域面積比率が高いことは明らかであり、間違っても農業推進はしないでいただきたい。
- ・近年、農地がたくさん埋め立てられて、宅地になっているため、中古住宅の活用などに取り組んでほしい。
- ・子どもたちに「農家の方がどのように生計を立てているか」、野菜、果物ごとのビジネスモデルが知れる機会を提供してはどうでしょうか。
- ・埼玉県から嫁いできた方から、徳島県の野菜は非常に美味しいと聞きました。私は、徳島県にしか住んだことがないので驚きました。
- ・スマート農業の導入。ドローンでの散布で効率化と環境負荷軽減。気象や土壌データ解析を行い、オンライン上のプラットフォームで農産物を直接販売し、スマホアプリで購入・配達管理を簡素化。
- ・市長のやる気、担当者のやる気が必要。儲かる農業に知恵を絞る。

6. 農や食に関わる市民へのアンケート調査

■調査の概要

○対象者の詳細

- ・市民菜園主 8 名
- ・市民菜園利用者 64 名

○配布・回収方法

- ・郵送

○回収数（配布数・回収率）

- ・46 件（72 件・63.9%）

■調査結果の概要

○回答者の属性は、性別では男性が約 61%、女性が約 39%。年代では、70 代以上が約 76%、60 代が約 11%、50 代が約 9%、40 代が約 2%、30 代以下が約 2%。職業では、無職が約 48%、主婦（夫）が約 17%、パート・アルバイト、自営業、会社員が約 9%などである。

○地元産の農産物について、種類は「色々な農産物が豊富にある（約 67%）」の割合が高い。値段は「変わらない（約 52%）」の割合が高く、「値段が安く感じる（約 28%）」、「値段が高く感じる（約 20%）」となっている。安全・安心は、「国産であれば、他産地と比べて安全・安心感は変わらない（約 59%）」の割合が高い。

○農産物の購入時に最も重視することは、「見た目や鮮度（約 72%）」、「価格（約 65%）」、「安全性・安心感（約 61%）」の割合が高い。

○ブランド化推進品目の進めるべき取組は、「もっと親しみやすい環境整備が必要である（50%）」、「農産物（野菜）の宝庫」というイメージで、今後とも販路拡大を目指すのがよい（約 26%）」、「品目をもっとしぼって、市のイメージ付けをしたほうがよい（13%）」の割合が高くなっている。

○市内の農業・農地に対する役割や印象は、「おいしく新鮮な農産物を市民に供給する（約 78%）」、「季節を感じるができる（約 67%）」、「生活に潤いや安らぎを与える（約 54%）」の順で「そう思う」の割合が高い。

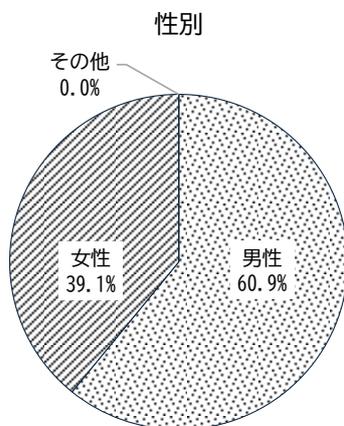
○市民菜園を活用したきっかけは、「自分で育てた収穫物を食べたい（87%）」、「健康のため（約 70%）」、「気分転換になる（約 52%）」などの順で割合が高い。利用年数は、「5 年以上」が約 61%と高い。利用状況の平均は、「週に 3～4 回」が約 44%で最も多く、「毎日」が約 24%、「週に 1～2 回」が約 17%と続いている。

- 市民菜園を活用して楽しいことは、「自分で育てた農作物を食べる（約 94%）」、「仲間ができるなど、コミュニケーションの場となっている（約 80%）」、「好きな農作物を育てる（約 67%）」、「自然の中で作業するため癒やされる（約 65%）」の順で高い。
- 農業に対する考えは、「農業が発展したらよいと思う（約 63%）」、「やりがいがある（約 57%）」、「社会の役に立つ（約 35%）」の順で「そう思う」の割合が高い。
- 営農ボランティア制度は、「利用したい（ぜひ利用したい+機会があれば利用したい）」が約 37%、「利用しない」が約 33%、「わからない」が約 26%となっている。
- 将来の農業への関わり意向は、「現在と変わらず、市民菜園を活用したい」が約 91%で最も割合が高い。
- 本市が食育や地産地消のあり方について力を入れるべきことは、「給食などでの地産地消の取組み（約 65%）」、「市民菜園の充実（約 59%）」、「食育の推進（約 54%）」、「農業体験などの農業にふれる機会の充実（約 48%）」の順に割合が高くなっている。

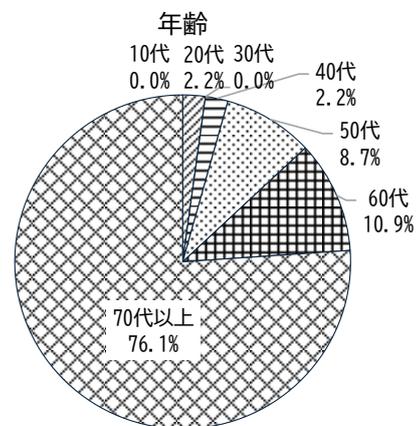
■調査の結果（注釈がない場合の回答者数は 46 件）

1. 回答者の属性

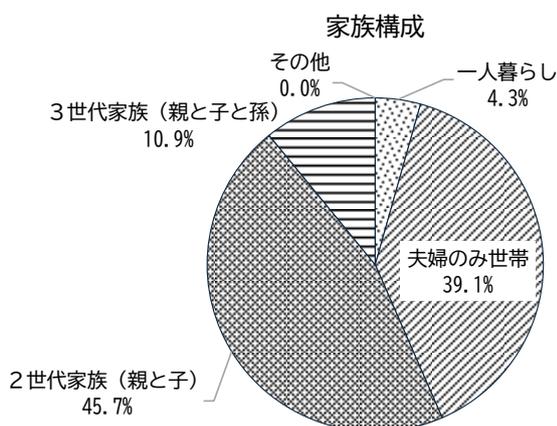
■回答者の性別



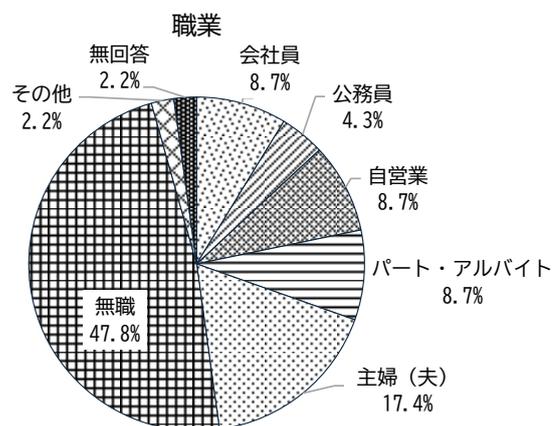
■回答者の年齢



■回答者の家族構成



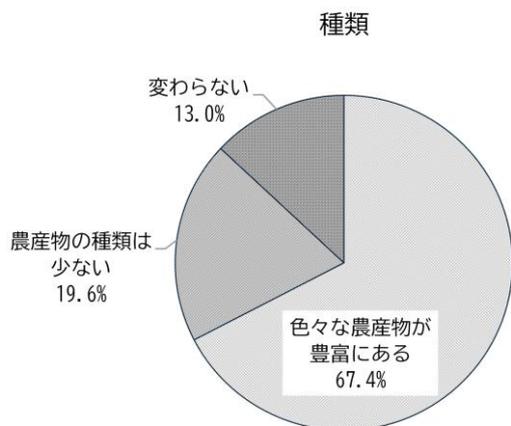
■回答者の職業



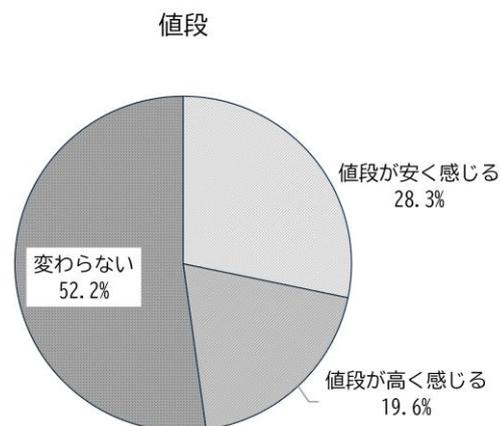
2. 農産物に対する考え方

(1) 地元産の農産物に対するイメージや評価

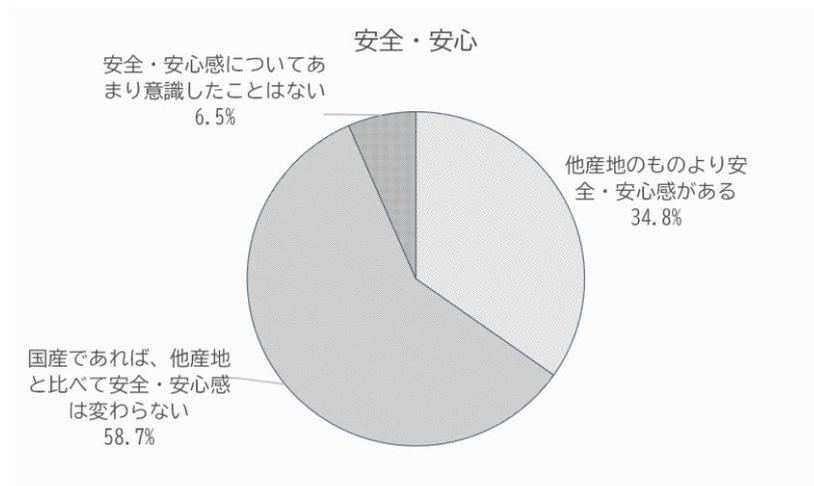
■種類



■値段

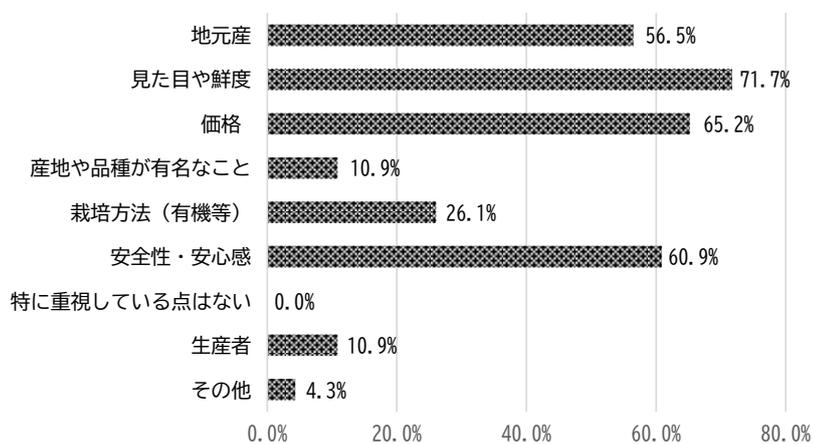


■安全・安心

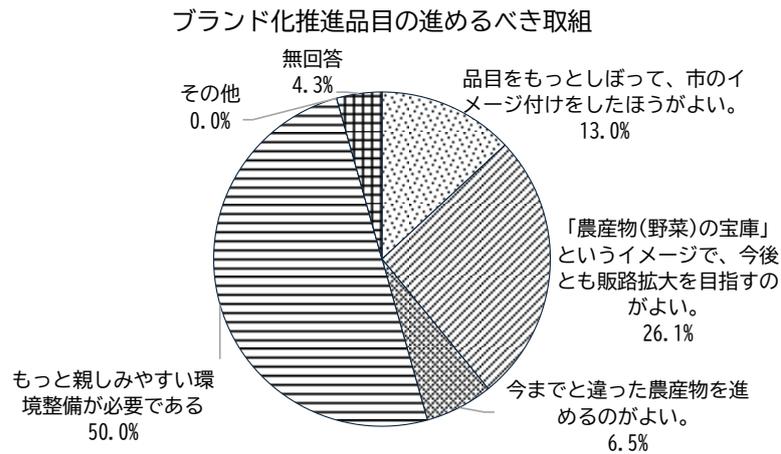


(2) 農産物の購入時に最も重視すること（複数回答）

農産物購入時に重視すること

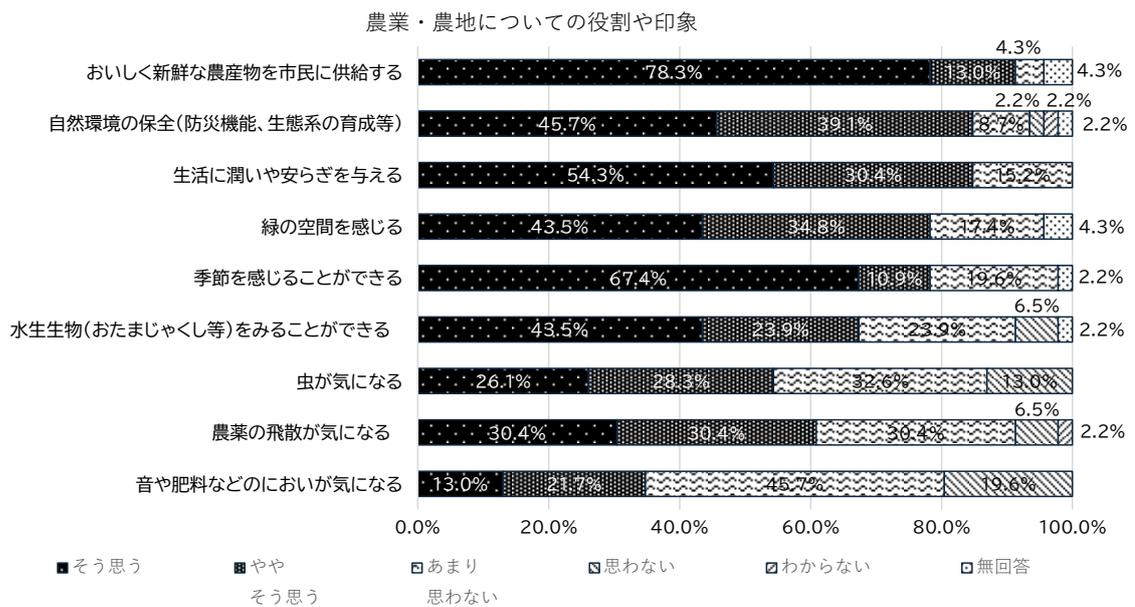


(3) ブランド化推進品目 (23 品目) について進めるべき取組



3. 農業に対する考え方

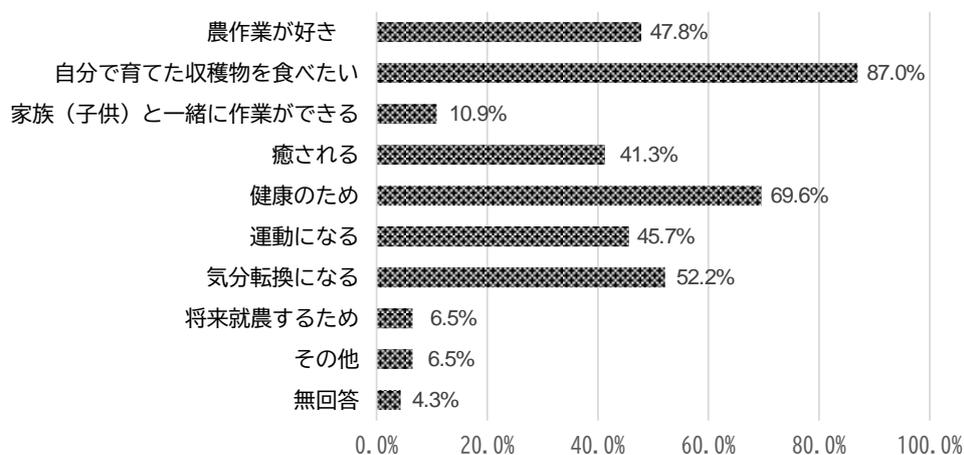
(1) 市内の農業・農地に対する役割や印象



(2) 市民菜園の活用について

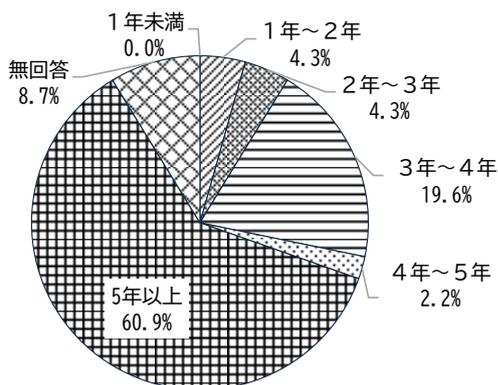
① 市民菜園を活用したきっかけ（複数回答）

市民菜園を活用したきっかけ



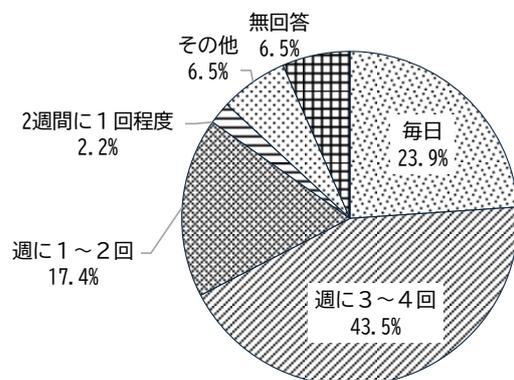
② 市民菜園の利用年数

市民菜園の利用年数



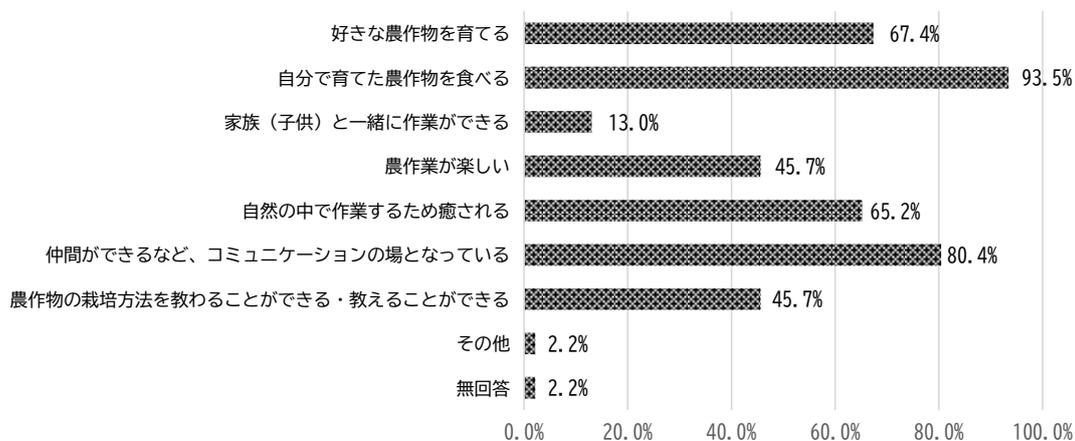
③ 市民菜園の利用状況の平均

市民菜園の利用状況



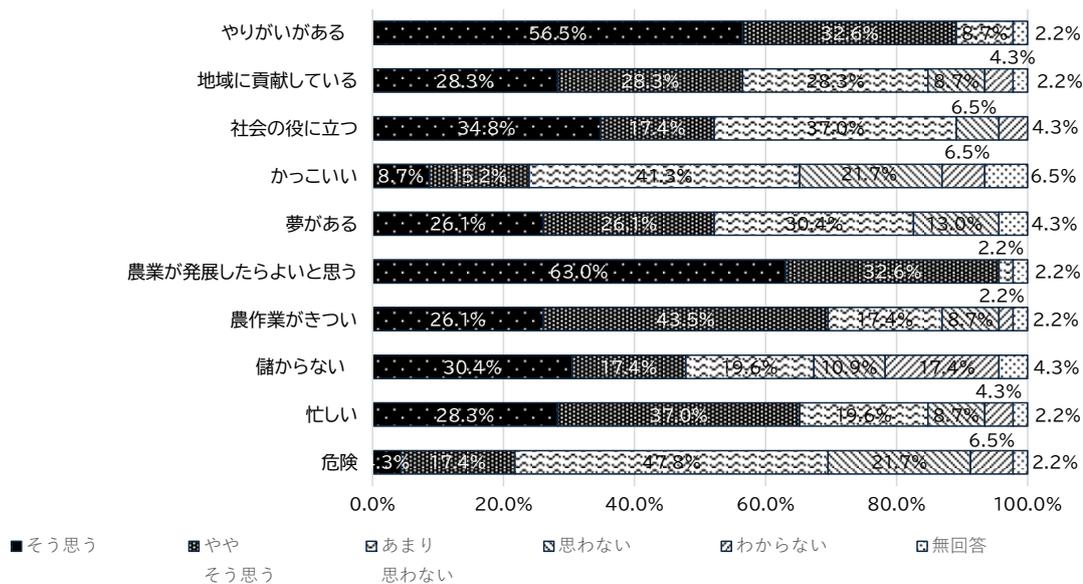
④市民菜園を活用して楽しいこと（複数回答）

市民菜園を活用して楽しいこと

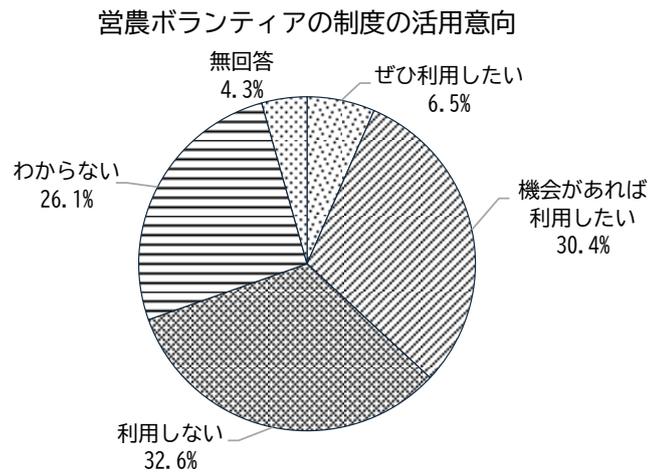


(3) 農業に対する考え

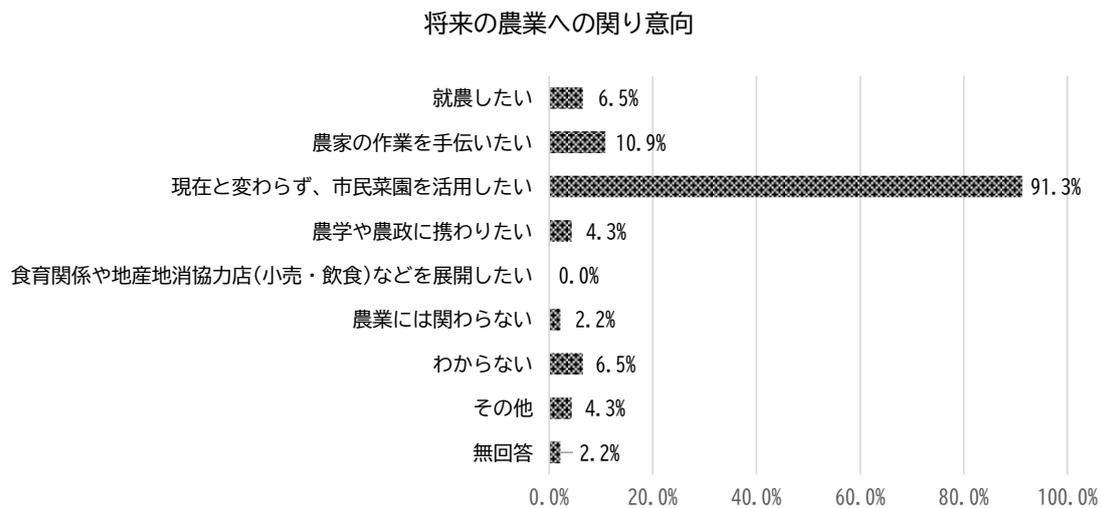
農業に対する考え



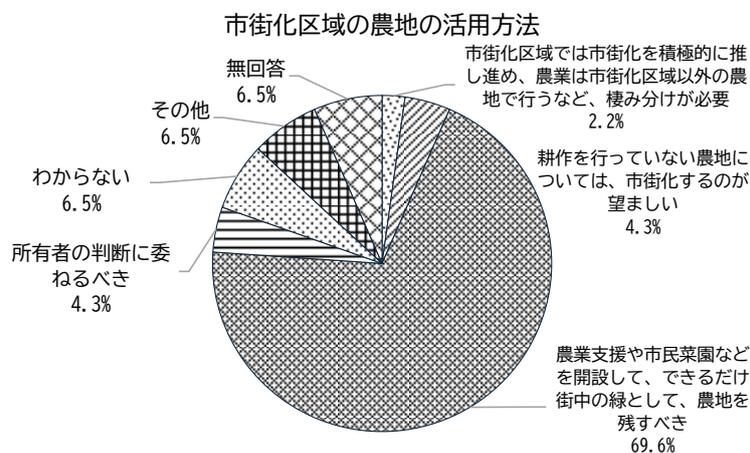
(4) 営農ボランティア制度を創設した場合の利用意向



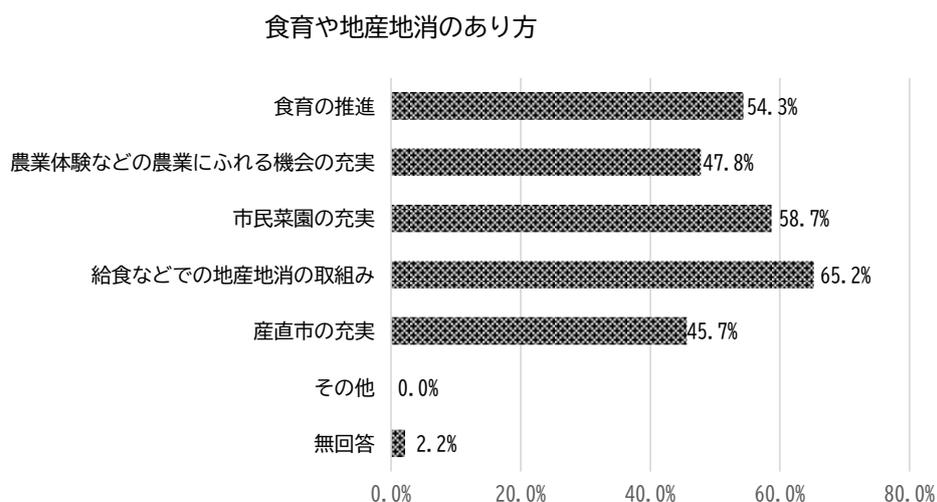
(5) 将来の農業への関わり意向（複数回答）



(6) 市街化区域の農地の維持に向けて望ましい活用方法



(7) 本市が食育や地産地消のあり方について力を入れるべきこと（複数回答）



(8) その他の意見・要望等（自由回答）

(情報発信等)

- ・市のウェブページなどに耕作放棄地等のリストを掲載すれば、就農を目指す人や新たに家庭菜園を始めたい人の農地確保がスムーズになるのでは。

(触れ合う機会)

- ・見た目が悪く商品として人気がなさそうなB級品などをまとめて販売して欲しい。たまに産直市で見かける人参などのようにB級品（規格外品）ばかりを取り扱うお店があってもいいのでは？安く買いやすいし無駄が出ない。
- ・多くの方々が自然と共有できる場所の充実を願います。
- ・農業をする人口を増やして自給力をつけるため、市民が作った野菜などを安く売ったり買ったりする場を市が作って欲しい。
- ・家庭菜園にプロのアドバイザーが欲しい。
- ・自給率が低く、学校で小さいうちから農業体験、野菜等に触れる、話を聞く等が大切。お米がどう作られ、実っている状態を見る経験が少ない。見たことがない子が多いため、収穫する楽しみがわからない。野菜がどう育ったのか、土がいかに大切かをもっとプロの人や学校で話を聞く。自給率の低さは危機的です。

(農業の保護)

- ・代々農業を続けています（米作 1.5ha、食べ量の野菜 10a、貸農園 20a）ですが地域では高齢化や後継者不足など、所得が上がらなく農業経営では将来が見通せない。多くの問題を抱えている。農業者に対する公的補助をもっと増やさないと日本の食糧自給率は増々下がるのではと思う。
- ・自然は守らなければならない。

- ・農地も以前と比べて少なくなっており、現状維持で続けたい。
- ・天候によって作物の出来、不出来があるため、安定した収入を得ることのできる様支援してほしい。

(耕作放棄地)

- ・耕作を行っていない（行うことができない）。農地については市、県も積極的に介入して休耕地を少なくしてほしい。雑草、害虫など火災の発生危険。
- ・周りで空畑が増えそのまま畑が宅地になり心配である。畑をなくせば、今度は農地には戻らない。

(市民菜園)

- ・仕事が変わり忙しく、今期で市民農園を一度辞める予定です。耕してもらえるボランティアで2～3年ほど対応できたら続けたかったです。
- ・入園契約第5条を農園開設者は順守して欲しい。特に（4）他の入園者に著しい迷惑を及ぼすについて。

(その他)

- ・広い菜園で個人でなく複数でコミュニケーションをとりながら作る。そのようになればよいと思う。
- ・無農薬で育てたものを食べたいため家庭菜園をしている。しかし、農協の方などの話では農薬をすすめるどころか農薬を使わないことを否とする言い方をする。そのような指導はごめんこうむりたい。無農薬農業をすすめてほしい。

7. 飲食店へのアンケート調査

■調査の概要

○対象者の詳細

・とくしま I P P I N店認定店のうち徳島市内店舗 119 店

○配布・回収方法

・郵送

○回収数（配布数・回収率）

・37 件（119 件・31.1%）

■調査結果の概要

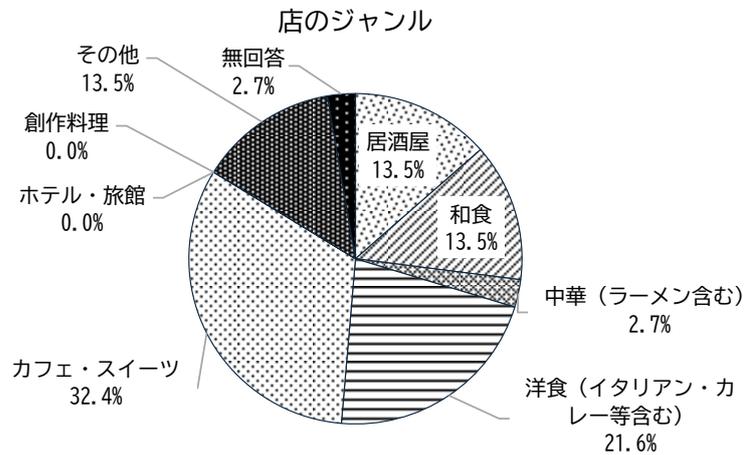
- 回答者の属性について、店舗のジャンルは「カフェ・スイーツ（約 32%）」、「洋食（約 22%）」、「居酒屋（約 14%）」、「和食（約 14%）」などである。
- 地元産農産物の使用割合は「6～8割未満（約 43%）」、「4～6割未満（約 19%）」、「8～10割（約 16%）」などであり、5年前と比較した地元産農産物の使用傾向は「変わらない（約 76%）」、「増えた（約 19%）」、「減った（約 5%）」となっている。
- 農産物の仕入時に重視することは、「価格（約 76%）」、「見た目や鮮度（73%）」、「地元産であること（約 38%）」の順で割合が高い。
- 現在の地元産農産物の仕入れ方法は、「小売店（約 60%）」、「直売所（約 54%）」、「中央卸売市場（約 51%）」、「農家から直接（約 46%）」の順で割合が高い。
- 地元産農産物の仕入れやすさは、「簡単に入手できる（約 62%）」、「少し苦勞するが入手できる（約 32%）」など、入手が困難な状況はみられない。
- ブランド化推進品目の進めるべき取組は、「もっと親しみやすい環境整備が必要である（約 32%）」、「農産物（野菜）の宝庫」というイメージで、今後とも販路拡大を目指すのがよい（約 30%）」、「品目をもっとしぼって、市のイメージ付けをしたほうがよい（約 22%）」の割合が高くなっている。
- 地元産農産物の今後の仕入れ意向は、「価格や品質などの条件があえば取り入れたい（約 54%）」の割合が最も高く、「積極的に取り入れたい（約 43%）」が次いで高い。
- 地元産の農産物について、種類は「色々な農産物が豊富にある（約 68%）」の割合が高い。値段は「値段が安く感じる（約 51%）」の割合が高いが、「変わらない（約 35%）」も次いで高い。安全・安心は、「国産であれば、他産地と比べて安全・安心感是不変わらない（約 51%）」の割合が高い。
- 農業に対する考えは、「農業が発展したらよいと思う（約 81%）」、「社会の役に立つ（73%）」、「地域に貢献している（約 68%）」の順で「そう思う」の割合が高い。

- 市内の農業・農地に対する役割や印象は、「季節を感じるができる（約 81%）」、「おいしく新鮮な農産物を市民に供給する（約 70%）」、「緑の空間を感じる（約 62%）」の順で「そう思う」の割合が高い。
- IPPIN 店として認知されることの効果について、「効果はない（約 38%）」、「あまり効果はない（約 32%）」、「効果があった（約 8%）」の順で割合が高い。
- 効果がなかった理由については、「認定しているだけで後のフォローアップがない（約 64%）」、「地産地消だけでは、そもそも差別化がむずかしい（50%）」、「広報・宣伝が足りない（約 43%）」の順で割合が高い。
- 徳島市公式観光サイト「Fun!Fun!とくしま」での情報発信について、インスタグラムで IPPIN 店のお店（希望者）の情報を発信していることの認知度は、「知っているが利用していない（約 49%）」、「知らない（約 38%）」、「知っていて利用している（約 8%）」の順で割合が高い。
- IPPIN 店として今後支援してほしいことは、「広報・宣伝にもっと力を入れる（約 51%）」、「地元産の農産物が仕入れやすくなるよう、情報提供や供給体制の整備を行う（約 49%）」、「にぎわい交流課（市の観光担当課）とのタイアップによる IPPIN 店の活用（約 30%）」の順で割合が高い。

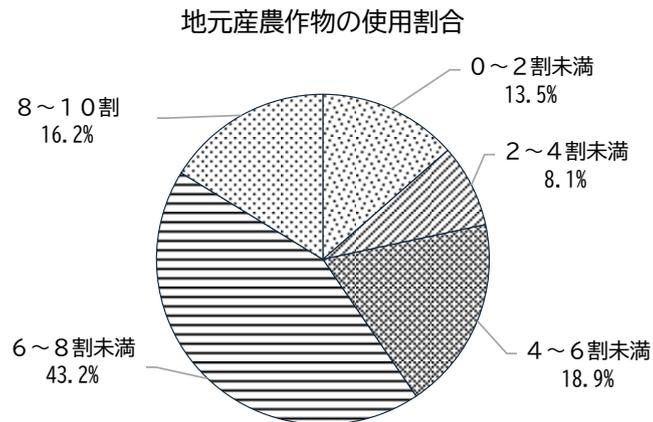
■調査の結果（注釈がない場合の回答者数は 37 件）

1. 回答者の属性

■店舗のジャンル

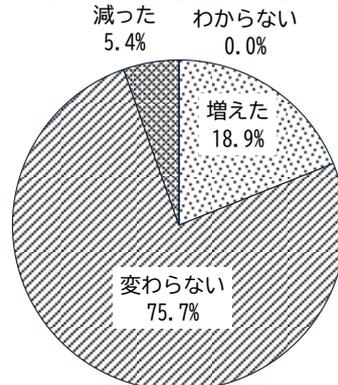


■店舗での地元産農産物の使用割合



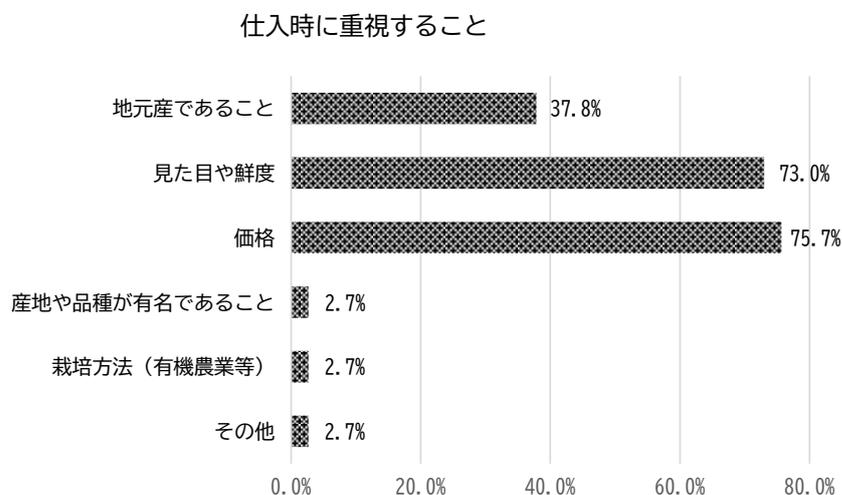
■5年前と比較した店舗での地元産農産物の使用傾向

5年前と比較した地元産農作物の使用傾向

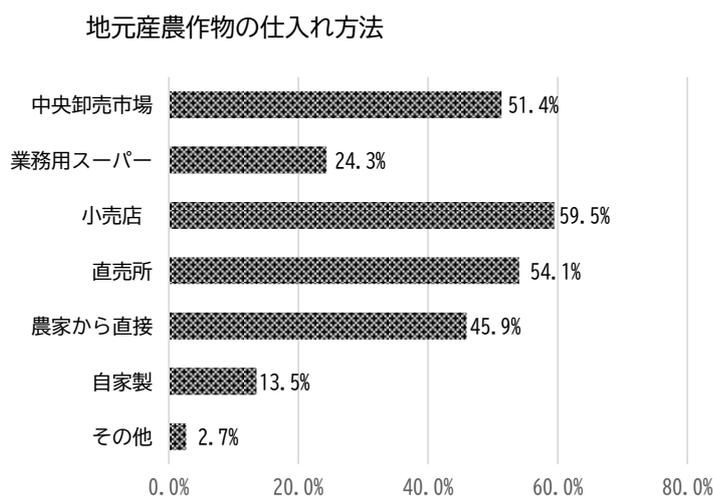


2. 農産物での仕入れについて

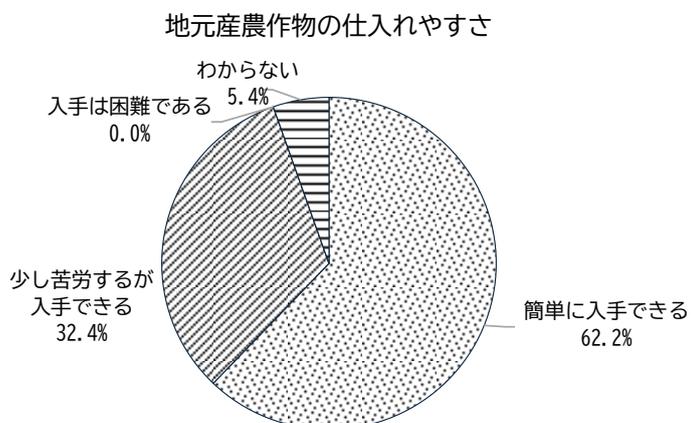
(1) 仕入時に重視すること（2つまで回答）



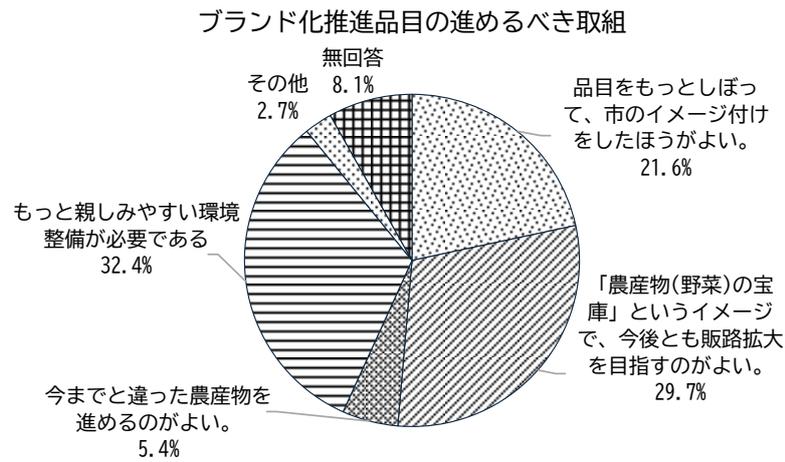
(2) 現在の地元産農産物の仕入れ方法（複数回答）



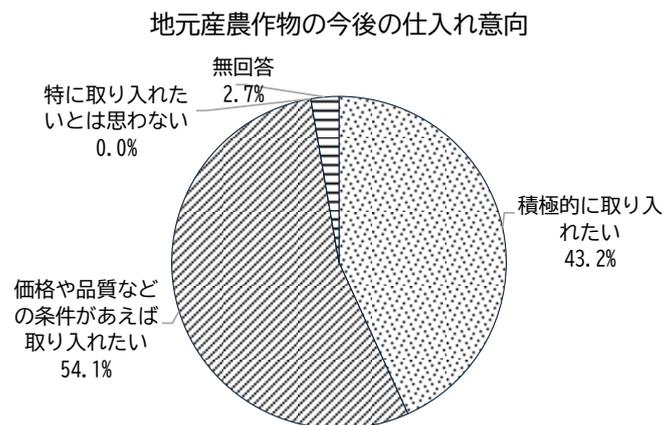
(3) 地元産農産物の仕入れやすさ



(4) ブランド化推進品目（23 品目）について進めるべき取組



(5) 地元産農産物の今後の仕入れ意向

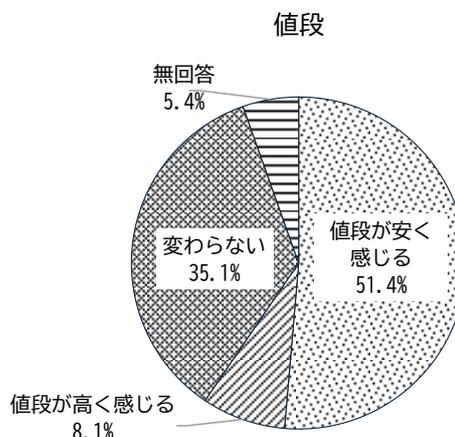
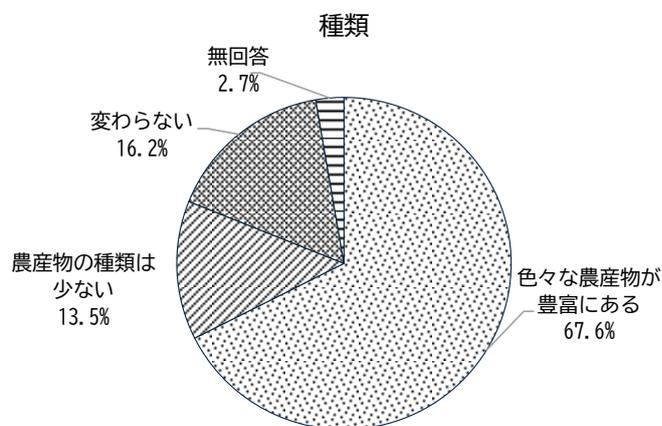


3. 農産物や農業に対する考え方

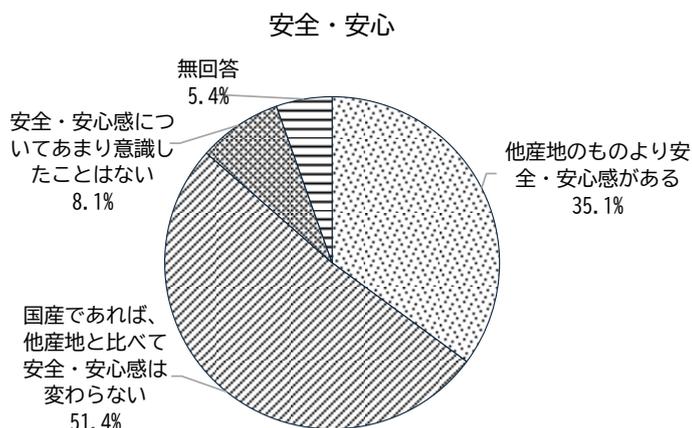
(1) 地元産の農産物に対するイメージや評価

■種類

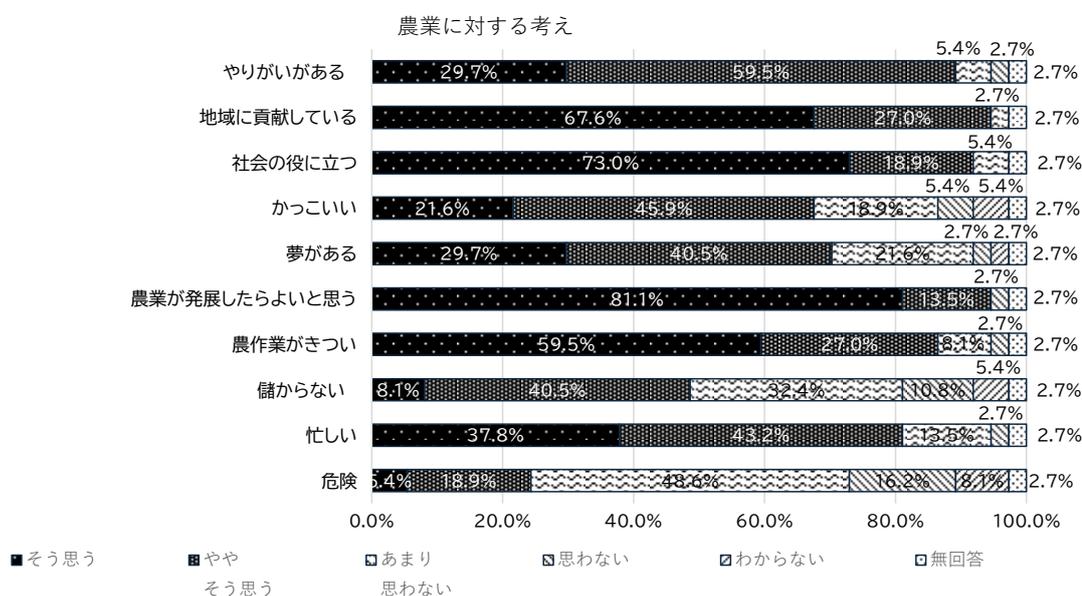
■値段



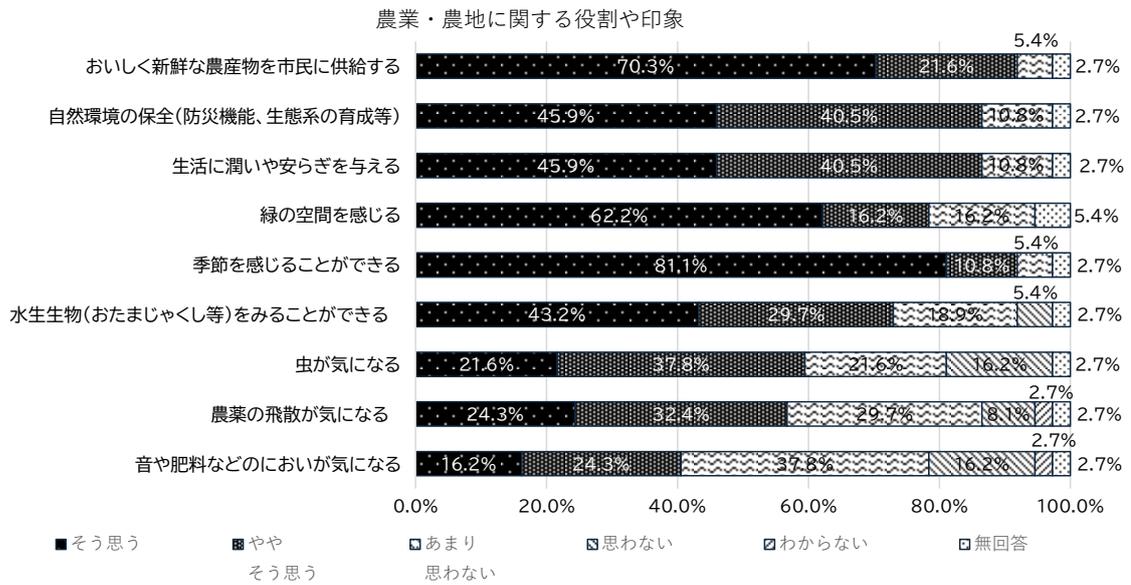
■安全・安心



(2) 農業に対する考え



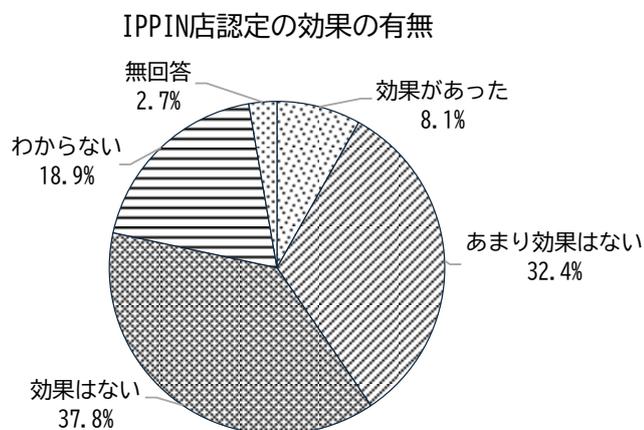
(3) 市内の農業・農地に関する役割や印象



4. IPPIN店の認定について

(1) IPPIN店として認定されていることの効果

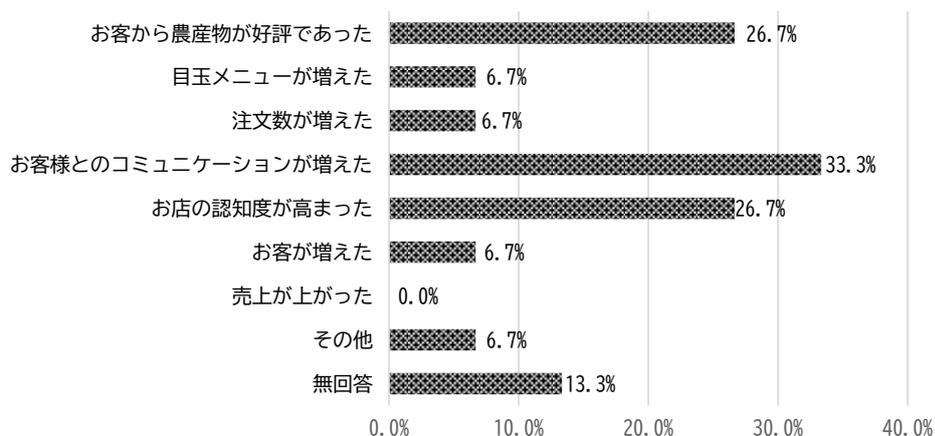
①効果の有無



②効果があった理由（複数回答）

※①で「効果があった」、「あまり効果はない」と回答した方（15店）が回答

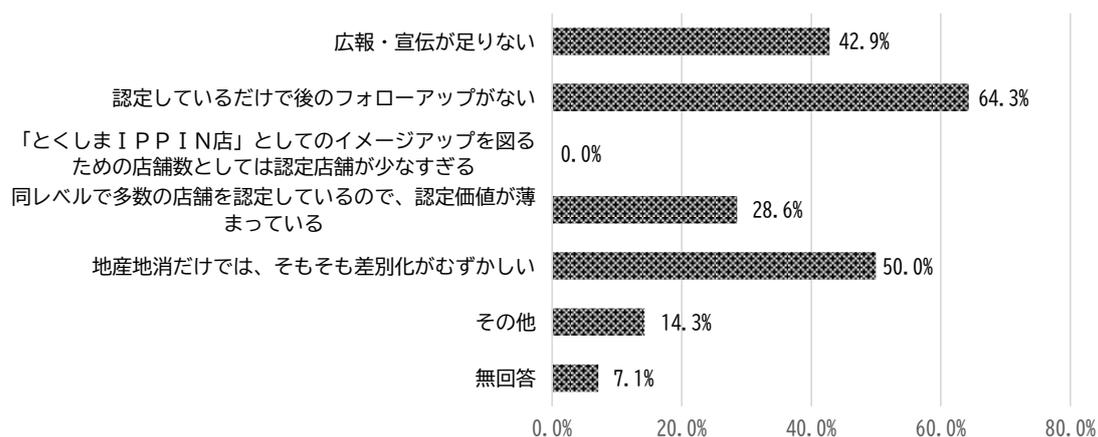
IPPIN店認定の効果があった理由



③効果がなかった理由（複数回答）

※①で「効果はない」と回答した方（14店）が回答

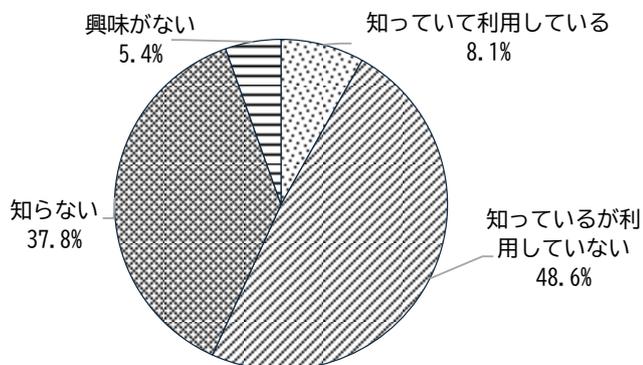
IPPIN店認定の効果がなかった理由



(2) 徳島市公式観光サイト「Fun!Fun!とくしま」での情報発信

①徳島市公式観光サイト「Fun!Fun!とくしま」インスタグラムにおいて、令和5年度から IPPIN 店の希望者にはお店の情報を発信していることに対する認知度

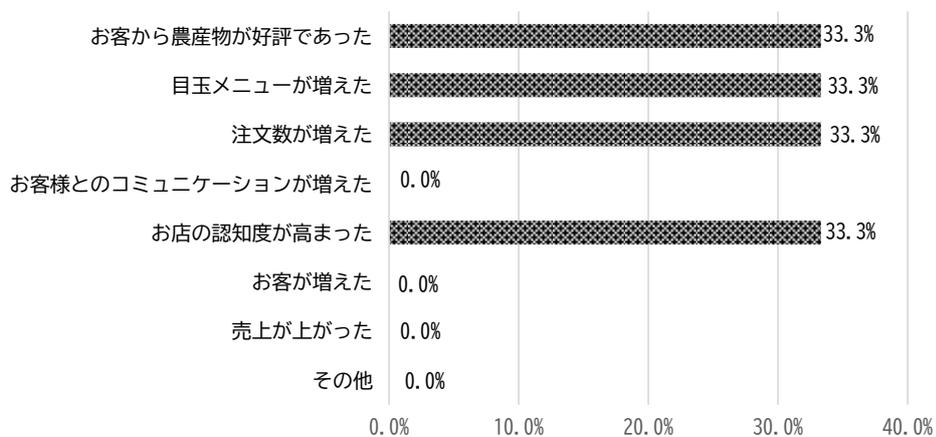
「Fun!Fun!とくしま」インスタグラムの認知度



②情報発信に関する効果

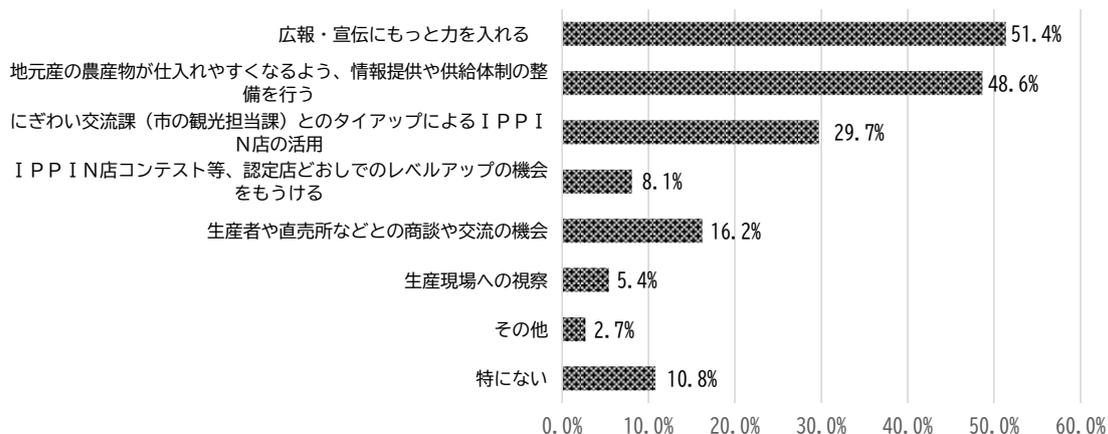
※①で「知っていて利用している」と回答した方（3店）が回答

Fun!Fun!とくしま」インスタグラムの情報発信に関する効果



(3) IPPIN 店として今後支援してほしいこと（複数回答）

IPPIN店として今後支援してほしいこと



(4) その他の意見・要望等（自由回答）

- ・ 高齢夫婦で経営しており、ゆっくり・長くを大事にしている。
- ・ 「農業を助けるため」と言うが、「農家の人が飲食店を助ける」と言う話は聞かない。お互いに助け合わなければやりがいもなく、適当でよいと思う。
- ・ お遍路周りで高地に立ち寄った際、お気に入りのJA施設「とさのさと」に行きます。「とさのさと」は県内の農産物、お花が種類も豊富にあり、安価で遅くまで補充されています。このような施設が徳島市にもあれば利用しやすく県内外に伝えられると思います。
- ・ 地産地消で徳島が笑顔になるように頑張してほしい。
- ・ 最近、自分はアプリをダウンロードしてもつようになりました（各飲食店（チェーン店）、銀行、会員カード（JAF）、お薬手帳などなど）。ほとんどがスマホです。IPPIN店もアプリがあれば認知度が上がり、お店も検索しやすくなるのではないかと思います。徳島について調べる時はいつも「あわわ」のアプリを開いています。

8. 対象者別の調査結果の比較

1. 農業に対する考え方・関心

(1) 農業に対する考え方

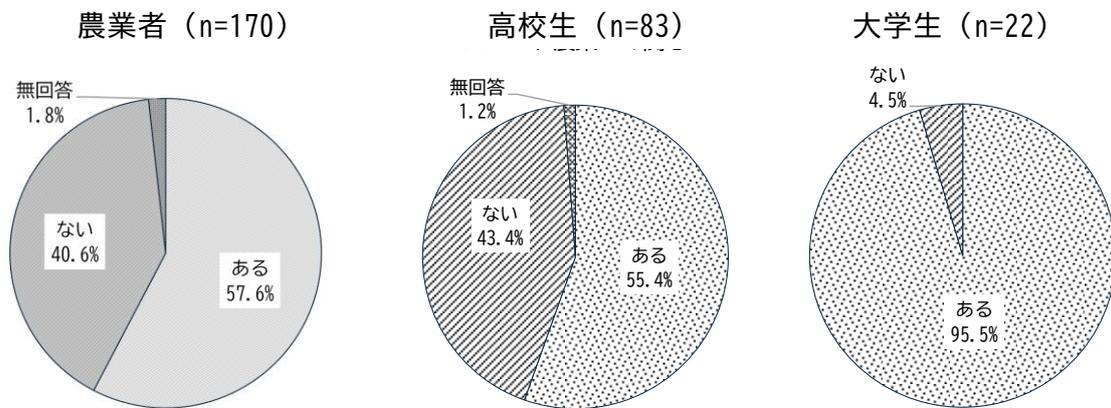
- 「農業者」はその他の対象者と比べて、農業が「儲からない」の割合が高くなっているとともに、「夢がある」、「カッコいい」の割合が低くなっている。
- 「農業者」や「農や食に関わる市民」はその他の対象者と比べて、農業に対して「地域に貢献している」、「社会の役に立つ」、「カッコいい」、「農作業がきつい」、「忙しい」の割合が低くなっている。

*農業者 (n=170)・高校生 (n=83)・大学生 (n=22)・市民全般 (n=175)・農や食に関わる市民 (n=46) 飲食店 (n=37)

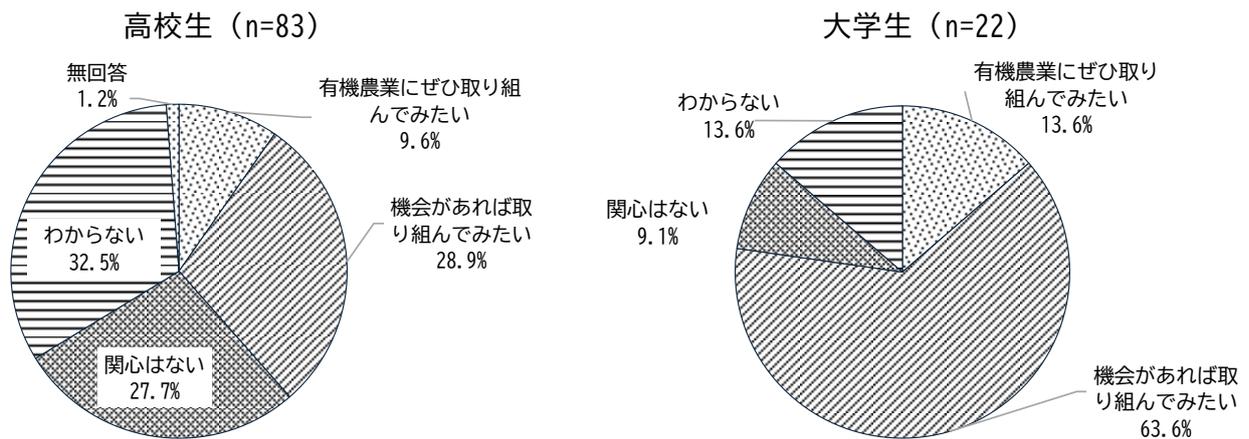
	農業者			高校生			大学生		
	そう思う	ややそう思う	合計	そう思う	ややそう思う	合計	そう思う	ややそう思う	合計
やりがいがある	36.5%	30.0%	66.5%	45.8%	42.2%	88.0%	54.5%	45.5%	100.0%
地域に貢献している	22.9%	32.4%	55.3%	62.7%	32.5%	95.2%	63.6%	36.4%	100.0%
社会の役に立つ	22.9%	34.1%	57.1%	55.4%	34.9%	90.4%	72.7%	22.7%	95.5%
カッコいい	5.9%	10.0%	15.9%	21.7%	28.9%	50.6%	13.6%	50.0%	63.6%
夢がある	12.9%	19.4%	32.4%	27.7%	36.1%	63.9%	40.9%	50.0%	90.9%
農業が発展したらよいと思う	52.4%	32.9%	85.3%	61.4%	32.5%	94.0%	77.3%	18.2%	95.5%
農作業がきつい	36.5%	36.5%	72.9%	50.6%	38.6%	89.2%	40.9%	54.5%	95.5%
儲からない	58.8%	24.7%	83.5%	7.2%	25.3%	32.5%	22.7%	31.8%	54.5%
忙しい	45.9%	31.2%	77.1%	51.8%	37.3%	89.2%	40.9%	45.5%	86.4%
危険	12.9%	29.4%	42.4%	16.9%	41.0%	57.8%	50.0%	40.9%	90.9%

	市民全般			農や食に関わる市民			飲食店		
	そう思う	ややそう思う	合計	そう思う	ややそう思う	合計	そう思う	ややそう思う	合計
やりがいがある	33.7%	36.0%	69.7%	56.5%	32.6%	89.1%	29.7%	59.5%	89.2%
地域に貢献している	59.4%	24.0%	83.4%	28.3%	28.3%	56.5%	67.6%	27.0%	94.6%
社会の役に立つ	63.4%	25.1%	88.6%	34.8%	17.4%	52.2%	73.0%	18.9%	91.9%
カッコいい	20.0%	33.1%	53.1%	8.7%	15.2%	23.9%	21.6%	45.9%	67.6%
夢がある	23.4%	30.9%	54.3%	26.1%	26.1%	52.2%	29.7%	40.5%	70.3%
農業が発展したらよいと思う	74.9%	18.9%	93.7%	63.0%	32.6%	95.7%	81.1%	13.5%	94.6%
農作業がきつい	60.0%	25.1%	85.1%	26.1%	43.5%	69.6%	59.5%	27.0%	86.5%
儲からない	27.4%	31.4%	58.9%	30.4%	17.4%	47.8%	8.1%	40.5%	48.6%
忙しい	49.7%	32.6%	82.3%	28.3%	37.0%	65.2%	37.8%	43.2%	81.1%
危険	12.0%	36.0%	48.0%	4.3%	17.4%	21.7%	5.4%	18.9%	24.3%

(2) スマート農業（ロボット・A I等の先端技術を活用した農業）への関心
 ○「大学生」は、「農業者」、「高校生」に比べて、スマート農業への関心が高い傾向にある。



(3) 有機農業への関心
 ○「大学生」は、「高校生」に比べて有機農業に取り組みたい割合が高い傾向にある。



2. 市内の農業・農地に関する関心・考え方

(1) 市内の農業・農地に関する役割や印象

- 「音や肥料などのおいが気になる」と思う人の割合は、「農や食に関わる市民」が最も低く、「高校生」や「大学生」は比較的高くなっている。
- 「生活に潤いや安らぎを与える」と思う人の割合は、「農業者」が最も低く、「高校生」や「大学生」は比較的高くなっている。

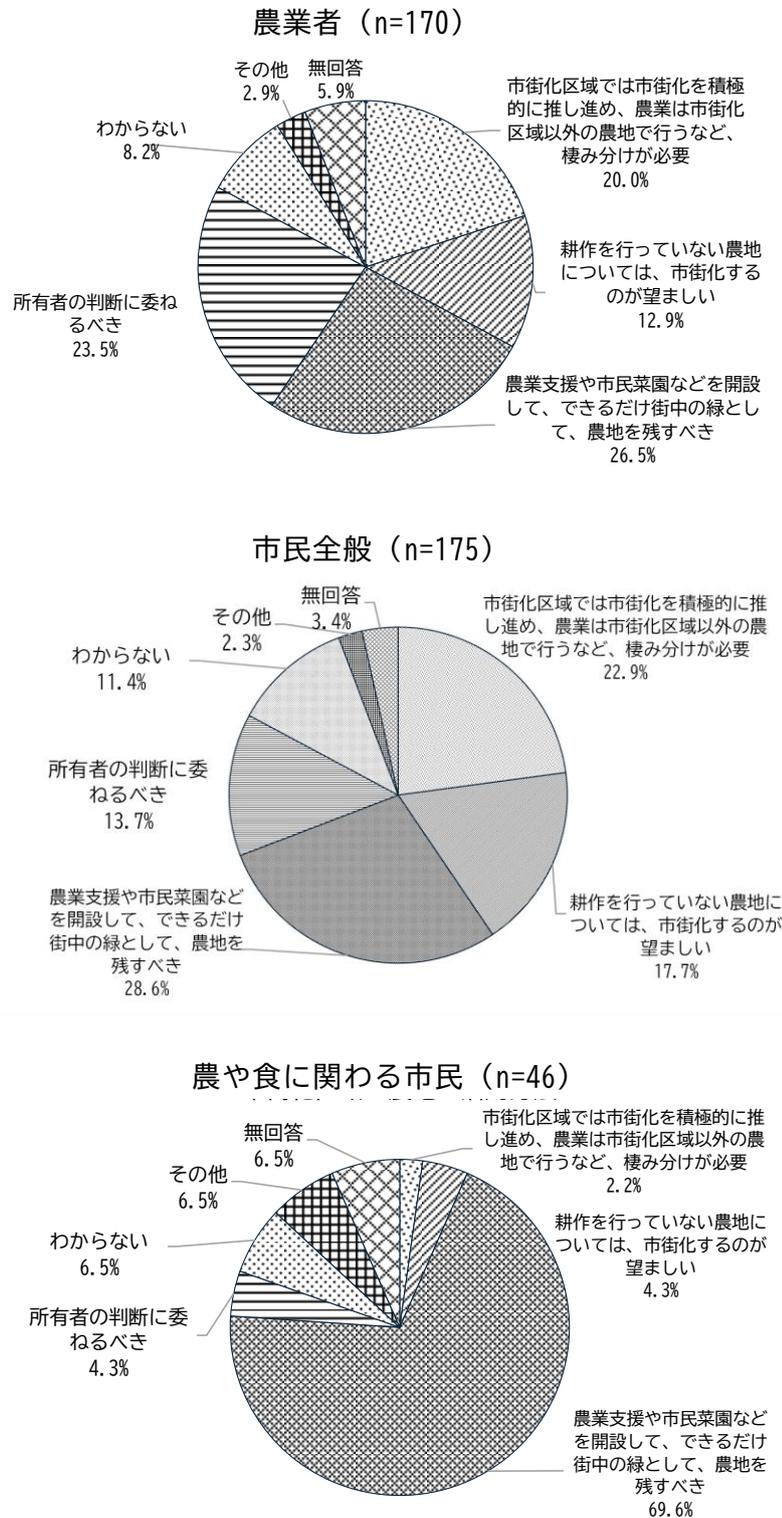
*農業者 (n=170)・高校生 (n=83)・大学生 (n=22)・市民全般 (n=175)・農や食に関わる市民 (n=46) 飲食店 (n=37)

	農業者			高校生			大学生		
	そう思う	ややそう思う	合計	そう思う	ややそう思う	合計	そう思う	ややそう思う	合計
おいしく新鮮な農産物を市民に供給する	57.1%	25.9%	82.9%	66.3%	30.1%	96.4%	50.0%	50.0%	100.0%
自然環境の保全（防災機能、生態系の育成等）	48.2%	27.1%	75.3%	54.2%	37.3%	91.6%	36.4%	63.6%	100.0%
生活に潤いや安らぎを与える	31.2%	32.4%	63.5%	50.6%	41.0%	91.6%	54.5%	36.4%	90.9%
緑の空間を感じる	41.2%	36.5%	77.6%	54.2%	33.7%	88.0%	59.1%	31.8%	90.9%
季節を感じることができる	45.3%	34.1%	79.4%	62.7%	26.5%	89.2%	63.6%	36.4%	100.0%
水生生物（おたまじゃくし等）をみることができる	31.8%	36.5%	68.2%	30.1%	33.7%	63.9%	50.0%	36.4%	86.4%
虫が気になる	32.4%	28.2%	60.6%	47.0%	28.9%	75.9%	36.4%	31.8%	68.2%
農業の飛散が気になる	25.3%	26.5%	51.8%	16.9%	33.7%	50.6%	27.3%	31.8%	59.1%
音や肥料などのおいが気になる	17.1%	32.9%	50.0%	25.3%	45.8%	71.1%	22.7%	59.1%	81.8%

	市民全般			農や食に関わる市民			飲食店		
	そう思う	ややそう思う	合計	そう思う	ややそう思う	合計	そう思う	ややそう思う	合計
おいしく新鮮な農産物を市民に供給する	53.1%	34.9%	88.0%	78.3%	13.0%	91.3%	70.3%	21.6%	91.9%
自然環境の保全（防災機能、生態系の育成等）	36.6%	33.7%	70.3%	45.7%	39.1%	84.8%	45.9%	40.5%	86.5%
生活に潤いや安らぎを与える	37.1%	33.1%	70.3%	54.3%	30.4%	84.8%	45.9%	40.5%	86.5%
緑の空間を感じる	39.4%	31.4%	70.9%	43.5%	34.8%	78.3%	62.2%	16.2%	78.4%
季節を感じることができる	50.3%	34.9%	85.1%	67.4%	10.9%	78.3%	81.1%	10.8%	91.9%
水生生物（おたまじゃくし等）をみることができる	28.6%	29.7%	58.3%	43.5%	23.9%	67.4%	43.2%	29.7%	73.0%
虫が気になる	30.9%	29.7%	60.6%	26.1%	28.3%	54.3%	21.6%	37.8%	59.5%
農業の飛散が気になる	17.7%	29.7%	47.4%	30.4%	30.4%	60.9%	24.3%	32.4%	56.8%
音や肥料などのおいが気になる	15.4%	33.7%	49.1%	13.0%	21.7%	34.8%	16.2%	24.3%	40.5%

(2) 市街化区域の農地の維持に向けて望ましい活用方法

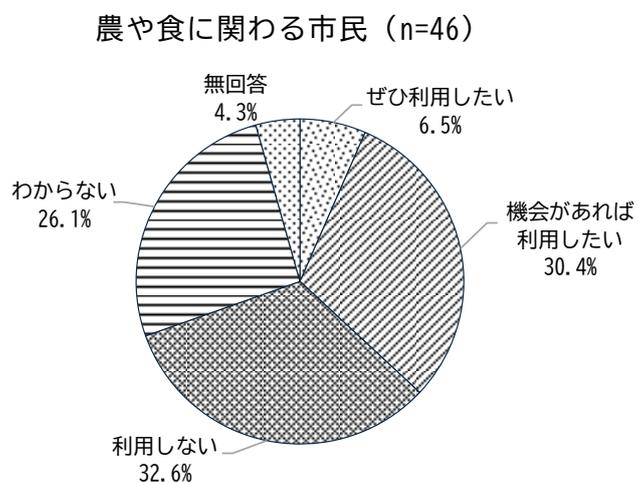
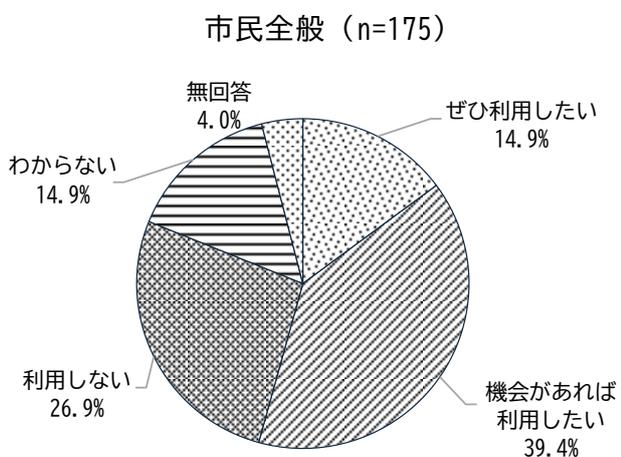
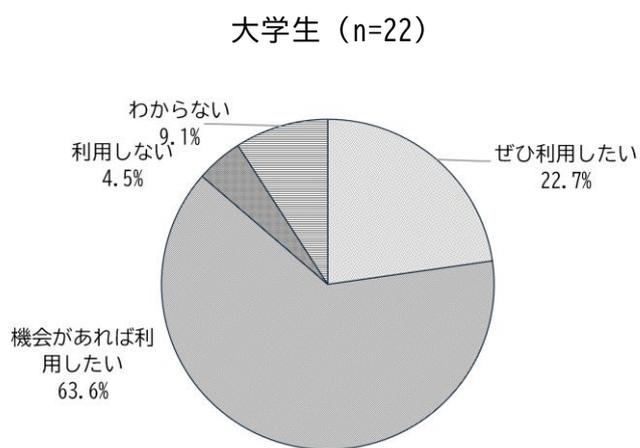
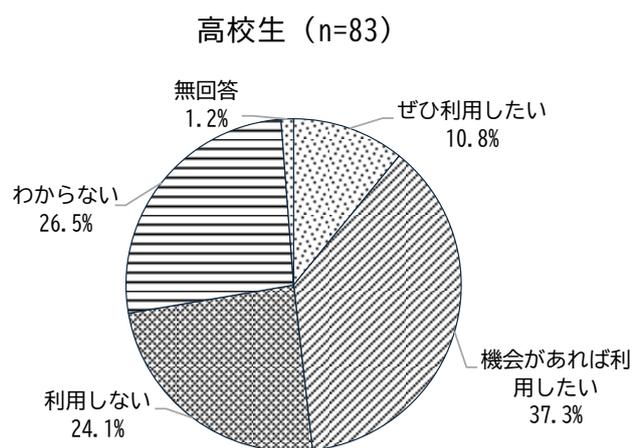
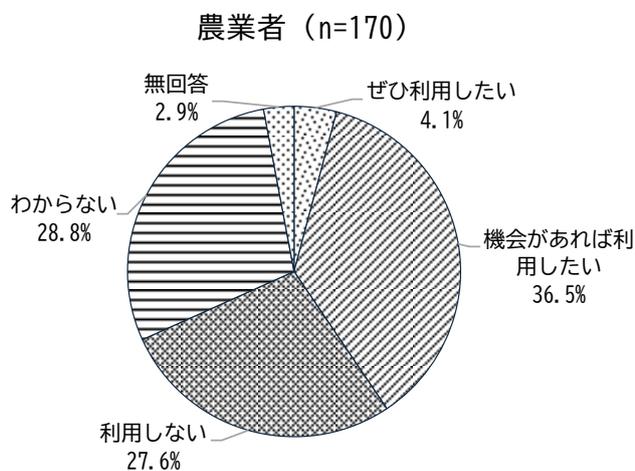
○「農や食に関わる市民」は「農業者」や「市民全般」よりも、市街化区域の農地の維持に向けた望ましい活用方法として「農業支援や市民菜園などを開設して、できるだけ街中の緑として、農地を残すべき」の割合が高くなっている。



3. 市内の農業・農地への関わり意向

(1) 市民等による営農ボランティア制度を創設した場合の利用意向

○「大学生」はその他の対象者よりも、利用意向が高くなっている。



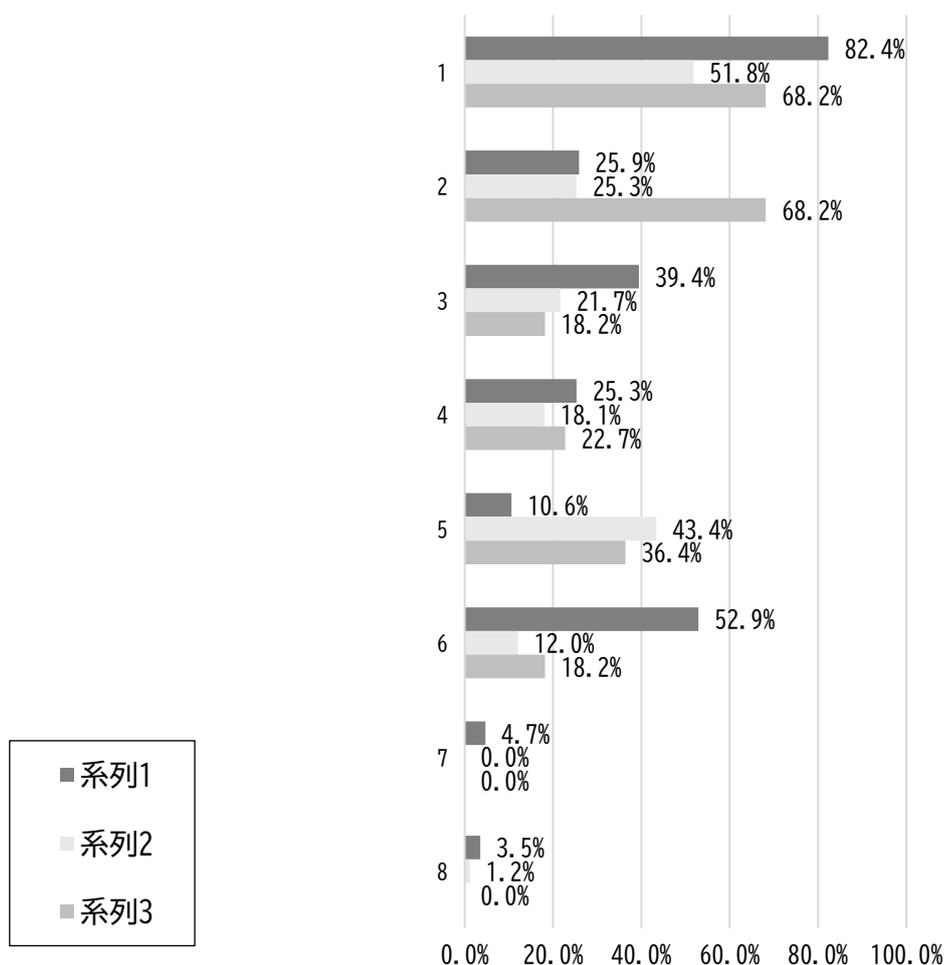
4. 市の農業振興に向けた取組

(1) 本市が新規就農者・農業後継者の育成に向けて必要なこと(3つまで回答)

- 「農業者」は「農業所得の向上と安定を図る」や「補助制度や融資の活用」、「農道、用排水路等の農業生産基盤を整備する」が、「高校生」や「大学生」と比べて非常に高くなっている。
- 一方で、「市民や子ども、若者等に対しPR活動を行い、農業のイメージを向上させる」の割合は、「農業者」が低く、「高校生」、「大学生」が高くなっている。

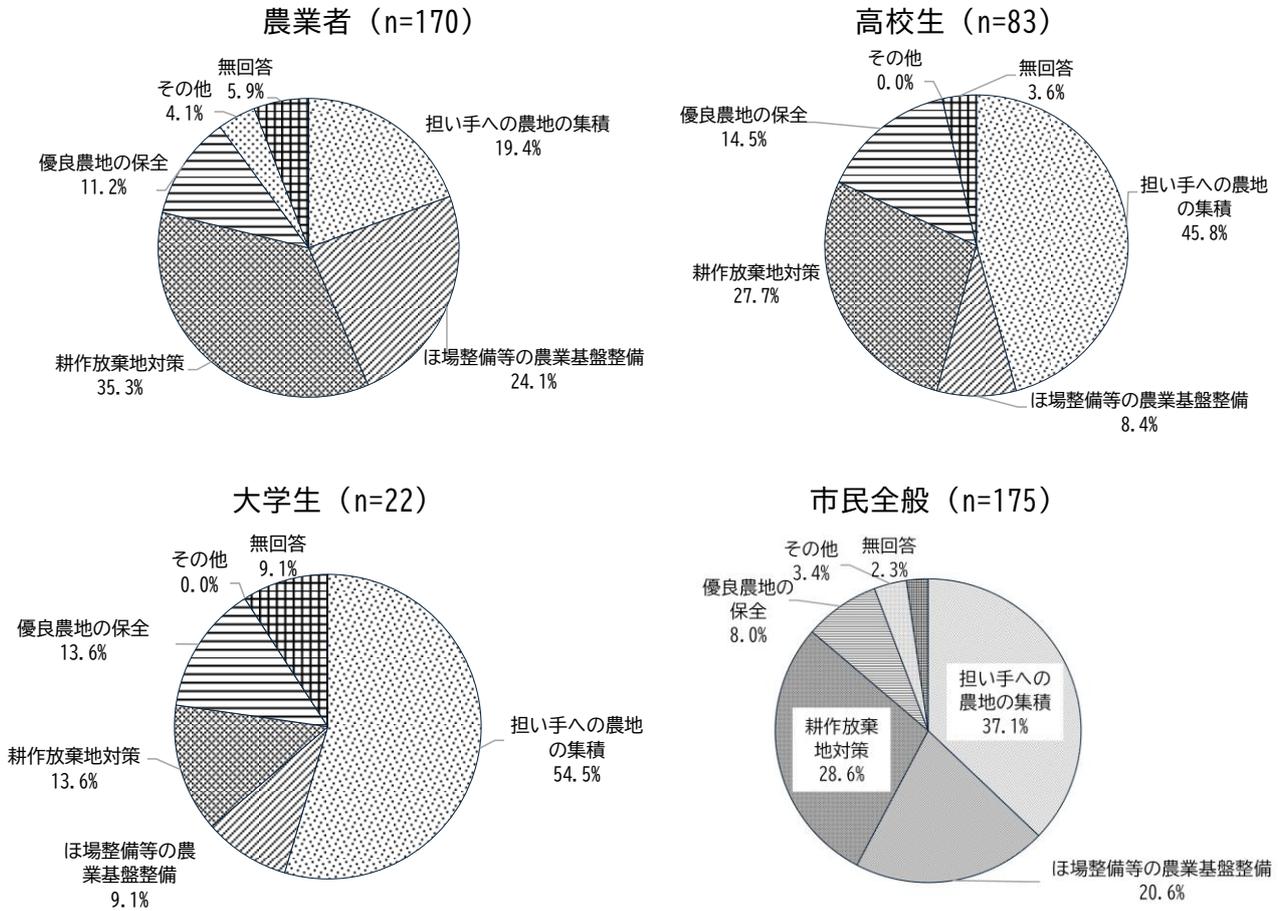
* 農業者 (n=170)・高校生 (n=83)・大学生 (n=22)

新規就農者・農業経営者の育成に向けて必要なこと



(2) 農地保全に向けて必要なこと

○「高校生」や「大学生」は「担い手への農地の集積」の割合が高く、「農業者」は「ほ場整備等の農業基盤整備」や「耕作放棄地対策」の割合が高くなっている。

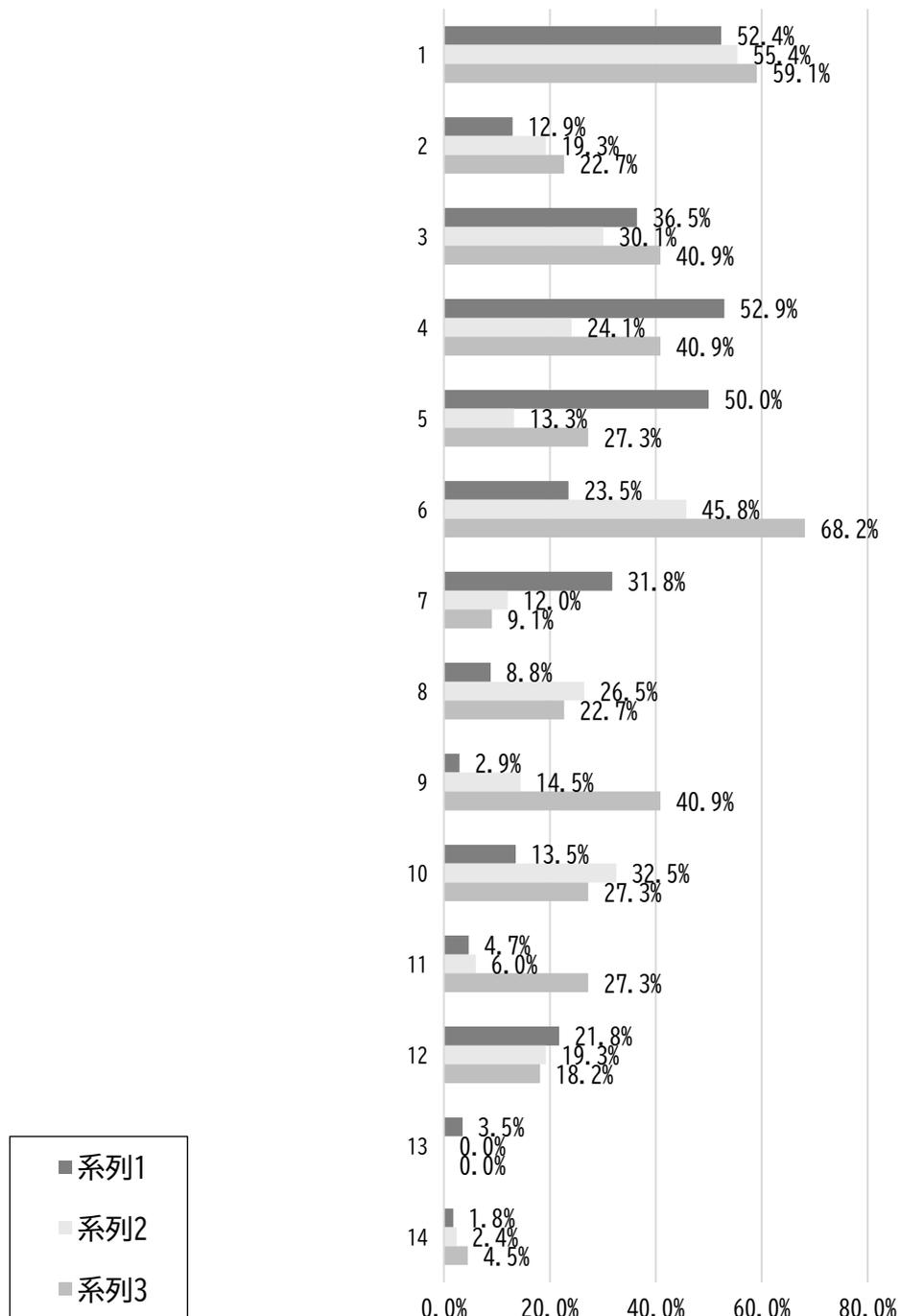


(3) 本市農業の今後の進むべき方向（複数回答）

○「農業者」は、「高校生」や「大学生」に比べて、「6次産業化や農商工連携等による販路拡大」、「市民農園・体験農園の充実」、「観光農園の推進」、「子どもの農業体験の推進」、「農園のオーナー制度の推進」の割合が低い一方で、「耕作放棄地対策の充実」や「鳥獣害対策の強化」は高くなっている。

* 農業者 (n=170) 高校生 (n=83) 大学生 (n=22)

本市農業の今後の進むべき方向



5. 農産物に対する考え方

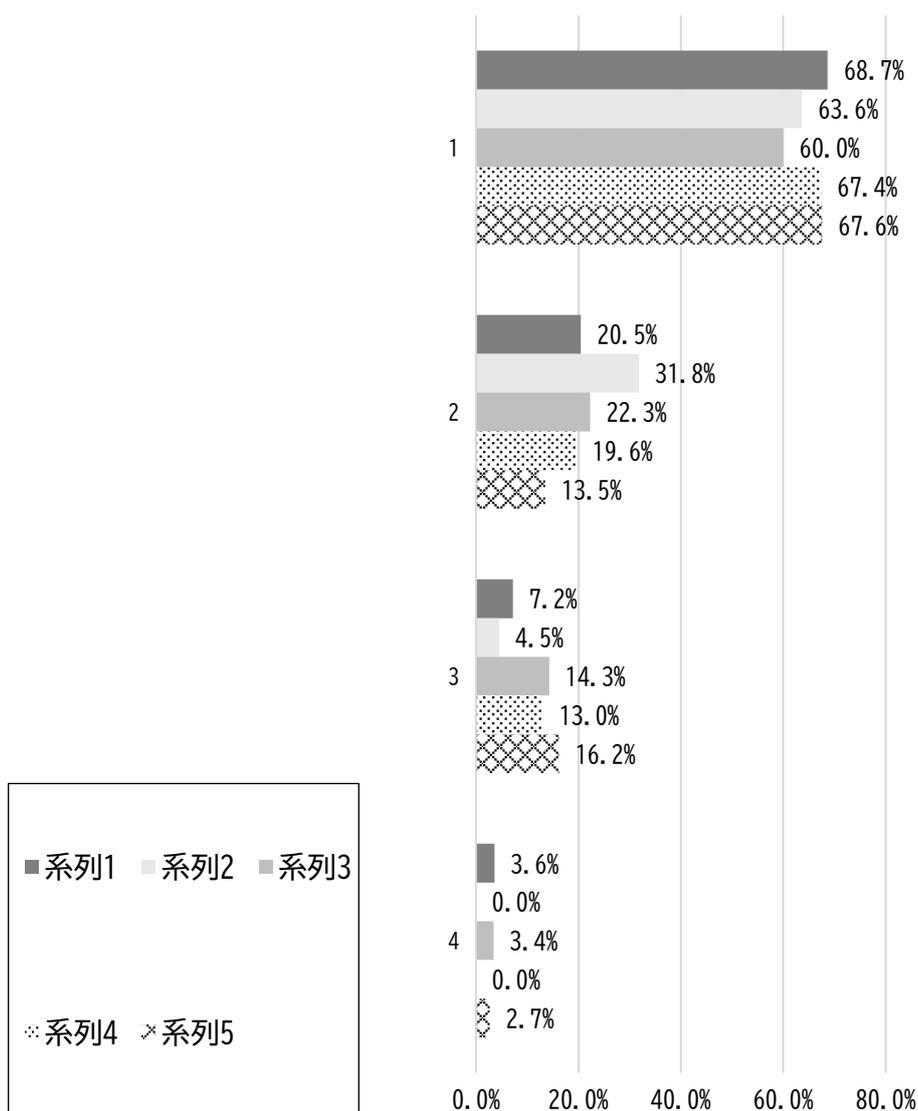
(1) 地元産の農産物に対するイメージや評価

①種類

○対象者によって大きな傾向差はない。

* 高校生 (n=83) ・ 大学生 (n=22) ・ 市民全般 (n=175) ・ 農や食に関わる市民 (n=46)
 ・ 飲食店 (n=37)

地元産の農産物に対するイメージや評価 (①種類)

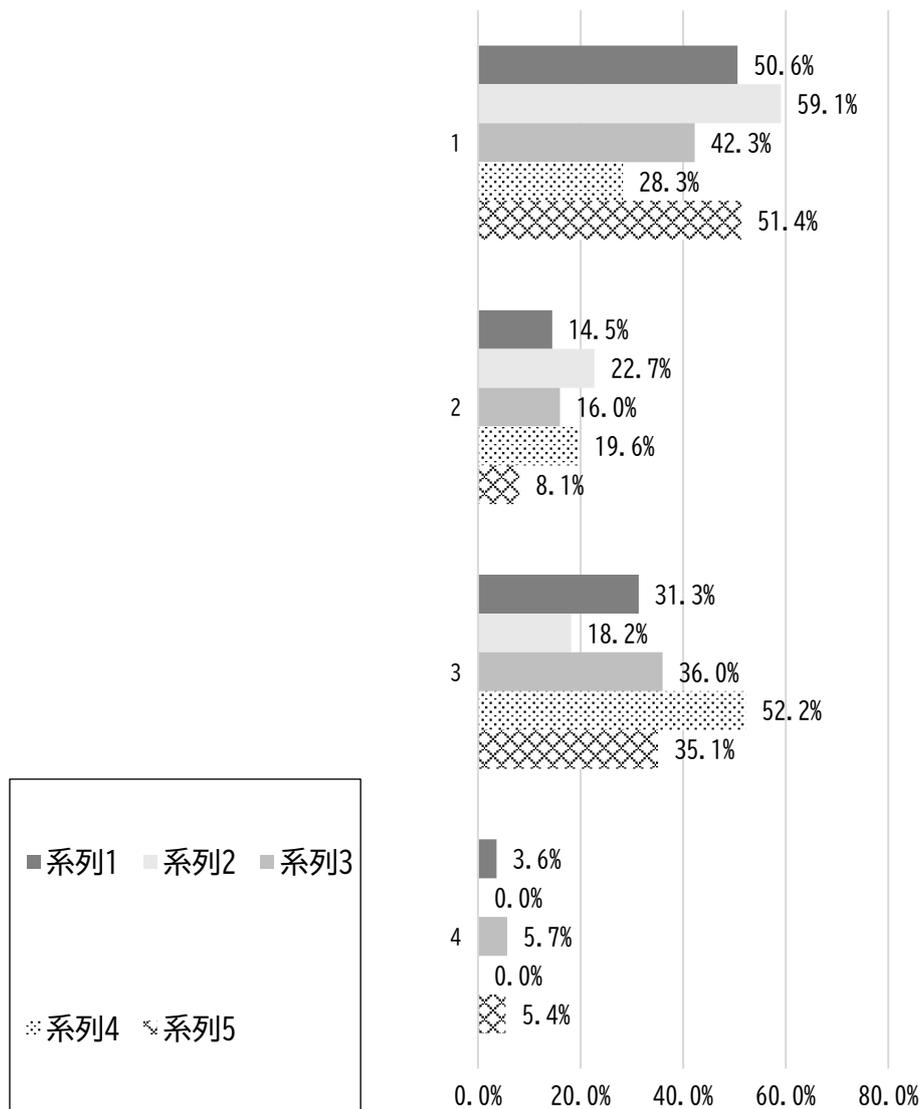


②値段

- 「農や食に関わる市民」は、その他の対象者より「値段が安く感じる」の割合が低く、「変わらない」の割合が高くなっている。
- 「飲食店」は、その他の対象者より「値段が高く感じる」の割合がやや低い。

* 高校生 (n=83) ・ 大学生 (n=22) ・ 市民全般 (n=175) ・ 農や食に関わる市民 (n=46)
 ・ 飲食店 (n=37)

地元産の農産物に対するイメージや評価 (②値段)

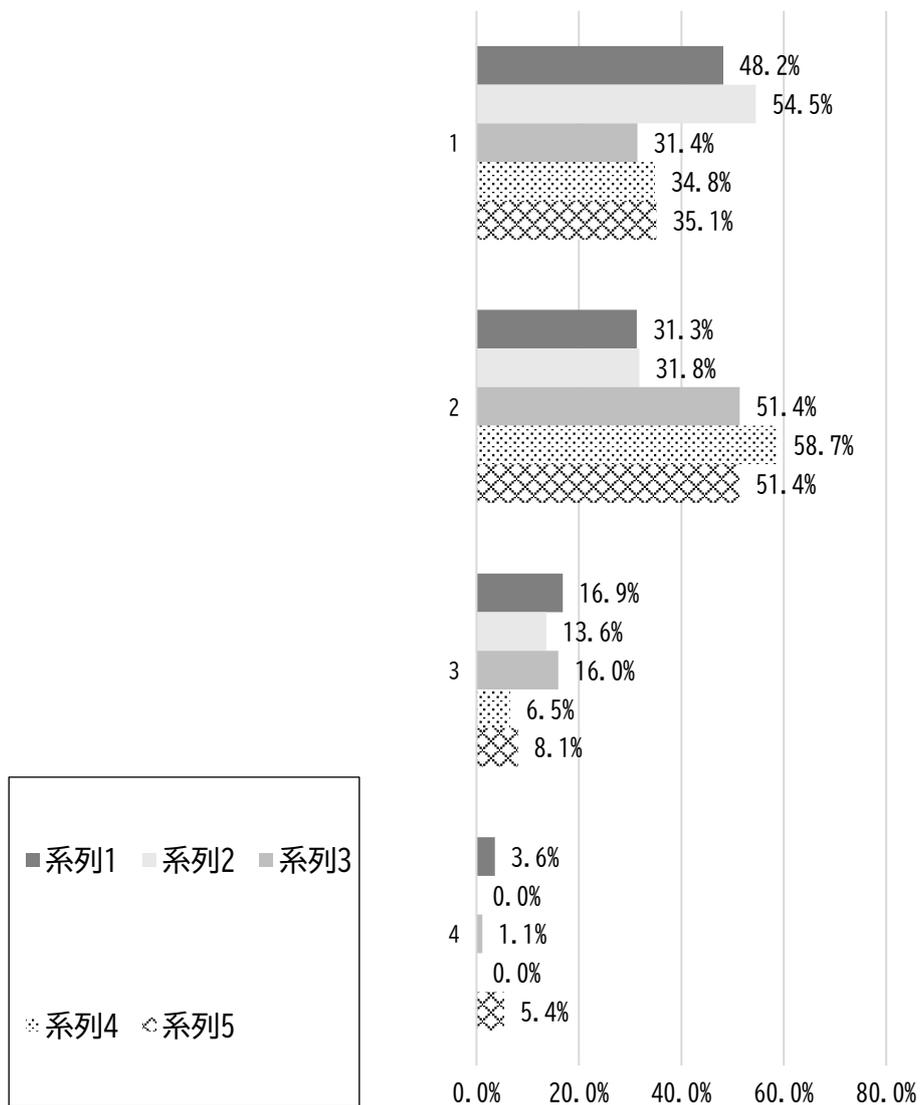


③安全・安心

○「市民全般」、「農や食に関わる市民」、「飲食店」は、「高校生」や「大学生」よりも、「国産であれば、他産地と比べて安全・安心感は変わらない」の割合が高くなっている。

*高校生（n=83）・大学生（n=22）・市民全般（n=175）・農や食に関わる市民（n=46）
・飲食店（n=37）

地元産の農産物に対するイメージや評価（③安全・安心）

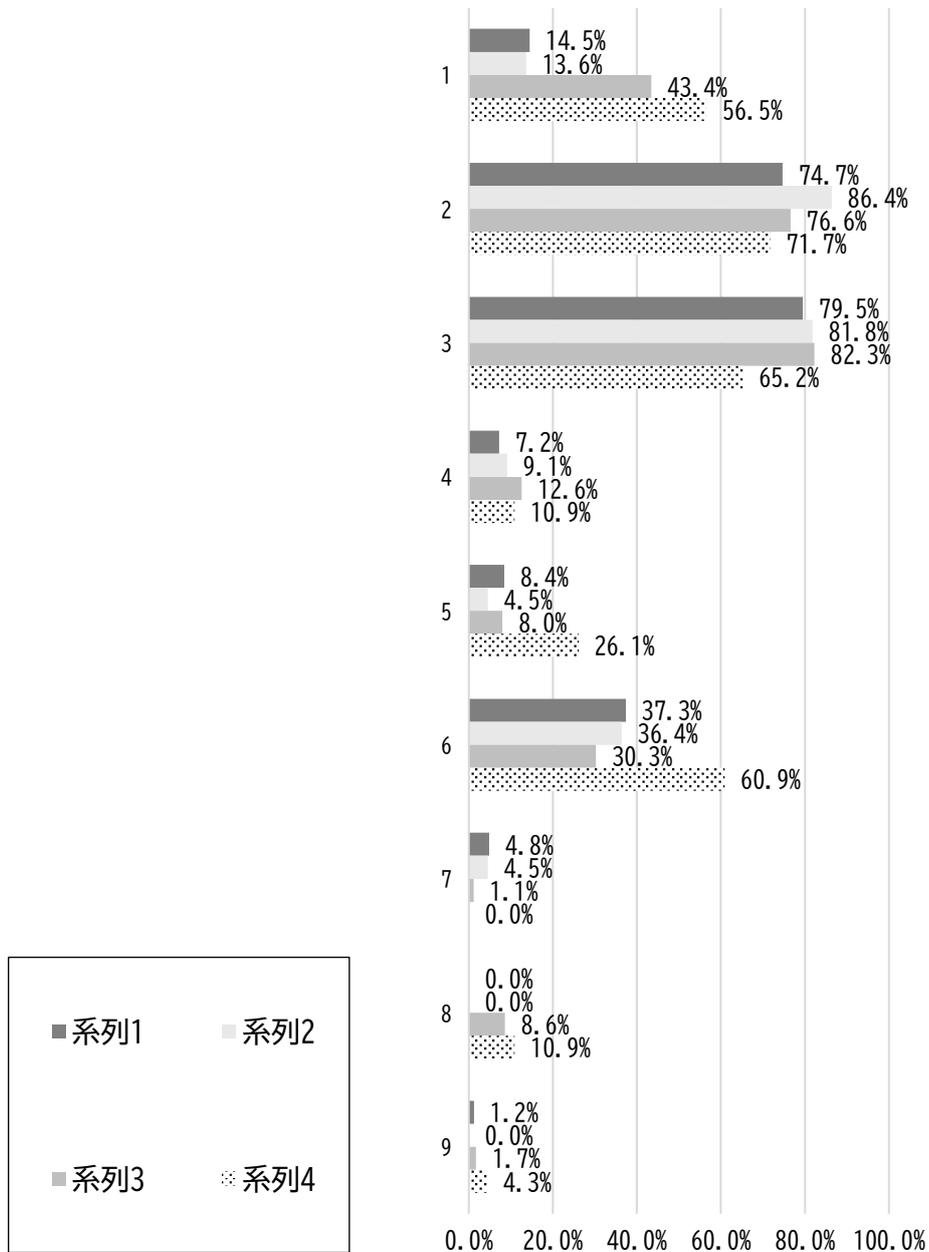


(2) 農産物の購入時に最も重視すること（複数回答）

- 「高校生」や「大学生」は、「市民全般」、「農や食に関わる市民」よりも、「地元産」との割合が低くなっている。
- 「農や食に関わる市民」は、その他の対象者よりも、「栽培方法（有機等）」や「安全性・安心感」の割合が高くなっている。

* 高校生（n=83）・大学生（n=22）・市民全般（n=175）・農や食に関わる市民（n=46）

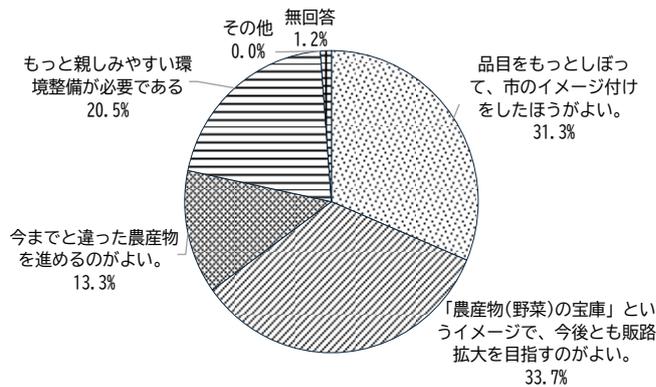
農産物の購入時に最も重視すること



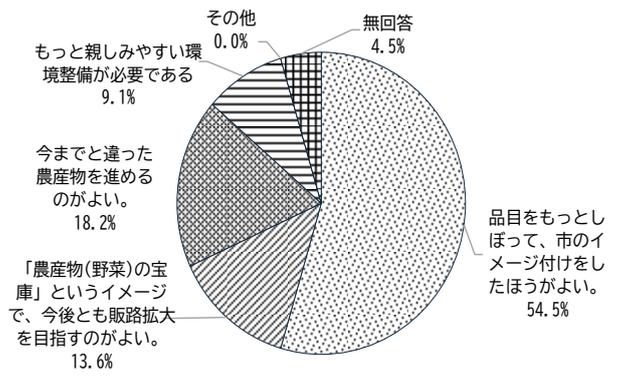
(3) ブランド化推進品目 (23 品目) について進めるべき取組

- 「大学生」は、「品目をもっとしぼって、市のイメージ付けをしたほうがよい」の割合が高くなっている。
- 「農や食に関わる市民」は、「もっと親しみやすい環境整備が必要である」の割合が高くなっている。

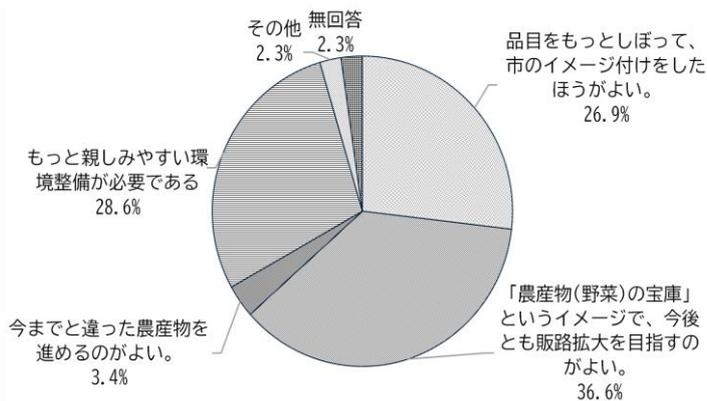
高校生 (n=83)



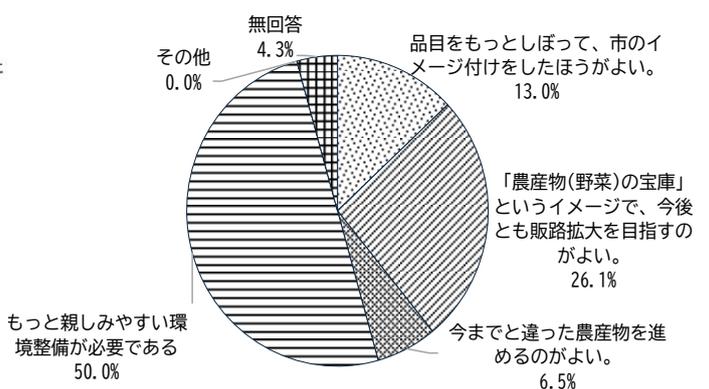
大学生 (n=22)



市民全般 (n=175)



農や食に関わる市民 (n=46)



飲食店 (n=37)

